

知ヲ爲サル場合ニ於テ子ヨリ之カ認知ヲ求ムルコトヲ得可キ規定アラサリ
 シナリ佛民法(第三百四十條)カ私生子ニ父ノ搜索權ヲ認メサルハ其舊法ニ於テ
 之ヲ認許シ其舉證ノ方法トシテ母カ其分娩ノ際爲シタル陳述ヲ以テ最モ強キ
 モノト爲シタルヨリ母カ多數ノ男子ニ接シタル者ナルトキハ其分娩ノ際或ハ
 最モ富裕ナル者ヲ其子ノ父ト稱シ或ハ名譽アル者ヲ其子ノ父ナリト指定スル
 ニ至リ其弊害ノ甚シキヲ以テ私生子ノ父ノ搜索ハ絶對ニ之ヲ禁シタレトモ是
 レ法律上其立證方法トシテ採用シタルモノ宜シキヲ得サルニ出テタル弊害ニ
 シテ父ノ搜索ヲ爲スコトヲ許シタルヨリ生シタル弊害ニ非サルナリ而シテ父
 ニ對シテハ母ニ對スルヨリ立證上困難ナルニ止マリ其認知ヲ求ムルコトニ付
 キ父ト母トノ間ニ區別ヲ立ツ可キ理ナク父ニ對シテモ其證據ヲ舉ケタル以上
 ハ父ノ搜索ヲ許スハ毫モ弊害アルヲ見サルナリ加之ナラス子ノ利益ヲ保護ス
 ル爲メ當然ノ規定ト云ハサル可カラズ
 此訴權ヲ有スル者ハ子直系卑屬又ハ其法定代理人ニ限ル而シテ子ノ外其直系
 卑屬ニ之ヲ與ヘタルハ蓋シ子カ死亡シタル後ハ其直系卑屬カ之ヲ請求スルコ

トヲ得ルモノトセサルトキハ此等ノ者ニ於テ認知ヲ求ムルノ道ナクレハナ
 リ
 茲ニ一ノ疑問アリ嫡出子ハ父母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得可キヤ本條ハ
 庶子及ヒ私生子ノ欸下ニ在ルカ故ニ庶子又ハ私生子カ父又ハ母ニ對シテ認知
 ヲ求ムルヲ得可キコトヲ規定シタルニ止マリ嫡出子ニ關セサルナリ而シテ嫡
 出子ニ付テハ之ヲ規定シタル前欸(第八百二十條乃至第八百二十六條)ニハ本條
 ノ如キ規定ナキカ故ニ嫡出子ハ父母ノ認知ヲ求ムルヲ得サルカノ疑問生ス可
 シ而シテ婚姻中ニ懐胎シタル子(嫡出子)ト雖トモ父又ハ母カ其届出ヲ爲サス若
 クハ事實ヲ詐リ他人ノ子トシテ届出ヲ爲スコトナシトセス此ノ如キ場合ニ於
 テハ其届出ヲ爲ス可キ父又ハ母ハ戶籍法第二百十條第二百十一條若クハ第二
 百十五條ニ依リ過料又ハ重禁錮ニ處セラル可キモノニシテ届出ヲ爲ス可キ者
 ニハ罪過アレトモ其子ニハ毫モ咎ム可キ所ナク且ツ正當ノ婚姻外ニ於テ生マ
 レタル庶子又ハ私生子サヘ認知ヲ求ムルコトヲ得可キニ正當ノ婚姻ニ於テ生
 マレタル嫡出子カ認知ヲ求ムルコトヲ得サル可キ道理ナキヲ以テ本條ヲ援用

シ嫡出子モ父母ノ認知ヲ求ムルコトヲ得可キモノト論セサル可カラス
嫡出子タル身分ノ取得(第八百三十六條) 庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子
タル身分ヲ取得ス

婚姻中父母カ認知シタル私生子ハ其認知ノ時ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得ス
前二項ノ規定ハ子カ既ニ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス(人事編第百三條乃至第
百五條)

元來嫡出子ト其他ノ子トノ差異ハ其父母ノ間ニ正當ノ婚姻アリテ生マレタル
ト否トニ在リ故ニ嫡出子ニ非サル子即チ庶子又ハ私生子ト雖トモ其出生後ニ
至リ其父母タル者ノ間ニ正當ノ婚姻アリタルトキハ父母ハ其野合ノ過失ヲ之
ニ因リテ補修シタルヲ以テ法律力之ニ恩典ヲ與ヘ其懐胎ヲ以テ適法ノ懐胎ト
看做シ而シテ父母ノ過失ノ結果ヲ罪ナキ子ニ及ホサ、ラシムルハ極メテ至當
ノ處置ナリ然ラサレハ同一ノ父母ノ間ニ生マレタル子ニシテ婚姻前ニ生マレ
タルモノハ私生子トシ婚姻後ニ生レタル子ハ之ヲ嫡出子トシ先キニ生マレタ
ル者ノ權利ハ却テ後チニ生マレタル者ノ權利ニ劣ルニ至ル此ノ如キハ不倫タ

ルノ感ナキニ非サルナリ故ニ法律ハ私生子ニ父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル
身分ヲ取得セシムルコト、セリ

法律ハ私生子カ嫡出子タル身分ヲ取得スル二種ノ場合ヲ認メタリ即チ其一ハ
父母共ニ婚姻前ニ認メタル子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル場合(第一項)
他ノ一ハ婚姻前ニ父母共ニ其子ヲ認知セス又ハ其孰レカ一人カ之ヲ認知セサ
ルモ其婚姻後之ヲ認知スルトキハ其時ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得スル場合(第
二項)是レナリ

右第一ノ場合即チ父母共ニ婚姻前ニ認知シタル場合ニ於テ嫡出子タルノ身分
ハ婚姻ノ日ヨリ之ヲ取得シ其第二ノ場合即チ婚姻中ニ父母カ認知シタル場合
ニ於テハ其認知ノ時ヨリ之ヲ取得シ而シテ第二ノ場合ニ於テハ其效力既往ニ
遡及スルコトアラサルナリ例之ヘハ婚姻ノ當時未タ認知セラレサル齡十歳ノ
男子(甲)ト其當時既ニ父母ノ認知ヲ得タル五歳ノ男子(乙)アリトセンニ此場合ニ
於テ甲ハ乙ヨリ年長ナレトモ父ヲ相續スルニ當リ第九百七十條第四號ノ規定
ニ從ヒ其順位乙ニ劣レリ而シテ又婚姻後更ニ一人ノ男子(丙)出生シタリトスレ

ハ丙ハ其相續ノ順位ニ付キ乙ニハ劣レトモ甲ニハ優レリ若シ此場合ニ婚姻中ニ認知セラレタル甲カ婚姻ノ始ニ遡リテ嫡出子タル身分ヲ有スルコト、スルトキハ他ノ嫡出子即チ乙丙ノ權利ヲ害スルニ至リ第八百三十二條但書ノ精神ト背馳スルヲ以テ此場合ニ於ケル嫡出子タル身分ノ取得ハ認知ノ時ヨリ效力ヲ有スルコト、シタルナリ

以上ハ子カ生存セル場合ニ關スレトモ子カ死亡ノ後其子又ハ孫ノ存スル場合ニ於テハ其子又ハ孫ニモ亦同一ノ利益ヲ受ケシメサル可カラス(第八百三十一條第二項、第八百三十五條)是ヲ以テ法律ハ父母カ認知シタル私生子ハ父母ノ婚姻ノ當時ニ在リテハ既ニ死亡シ其子又ハ孫ノミ存スルトキ父母ノ婚姻ノ結果其子又ハ孫ハ當然嫡出ノ孫又ハ曾孫タル身分ヲ取得スルコト、シ又父母ノ婚姻ノ後既ニ死亡シタル子ノ子又ハ孫ノ爲メニ認知ヲ爲シタルトキハ其時ヨリ其子又ハ孫ハ父母ノ嫡出ノ孫又ハ曾孫タル身分ヲ取得スルコト、シタリ

第二節 養子

養子トハ他人ノ子ヲ收養シテ己ノ子ト爲シ之ト親子ノ關係ヲ生スルモノナルカ養子制度ノ存廢ニ付テハ學說及ヒ立法例固ヨリ一ニ歸セス佛、伊諸國ノ如キハ現今法律上養子制度ヲ認許スト雖モ人民ノ之ヲ實行スルコト極メテ寡シ又英米諸國ニ於テハ法律上養子ナル者ヲ公認セスシテ全ク之ヲ人民ノ德義ニ一任セリ吾邦ニ於テハ家族制度ヲ採リ家ヲ以テ社會ノ基礎ト爲スニ依リ養子制度ノ必要ヲ感スルコト殊ニ甚シクシテ古來ヨリ此制度ヲ認メタリ維新前ニ於ケル武士ノ如キハ實子(男)ナク亦養子(男)ナクシテ死亡シタルトキハ其扶持召上ケラレ武士トシテノ家ハ廢滅スルニ至リ武士ハ他ノ農工商等ニ比シ養子ノ必要ナリシコト言フテ俟タサルナリ而シテ養子制度ハ近來益々其弊多キカ爲メ寧ロ之ヲ禁スルヲ可トスルノ論者ナキニアラスト雖モ苟モ家族制度ノ存スル以上ハ之ヲ禁スルコト困難ナルノミナラス縱令ヒ之カ爲メ弊害アルコトヲ認ムルトモ現今盛ニ行ハル、所ノモノヲ俄カニ廢止セントスルトキハ人民ヲシテ不自由ヲ感セシメ策ノ得タルモノニ非ス是ヲ以テ法律ハ養子ニ關スル弊害ハ規定ヲ設クテ可及的之ヲ矯正シ依然養子ノ制ヲ存シタリ

本節ヲ分チテ四款ト爲ス第一款縁組ノ要件第二款縁組ノ無効及ヒ取消第三款縁組ノ效力第四款離縁是レナリ

第一款 縁組ノ要件

養子縁組ノ要件ハ之ヲ實質上ノ要件及ヒ形式上ノ要件ニ分ツコトヲ得
養子縁組ノ實質上ノ要件ハ縁組當事者ノ意思表示、縁組ノ能力及ヒ或ル者ノ同意ヲ要スルコト是レナリ形式上ノ要件トハ縁組ヲ爲スニ付キ要スル方式是レナリ

縁組ノ實質上ノ要件 (一) 第八百三十七條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲ス

コトヲ得(人事編第六條)

外國ノ立法例ニ依レハ其多數ハ養子制度ヲ以テ實子ナキカ將タ之ヲ失ヒタル者ヲ憫ムノ趣旨ニ基クモノトシ從テ通常實子ヲ舉クルコト能ハサル年齢ニ達シタル者ノミヲシテ養子ヲ爲スコトヲ得セシムル主義ニ基キ四十歳乃至六十歳ノ年齢ニ達セサレハ養子ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ通例ト爲スモノ、如シ然レトモ吾邦ニ於テハ固ヨリ單ニ實子ナキ者ヲ憫ミテ養子制度ヲ認ムルニ至

リタルモノニ非サレハ外國多數ノ立法例ノ如ク縁組ノ要件トシテ殊更ニ養親ノ年齢ヲ高クスルコトヲ要スル理ナシ而シテ從來ノ慣習ニ於テ早ク養子ヲ爲スコトヲ認メタリ徳川時代ニ於テハ其箇條中ニ……當人幼少ナリトモ存命ノ内ニ養子ヲ願フニ於テハ長年ノ者タリトモ相續申付不苦候事トアリテ養親ノ年齢ニ制限ヲ設ケサレトモ縁組ハ一身一家ニ取リテ重大ナル關係ヲ有スルモノナレハ未タ成年ニ達セサル者ヲシテ隨意ニ養子ヲ爲スコトヲ得セシムルカ如キハ頗ル危険ニシテ立法上其當ヲ得タルモノト云フヲ得ス是ヲ以テ法律ハ養親力成年ニ達セサレハ養子ヲ爲スコトヲ得サルモノトシタリ
曩キニ説キタルカ如ク從來養子ナル語ハ男子ノ他人ニ收養セラルハ者ノミヲ指稱シ女子ニ付テハ別ニ養女ナル語ヲ用ヒシト雖トモ本法ニ於テハ男女ノ間ニ別ニ用語ヲ異ニセス養子ナル語ノ中ニ男女ヲ包含セシメタルヲ以テ他ノ女子ヲ收養スル場合ニモ養子ト稱スルコトニ注意セサル可カラズ
家族制度ヲ探レル國ニ於テハ家ヲ重ンスルカ故ニ戸主ニ子ナキ場合ニ於テハ養子ヲ爲スコトヲ必要トスト雖モ本法ニ於テ養子ヲ認ムルハ必スシモ家督相

續ノ必要ノミニ止マラサルヲ以テ養子ヲ爲ス者ハ戸主ニ限ラサルナリ故ニ家族ト雖モ成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得可シ是レ第八百三十九條ニ於テ家督相續人タル男子アル場合ニ於テモ其外女婿ト爲ス爲メニ養子ヲ爲スコトヲ得可キ旨ヲ規定シ又第七百五十條ニ於テハ家族カ養子ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要シ若シ家族カ右ノ規定ニ違反シテ養子ヲ爲シタル場合ニ於テハ其家族ハ離籍セラレ養子ハ養親ニ從ヒテ其家ニ入ル可キコトヲ規定スル所ニ依リ法律カ認ムル所ナルコト明カナリ而シテ養子ヲ爲ス者カ既ニ婚姻ヲ爲シタルト否トヲ問ハサルナリ

(二) 第八百三十八條 尊屬又ハ年長者ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ス(人事編第百六條)

養子ハ之ヲ以テ實子ニ擬シ其間親子ノ關係ヲ生スルモノナレハ己レヨリ年長ナル者ヲ以テ養子ト爲ストキハ自然ニ反ス又尊屬ノ中ニハ養親ヨリ年少ナル者(叔父叔母)アル可シト雖トモ此ノ如キ者ヲ養子ト爲ストキハ尊卑ノ順序ヲ紊亂スルモノナルカ故ニ法律ハ尊屬又ハ年長者ヲ養子ト爲スコトハ之ヲ禁シタ

リ外國ノ立法例並ニ吾邦古代ノ法令中ニハ養親ノ年齢ハ養子ノ年齢ヨリ十五歳以上年長ナルコトヲ要ス可キ規定アレトモ吾邦近代ノ慣習ニ於テ此ノ如キ條件ヲ必要トスルハ頗ル實際ニ適セサルモノアルヲ以テ單ニ養親ノ年齢カ養子ニ優レルヲ以テ足レリトシ別ニ其間ノ年齢ニ關シテ條件ヲ設ケサリシナリ尊屬トハ直系尊屬即チ父母祖父母等ハ勿論兄姉伯叔父母等從來俗ニ所謂目上ト稱スル親族ハ其血族ナルト姻族ナルトヲ問ハス皆此等ヲ總稱スルナリ卑屬ハ他ノ條件ヲ具備スルニ於テハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ルモノニシテ孫又ハ曾孫ヲ自己ノ養子ト爲スコトヲ得ルハ勿論庶子私生子又ハ他家ニ在ル嫡出子ト雖モ之ヲ養子ト爲スコトヲ得可キナリ(第八百四十一條第二項參照)

(三) 第八百三十九條 法定ノ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ス

但女婿ト爲ス爲メニスル場合ハ此限ニ在ラス(人事編第百七條)
從來ニ在リテハ一人ニシテ數人ノ養子ヲ爲スコト其例少ナカラサリシヲ以テ此要件ハ從來ノ慣例ニ反セリ蓋シ立法者カ養子ヲ認ムル趣旨ハ必スシモ家督

相續ノ必要ニノミ基クモノニ非サルコトハ既ニ説キタルカ如シト雖モ然レトモ元來養子ノ主タル目的ハ家督相續人ヲ得ント欲スルニ在リ故ニ家督相續人カ女子ナル場合ニ於テハ女子ヲシテ相續ヲ爲サシムルハ通常人ノ欲セサル所ナルカ故ニ更ニ男子ヲ養子トセント欲スルコトハ吾邦ノ人情ニ適セリ之ニ反シ既ニ家督相續人タル男子アル者カ更ニ男子ヲ以テ養子ト爲スカ如キハ必要ナキコト多クシテ或ハ法定ノ推定家督相續人ノ相續權ヲ侵害ス否ラサルトモ少クモ家族ノ平和ヲ害スルノ恐れアルヲ免レス而シテ家督相續ノ目的ヲ以テセサル養子ハ多クハ女婿ト爲ス爲メニスルニ在ルカ故ニ此場合ニ於テハ幾人ノ養子ヲ爲スモ不可ナルコトナシ又女子ヲ養フハ多ク家督相續ノ目的ノ爲メニセサルカ故ニ是亦制限ヲ設クル必要アラサルヲ以テ右ノ如キ規定ヲ設ケ之ヲ第三ノ要件ト爲シタリ

本條ノ規定アルカ爲メニ間接ニ第九百七十三條ノ規定ハ徒法ニ歸スルコトアリ第九百七十三條ノ規定ニ從ヘハ法定ノ推定家督相續人ハ其姉妹ノ爲メニスル養子縁組ニ因リテ其相續權ヲ害セラル、コトナシ依テ姉妹ノ兩女子アル場

合ニ於テ父カ妹ニ對シ婿養子ヲ爲ストモ相續權ハ依然姉ニ存ス可シ然ルニ本條ノ規定ニ於テハ家督相續人タル男子アル場合ニハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得サレトモ法定ノ推定家督相續人カ女子ナル場合ニハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ルモノニシテ此場合ニハ養子カ嫡出子タル身分ヲ取得シテ法定ノ推定家督相續人ト爲ル可ク而シテ養子シタル後ニ於テ法定ノ推定家督相續人タリシ者ノ妹ト婚姻スルコトハ法律ノ禁スル所ニ非サルヲ以テ其者ト婚姻スルトキハ唯タ養子縁組ト同時ニ婚姻スルト其後ニ於テ婚姻スルトノ差異アルノミニシテ養子縁組後ニ於テ法定ノ推定家督相續人タリシ者ノ妹ト婚姻シタル場合ハ第九百七十三條ノ精神ニハ明カニ反セリ然レトモ本條ノ規定アルニ因リ右ノ如ク養子縁組ヲ爲シ其養子カ法定ノ推定家督相續人ト爲リタル後婚姻スルコトヲ得可キナリ

(四) 第八百四十條 後見人ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス其任務カ終了シタル後未タ管理ノ計算ヲ終ハラサル間亦同シ

前項ノ規定ハ第八百四十八條ノ場合ニハ之ヲ適用セス(人事編第百八條)

後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理シ其任務終了スルヤ二箇月間ニ其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス可キモノニシテ毫モ被後見人ノ財産ヲ私スルコトヲ許サス然ルニ後見人カ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ許ストキハ被後見人ノ財産ニ付キ不正ノ行爲ヲ爲シタルヲ掩ハンカ爲メニ之ヲ其養子ト爲シ以テ親族會其他ノ監督ヲ免レントスル者アルニ至ルヲ以テ法律ハ此ノ如キ弊害ヲ豫防スルカ爲メ第一項ノ規定ヲ設ケタリ

右ノ規定ニ對シ法律ハ一ノ例外ヲ設ケタリ即チ後見人カ遺言ヲ以テ被後見人ヲ養子ト爲ス意思ヲ表示シタル場合はレナリ此場合ハ第八百四十八條ニ規定スル所ニシテ後見人カ後見ノ繼續中又ハ其計算ヲ終ラサル以前ニ死亡シタル場合ニ於テハ後見人カ其親權ヲ利用シテ被後見人ノ財産ヲ私シ計算ヲ曖昧ニスルカ如キ意思ヲ推定スルコトヲ得サルヲ以テ此場合ニハ後見人ヲ養子ト爲スコトヲ禁ス可キ理由アラサルナリ

(五) 第八百四十一條 配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ縁組ヲ爲スコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲スニハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル(人事編第百十條)

外國ニ於テハ配偶者アル者ト雖モ獨立シテ養子ヲ爲シ又ハ養子ト爲ルコトヲ得ル所アリト雖モ吾邦ノ慣習ニ於テハ夫婦獨立シテ養子縁組ヲ爲スコトヲ許サルサ、リシヲ以テ本法ニ於テモ此ノ如キ養子縁組ハ許サルコト、セリ詳言スレハ配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ得ス夫婦ノ一人カ養子ヲ爲シ他ノ一人カ之ヲ其養子ト爲サ、ルカ如キコトハ許サレサルナリ故ニ縁組ニ付テハ夫婦兩人ノ同意アル者ニ非サレハ養子ト爲スコトヲ得ス若シ其中一人ノ之ヲ欲セサル者ハ養子ト爲スコトヲ得ス何ントナレハ養子ト養親トノ間ハ血族タル親子ト同一ノ關係ヲ生スルモノナレハ夫婦各別ニ養子ヲ爲シ夫婦ノ一方ニハ子ニシテ他ノ一方ニハ子ニ非サルカ如キ關係ヲ生セシムルハ養子制度ノ本旨ニ反スルノミナラス家族ノ平和ヲ害スルコト少ナカラサレハナリ又養子ト爲ル可キ者ニ配偶者アルトキハ其夫婦ノ關係ヲ存シナカラ其中一人ノミヲ養子ト爲スコトヲ得ス此場合ニ於テ之ヲ許スハ婚

姻ノ性質ニ反スルモノト云フ可シ
 夫婦ノ一方ノ子ヲ引取リテ養子ト爲ス場合ニ於テ例之ハ夫婦ノ一方カ私生子
 又ハ前婚ノ子ヲ有スル場合ニ於テ養子ト爲ル可キ者ハ既ニ夫婦ノ一方トハ親
 子ノ關係アルモノナレハ之ヲ收養スルニ當リ夫婦共ニ之ヲ養子ト爲スノ必要
 ナク唯其一方ノ承諾ヲ得レハ足レリトセリ
 配偶者アル者ノ縁組ヲ爲ス場合ニ於ケル意思表示(第八百四十二條)前條第一
 項ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方
 ハ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得(人事編第一百十條)
 養子ヲ爲サントスル者又ハ養子ト爲ラントスル者ニ配偶者アルトキハ其當事
 者タル夫婦各自ノ意思表示アルコトヲ要スルハ前條ニ規定スル原則ナレトモ
 夫婦ノ一方カ心神喪失等ノ事由ニ依リ意思ヲ表示スルヲ得サルコトアリ此ノ
 如キ場合ニ於テモ夫婦各自ノ意思表示ヲ必要トスルトキハ實際上養子縁組ヲ
 爲サント欲スルモ能ハサルナリ然レトモ此ノ如キ場合ニ養子ヲ爲シ又ハ養子
 ト爲ルノ必要ヲ生スルコトハ往々之アル所ナレハ法律ハ實際ノ必要便宜ヲ圖

リ此ノ如キ場合ニハ一方ノ意思表示ヲ以テ他ノ一方ノ意思表示ニ代フルコト
 爲シタリ

(六) 第八百四十三條 養子ト爲ル可キ者カ十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル
 父母之ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得
 繼父母又ハ嫡母カ前項ノ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(人事
 編第一百十五條、第一百十九條)

養子縁組ハ其縁組當事者ノ身分ニ重大ナル效果ヲ生スルモノナルヲ以テ其各
 當事者ノ任意ノ意思表示アルヲ必要トスルコトハ當事者保護ノ爲メ當然ナリ
 ト雖モ吾邦ニ於テハ幼少ノ者ヲ養子ト爲ス慣習アルヲ以テ此ノ如キ者カ養子
 タルヘキ場合ニ於テハ本人ノ爲シタル意思表示ハ法律上之ヲ其意思ト看做シ
 難キコト多カル可キカ故ニ法律ハ滿十五年以下ノ者カ養子ト爲ル可キ場合ニ
 於テハ其家ニ在ル父母之ニ代ハリテ意思表示ヲ爲スコトヲ許シタリ而シテ養
 子ノ意思表示ヲ代表ス可キ父母ハ其家ニ在ル者ニ限ルコトハ子カ婚姻ヲ爲ス
 際父母ノ同意ヲ得ル場合ニ同シキナリ

第八百四十六條ニ依リ第七七十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ茲ニ準用スルコト、シタルヲ以テ父母ノ一方カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ意思ノミヲ以テ足レリトシ又父母共ニ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトセリ

家ニ在ル父母中ニハ繼父母及ヒ嫡母ヲモ包含スレトモ此等ノ者ハ子ト血縁ヲ有スル者ニ非サルヲ以テ子ノ利益ヲ慮ルコト實父母ノ如クナラサルコトハ言フヲ俟タサレハ法律ハ繼父母又ハ嫡母カ濫リニ其繼子又ハ庶子ヲ他人ノ養子ト爲スノ弊ヲ防カンカ爲メ其承諾權ヲ制限シテ之ニ親族會ノ監督ヲ加ヘタリ此法律ノ精神ハ繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セサル場合ノ規定(第七百七十三條)ト其趣旨ヲ同フスルナリ

(七) 第八百四十四條 成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(人事編第百十六條第一項)

養子縁組ハ養親又ハ養子ノ爲メニ血族關係ト同一ノ關係ヲ生スルモノ(第七百二十七條)ニシテ養親ノ父母ハ養子ノ祖父母ト爲リ又養子ト爲リタル者ハ法律上爾後其實父母ニ對スルヨリモ養父母ニ對スル關係却テ密ナルニ至ル可ケレハ右孰レノ場合ニ於テモ其父母ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ得サルモノトセルハ當然ナリ而シテ養子縁組ノ場合ハ子カ婚姻ヲ爲ス場合ト異ナリテ右ノ如キ關係ヲ有スルカ故ニ父母ノ承諾ヲ得ルニ付キ年齡ニ制限ヲ設ケサルナリ(第七百七十二條第一項)是ヲ以テ養子ヲ爲スコキ者ハ何歳ニ至ルモ其家ニ父母アルトキハ之カ承諾ヲ得サル可カラス

養子ト爲ル可キ者ニ付テハ既ニ説キタルカ如ク滿十五年以下ナルトキハ其者ノ爲シタル意思表示ハ法律上有效ナラサルモノト爲シ其家ニ在ル父母之ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲スコキコト、爲シタレトモ滿十五年以上ト爲リタル者ハ自ラ有效ノ意思ヲ要スルコト、爲シタリ之ヲ以テ滿十五年以下ノ子ニ對シテハ父又ハ母ハ其意思ニ反シテ之ヲ他人ノ養子ト爲スコトヲ得可シト雖モ滿十五年以上ノ子ハ之ト異ナリテ其意思アルニ非サレハ之ヲ他人ノ養子ト爲ス

コトヲ得サルナリ

此規定ニ付テモ第八百四十六條ニ依リ第七百七十二條第二項第三項及ヒ第七百七十三條ノ規定ヲ準用ス

(八) 第八百四十五條 縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ養子ト

シテ他家ニ入ラント欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但妻カ夫ニ隨ヒテ他家ニ入ルハ此限ニアラス

本法ハ養子縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラントスルニハ一旦其實家ニ復籍スルコトヲ要セスシテ養家又ハ婚家ヨリ

直ニ養家ニ入ルコトヲ許ス(第七百四十一條)ヲ以テ此ノ如キ者カ更ニ他家ノ養子トナル場合ニ於テ前條ノ規定ノミナルトキハ實家ノ父母ハ養子ト爲ル者ノ

爲メニ其家ニ在ル父母ニ非サルヲ以テ其同意ハ之ヲ要セサルモノナリト雖モ此場合ニ於テモ前條ト同一ノ理由ニ依リ自己ノ子ヲ他人ノ養子ト爲スモノナ

ルカ故ニ其同意ヲ得ルコトヲ要ストスルハ至當ナリ然レトモ夫婦養子ノ場合ニ於テハ妻ハ當然(第八百四十一條)夫ニ隨フ可キモノナルカ故ニ此場合ニ於テ

實家ノ父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトスルトキハ夫婦ノ關係ヲモ絶タサル可カラサルニ至リ實際ノ不便尠少ナラサルヲ以テ妻カ夫ニ隨ヒテ他家ノ養子ト爲ル場合ニハ其實家ノ父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要セサルモノトセリ又本條ノ場合ニ於テモ第八百四十六條ニ依リ第七百七十二條第二項第三項及ヒ第七百七十三條ノ規定ヲ準用ス(人事編第百十五條第二項第三項第百十六條第二項第三項第百十七條乃至第百二十條)

以上ハ實質上ノ要件ニ關スルモノナリ是ヨリ第二ノ要件ニ移ラン形式上ノ要件 (一) 第八百四十七條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ

規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス(人事編第百十三條第百二十一條第百二十四條) 本條ハ婚姻ニ關スルニクノ規定ヲ養子縁組ニ準用スルモノナルカ其第七百七

十四條ハ禁治産者ノ縁組ノ能力ニ關スルモノニシテ寧ロ實質上ノ要件ニ關セリ禁治産者ハ一時其心神ヲ回復セルトキニ於テハ後見人ノ同意ヲ得スシテ婚

姻ヲ爲スコトヲ得ルト同シク縁組ヲ爲スコトヲモ許ルセリ是レ婚姻ニ關シテ説キタル所ト同趣旨ナレハ今復タ茲ニハ述ヘサルナリ

縁組ノ方式ニ付テモ婚姻ニ於ケルト同シク之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其効力ヲ生ス

其届出ノ方法及ヒ證人等モ婚姻ニ關スルト同一ナレハ是レ亦茲ニ復説セサルナリ

(二) 第八百四十八條ニ養子ヲ爲サント欲スル者ハ遺言ヲ以テ其意思ヲ表示スルコトヲ得此場合ニ於テハ遺言執行者養子ト爲ルヘキ者又ハ第八百四十三條ノ規定ニ依リ之ニ代リテ承諾ヲ爲シタル者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ遺言カ効力ヲ生シタル後遲滞ナク縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ届出ハ養親ノ死亡ノ時ニ遡リテ其効力ヲ生ス(人事編第百六條第二項、第百二十二條、第百二十三條)

縁組ハ契約ヲ以テス可キモノトシ遺言ヲ以テ養子ヲ爲スノ意思ヲ表示スルコトハ諸國多數ノ立法例ノ認メサル所ナリト雖モ其家ヲ重ニスル吾邦ニ於テハ遺言ヲ以テ養子ヲ爲スコトヲ許スハ實際ニ於テ其必要アルノミナラス從來ノ慣習ニモ存スル所ニシテ子ナキ者カ死ニ臨ミ嗣子ナキヲ憂ヒテ他人ノ子ヲ養

子ト爲シ其家ヲ嗣カシメント欲スルハ人情ノ常ナリ此場合ニ於テ普通ノ手續ニ依リテ養子ヲ爲サント欲スルモ既ニ其暇ナク又ハ若シ子ナクシテ死亡セハ養子ヲ爲サント欲スルモ苟モ實子ノ生ル、ニ於テハ之ヲ欲セサルコト稀ナリトセス而シテ何人モ自己ノ死期ヲ確知スルコト能ハサルカ故ニ若シ子ナクシテ死シタルトキハ某ヲ養子トス可ク若シ生存中ニ子ヲ舉ケタルトキハ之ヲ養子トセサル可キ意思ヲ有スルトキハ遺言ヲ以テ養子ヲ爲シ而シテ生前子ヲ舉ケタルトキハ其遺言ヲ取消シ以テ其希望ヲ貫徹スルコトヲ得可シ此ノ如キ場合ニ於テ既ニ養子ノ届出ヲ爲シタリトセシカ其後實子ヲ舉クルトモ之カ爲メ既ニ得タル養子ノ相續權ヲ害スルコト能ハス是ヲ以テ遺言養子ヲ認ムルハ實際上ノ必要ニ適セリ

法律ハ遺言養子ヲ認ムルト雖モ遺言其物カ直ニ養子縁組ノ効力ヲ生スルニ非ス遺言ハ單ニ養親ノ意思表示タルニ過キサレハ遺言養子ヲ爲シタル者死亡シタル後其養子ト爲ル可キ者又ハ第八百四十三條ノ規定ニ依ル其法定代理人カ之ニ承諾ヲ爲サルトキハ其養子縁組ハ効力ヲ生スルモノニ非ス而シテ此等

ノ者カ之ニ承諾ヲ爲シタルトキハ普通ノ縁組ト同一ノ方式ヲ以テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス但シ此場合ニ於テハ養親タル可キ者存在セサルヲ以テ之ニ代ハリテ届出ヲ爲ス者アルコトヲ要ス即チ遺言執行者(第千百八條乃至第千百十二條)是レナリ

本條ニ所謂遺言カ效力ヲ生シタル後トハ遺言ハ遺言者ノ生存中ハ決シテ其效力ヲ生スルコトナク其死亡ノ時ニ於テ其效力ヲ生スルヲ常トスレトモ若シ遺言カ條件附ナルトキハ其條件成就ノ時ニ於テ始メテ其效力ヲ生ス可キモノ(第千八十七條)トスルヲ以テ右ノ場合ヲ指シタルナリ

遺言ニ因ル養子縁組モ亦届出ニ依リテ始メテ其效力ヲ發生スルコト普通ノ縁組ト相同シト雖モ遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス可キモノナルヲ以テ此場合ニ於テハ縁組ハ遺言者死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生スルコト、セリ隨フテ遺言者ニ對スル相續權其他嫡出子タル身分ヨリ生スル權利義務ハ總ヘテ遺言者死亡ノ時ニ遡リテ發生ス可キナリ

養子縁組ノ届出ニ對スル戸籍吏ノ義務(第八百四十九條) 戸籍吏ハ縁組カ第七

百四十一條第一項第七百四十四條第一項第七百五十條第一項及ヒ前十二條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

第七百七十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ於テ之ヲ準用ス(人事編第百十三條第三項第百二十一條第二項)

養子縁組ノ届出ニ對スル戸籍吏ノ義務ハ婚姻ノ届出ニ關スル規定第七百七十六條ト全ク其趣意ヲ同フスルモノニシテ戸籍吏ハ養子縁組カ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得サルナリ而シテ法令トハ第七百四十一條第七百四十四條第七百五十條第八百三十七條乃至第八百四十八條又他ノ法令トハ戸籍法及ヒ附屬命令華族令等ヲ謂フナリ

養子縁組ノ場合ニ於テモ婚姻ノ場合ニ於ケルト同シク戸籍吏ニ於テ養子縁組カ第七百四十一條第一項又ハ第七百五十條第一項ノ規定ニ違反スルトキ之カ注意ヲ爲シタルニ拘ハラズ當事者カ其届出ヲ爲サントスルトキハ戸籍吏ハ敢テ之ヲ拒ムコトヲ得スシテ受理セサル可カラズ

外國ニ在ル日本人間ノ縁組第八百五十條) 外國ニ在ル日本人間ニ於テ縁組ヲ爲サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第七百七十五條及ヒ前二條ノ規定ヲ準用ス(人事編第二百二十五條法例第八條同第十九條)

外國ニ於テ日本人間ニ養子縁組ヲ爲ス規定ハ日本人間ニ外國ニ於テスル婚姻ニ關スル規定第七百七十七條ト全ク其趣意ヲ同フスルモノニシテ外國ニ於テ日本人間ニ養子縁組ヲ爲サント欲スルトキト雖モ本國ニ於テ其届出ヲ爲スコトハ原則ナレトモ斯クスルトキハ當事者ノ不便尠カラサルヲ以テ外國ニ於テ其手續ヲ爲スコトヲ得ル便法ヲ與ヘサル可ラス乃チ外國ニ在テハ戶籍吏ニ代フルニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ヲ以テシ之ニ其届出ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ而シテ此場合ニ於テ日本ニ於ケルト同シク第七百七十五條第八百四十八條及ヒ第八百四十九條ノ規定ハ準用セララル、ナリ

第二款 縁組ノ無効及ヒ取消

養子縁組モ亦婚姻ノ如ク其法定ノ要件ノ欠缺ニ因リテ或ハ無効ト爲リ或ハ取

消シ得可キ場合ヲ生ス而シテ養子縁組ノ無効ト爲リ又ハ取消シ得可キ場合ヲ生スルハ法律カ茲ニ規定シタル場合ニ限定セルカ故ニ本款ニ定ムル場合ノ外養子縁組カ無効ト爲リ又ハ取消サル、コトアラサルナリ

縁組ノ無効(第八百五十一條) 縁組ハ左ノ場合ニ限り無効トス

- 一 人違其他ノ理由ニ由リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキトキ
- 二 當事者カ縁組ノ届出ヲ爲サ、ルトキ但其届出カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百四十八條第一項ニ掲ケタル條件ヲ欠クニ止マルトキハ縁組ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラル、コトナシ(人事編第二百二十七條同第二百二十九條明治八年(十二月九日)太政官達第二百九號同十年(六月十九日)司法省丁第四十六號達)

縁組ノ無効ノ規定ハ全ク婚姻ノ無効ニ關スル第七百七十八條ノ規定ト異ナルコトナシ故ニ再タヒ茲ニ叙述セサルナリ

縁組ノ取消(第八百五十二條) 縁組ハ後七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

此規定ハ婚姻ノ取消ニ關スル第七百七十九條ト異ナルコトナクレハ今茲ニ叙述セス

縁組ヲ取消スコトヲ得可キ場合 (一) 第八百五十三條 第八百三十七條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養親又ハ其法定代理人ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但養親カ成年ニ達シタル後六ヶ月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ此限ニアラス(人事編第二百二十八條) 成年ニ達シタル者ニ非サレハ養子ヲ爲スヲ得サルコトハ曩ニ説キタル第八百三十七條ニ規定スル所ナリ然ルニ此規定ニ背キテ未成年者カ養子ヲ爲シタルトキハ其利益ノ爲メ之カ取消ヲ許ルサ、ル可カラス乃チ其養親自身又ハ其法定代理人ハ裁判所ニ其縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ得可シ而シテ此取消權ヲ有スル者ハ右兩者ニ限リテ他ノ者例之ハ養親ノ親ノ如キニ之ヲ與ヘサルハ蓋シ第八百三十七條ノ規定ハ公益ノ爲メノ規定ニ非スシテ主トシテ養親ノ利益ヲ保護スルニ出テタルモノナレハ固ヨリ當然ナリ而シテ養親カ未成年者中縁組ヲ取消サスシテ成年ニ達シタル後仍ホ之ヲ取消スノ意思ナク反テ其縁組ヲ

繼續スルノ意思アルトキハ養親ハ既ニ養子ヲ爲スノ能力ヲ有スルニ至リタル者ナルカ故ニ敢テ其縁組ヲ取消スコトヲ要セス是ヲ以テ法律ハ養親カ成年ニ達シタル後六ヶ月ヲ經過シタルトキ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ養子ヲ爲スノ意思繼續スルモノト認ムヘキカ故ニ復タ其縁組ノ取消ヲ許サ、ルナリ (二) 第八百五十四條 第八百三十八條又ハ第八百三十九條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ各當事者其戸主又ハ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得(人事編第二百二十八條)

何人ト雖モ尊屬又ハ年長者ヲ養子ト爲スヲ得サルコトハ第八百三十八條ニ規定スル所又法定ノ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スヲ得サルコトハ第八百三十九條ニ規定スル所ナリ然ルニ此等ノ規定アルニ拘ハラズ之ニ背キテ養子ヲ爲シタルトキハ其制裁トシテ之カ取消ヲ許サ、ル可カラス而シテ此場合ニ於テ法律ハ其取消權ヲ獨リ其養親ニ與フルノミナラス養子其戸主又ハ其親族ニ與ヘタリ而シテ前ノ場合ト異ナル所以ハ以上ノ規定ハ私益ノミノ保護ニ非スシテ公益ニ關スルヲ以テナリ但シ此場合ニ於テ法律カ婚姻

ニ關スル第七百八十條ノ規定ノ如ク檢事ニ之カ取消權ヲ與ヘサルハ當事者戶主及ヒ親族等ニ於テ此違法ノ養子縁組ヲ承認スルニ於テハ敢テ國家カ之ニ干渉スルノ必要ナシト認メタレハナリ

以上ノ規定ハ公益ニ關スルモノナルカ故ニ普通ノ取消ノ場合ノ如ク期間ノ經過又ハ追認ニ依リテ消滅スルコトナシ故ニ縁組アリタル後幾多ノ年月ヲ經過スルモ又ハ當事者ノ一方又ハ雙方死亡シタル後ト雖モ仍ホ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得可シ

(三) 第八百五十五條 第八百四十條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養子又ハ其實方ノ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但シ管理ノ計算カ終リタル後養子カ追認ヲ爲シ又ハ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ此限ニアラス

追認ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル後之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ

養子カ成年ニ達セス又ハ能力ヲ回復セサル間ニ管理ノ計算カ終リタル場合ニ於テハ第一項但書ノ期間ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル時ヨリ之ヲ起算ス(人事編第二百二十八條第一項第三百十條)

遺言ヲ以テ養子ヲ爲ス場合(第八百四十八條)ヲ除ク外後見人ハ其後見ノ繼續中又ハ任務終了後ト雖モ其管理ノ計算ヲ終ラサル前ニ其被後見人ヲ養子ト爲スヲ得サルコトハ第八百四十條ニ規定スル所ナリ然ルニ此規定ニ反シテ縁組ヲ爲シタルトキハ其制裁トシテ之カ取消ヲ許サル可カラズ而シテ此取消權ヲ有スル者ハ養子及ヒ其利益ヲ圖ル可キ實方ノ親族ニ限り其他ノ者ハ之ヲ有セサルナリ是レ他ナシ此規定ハ曩ニモ説キタルカ如ク專ハラ被後見人ノ財産上ノ利益ヲ保護スルニ出テタルヲ以テナリ

第八百四十條ノ規定ハ元來後見人カ未成年者ヲ養子ト爲シテ其財産ニ付キ私曲ヲ行フノ恐レアルヲ以テ之ヲ豫防スルカ爲メニ設ケタルモノナレトモ若シ後見終了シテ後見人カ其管理ノ計算ヲ終リタル後養子ニシテ依然養子タラシコトノ意思ヲ有スルトキハ此時ニ當リテハ養子縁組ヲ禁シタル原因既ニ消滅シテ養子ハ新ニ養子ト爲ルコトヲ得ルモノナルカ故ニ此場合ニ於テハ敢テ違法タリシ縁組ヲ取消ス可キ理アラサルナリ是ヲ以テ管理ノ計算カ終リタル後

養子カ追認ヲ爲シ又ハ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ復タ其縁組ヲ取消スコトヲ得サルモノトセリ

後見人カ管理ノ計算ヲ爲スハ被後見人カ成年ニ達シタルトキ又ハ其禁治産者ナル場合ニ於テハ禁治産ノ宣告ヲ取消サレタルトキニ於テス可キカ故ニ養子カ未タ成年ニ達セス又ハ禁治産中ニ在リテハ縦令追認ヲ爲シタリト雖モ其追認ハ普通ノ場合ニ於ケルト同シク追認タル効力ヲ生セサルナリ(第二百二十四條 第一項)

被後見人ノ未タ成年ニ達セス又ハ禁治産ノ宣告ノ取消サレサル間換言スレハ被後見人カ無能力ナル間ニ於テ管理ノ計算ヲ爲スコトアリ例之ハ後見人カ被後見人ヲ其養子ト爲ストキハ爾後後見人ニ非スシテ更ニ養子ノ親權者トシテ其財産ヲ管理スルモノナレハ原則トシテ此場合ニ於テハ養子カ成年ニ達シタル後ニ非サレハ其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要セサレトモ養親カ半途ニシテ親權ヲ失ヒテ他ノ者カ後見人ト爲ル可キトキハ養子ノ無能力者タル間ニ於テ管理ノ計算終ル可ケレトモ此場合ニ於テハ養子ハ未タ自カラ其計算カ正當ナル

ヤ否ヤヲ判断スルコト能ハサルモノナレハ第一項但書ノ期間ハ計算終了ノ時ヨリ起算セスシテ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル時ヨリ起算スルコト、セリ

(四) 第八百五十六條 第八百四十一條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲サ、リシ配偶者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其配偶者カ縁組アリタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ經過シタルトキハ追認シタルモノト看做ス(人事編第二百二十八條)

配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ縁組ヲ爲スヲ得サルコトハ第八百四十一條ニ規定スル所ナリ然ルニ配偶者アル者其配偶者ト一致セスシテ縁組ヲ爲シタルトキハ同意ヲ爲サ、リシ配偶者ヲシテ其縁組ヲ取消スコトヲ得セシメサル可カラス而シテ此場合ニ於テ爲シタル縁組ハ同意ヲ爲シタル配偶者ト其縁組ノ對手人トノ間ニ於テノミ効力ヲ有スルモノニシテ同意ヲ爲サ、ル配偶者ニ對シテハ固ヨリ有效ナラサルヲ以テ此場合ニ於テ同意ヲ爲サ、リシ配偶者ニ其配偶者ノ爲シタル縁組ヲ取消サシムルモノトセリ

同意ヲ爲サ、リシ配偶者カ其縁組ヲ明ニ追認シタルトキハ其縁組ハ最初ヨリ夫婦一致シテ爲シタルト同様ノ効力ヲ生ス又縁組アリタルコトヲ知リテヨリ六ヶ月ヲ經過スルモ依然取消ヲ請求セサルトキハ是レ其縁組ニ同意シタルモノト看做スカ故ニ後日之ヲ取消スコトヲ許サ、ルナリ是ヲ以テ此場合ニ於ケル追認ハ二様ノ効力ヲ含有ス其一ハ其配偶者カ自己ノ同意ヲ得スシテ爲シタル縁組ヲ自己ノ爲メニ引受クル行爲ニシテ其縁組ハ追認ニ依リテ始メテ其効力ヲ生ス(第百十三條第一項)其二ハ配偶者ノ爲シタル縁組ノ取消權ノ拋棄是レナリ

本條ノ規定ハ主トシテ同意ヲ爲サ、ル配偶者ノ利益ヲ保護スルニ至リテ公益ニ關スルモノニ非ラサレハ縁組ノ取消權ヲ有スルハ同意ヲ爲サ、リシ配偶者ノミニシテ其他ノ者ハ之ヲ有セサルナリ

(五) 第八百五十七條 第八百四十四條乃至第八百四十六條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ亦同シ

第七百八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(人事編第百三十二條)

成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルヲ要スルコトハ第八百四十四條ニ規定スル所縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラント欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルヲ要スルコトハ第八百四十五條ニ規定スル所又父母共ニ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルヲ要スルコトハ第八百四十六條ニ規定スル所ナリ然ルニ同意ヲ要ス可キ者ノ同意ヲ得スシテ縁組ヲ爲シ又良シ同意アリトスルモ其同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタル場合ニ於テ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ請求スルコトヲ得可キハ固ヨリ當然ナリ而シテ此規定ハ婚姻ノ取消ニ關スル第七百八十三條ト其趣意ヲ同フスルカ故ニ法律ハ縁組ノ取消ノ場合ニモ亦婚姻ノ取消ニ關スル第七百八十四條ノ規定ヲ準用スルコト、ナシタリ即チ(一)同意ヲ爲スノ權利ヲ有セシ者カ縁組アリタルコトヲ知リタル後又ハ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後六

ケ月ヲ經過シタルトキ(二)同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ追認ヲ爲シタルトキ(三)縁組届出ノ日ヨリ二年ヲ經過シタルトキハ其取消權ノ消滅スルコト是レナリ」
 茲ニ一ノ問題アリ第八百四十三條第二項ニ依レハ繼父母又ハ嫡母カ十五年未滿ノ者ニ代ハリ養子ト爲ル可キ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス然ルニ右ノ規定ニ反シ親族會ノ同意ヲ得スシテ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テ戸籍吏カ過チテ其届出ヲ受ケタルトキハ其縁組ハ有效ナリヤ否ヤ
 (六) 第八百五十八條 婿養子縁組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ婚姻ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ縁組ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但婚姻ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス
 前項ノ取消權ハ當事者カ婚姻ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス(人事編第三百十三條)
 此規定ハ婚姻ノ取消ニ關スル第七百八十六條ノ規定ト其精神同一ナリ而シテ其理由ハ既ニ婚姻ノ取消ニ付キテ叙述シタレハ今復タ茲ニ説カサルナリ

此取消權ヲ有スル者ハ縁組及ヒ婚姻ノ當事者即チ養親、婿養子及ヒ婿養子ノ妻タル者是レナリ
 唯此場合カ婚姻ノ取消ノ場合ト異ナルハ其取消權ノ行使ノ期間ナリ婚姻ニ付テハ三ヶ月ナルニ縁組ノ取消ニ付テ六ヶ月トシタルハ婚姻ニ付テハ當事者カ夫婦タルコトヲ欲セサルトキハ其無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後三ヶ月以上モ之ヲ默過スルコト能ハサル可キモ縁組當事者間ノ關係ハ婚姻ノ如ク速ニ確定セシム可キ必要アルヲ見サルヲ以テナリ
 縁組ヲ取消スコトヲ得可キ第八ノ場合及ヒ縁組取消ノ效力(第八百五十九條)第七百八十五條及ヒ第七百八十七條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス但第七百八十五條第二項ノ期間ハ之ヲ六ヶ月トス(人事編第六十二條、第三百三十一條、第三百三十二條)
 (イ) 婚姻ノ場合(第七百八十五條)ト同シク縁組ノ場合ニ於テモ詐欺又ハ強迫ニ因リテ縁組ヲ爲シタル者ハ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得而シテ其理由ハ婚姻ニ關スル第七百八十五條ニ就キ叙述シタレハ今復説セサルナリ唯タ此

場合カ婚姻ノ取消ノ場合ト異ナル所ハ婚姻ノ取消權ハ其詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レタル後三ヶ月ヲ經過シタルトキハ消滅スルモノトセシモ縁組ニ付テハ其期間ヲ前條ニ於テ叙述シタル理由ニ從ヒ六ヶ月ト爲シタルニ在ルノミ

(ロ) 縁組取消ノ效力 縁組取消ノ效力モ婚姻取消ノ效力(第七百八十七條)ト同シク既往ニ遡ホラサルヲ原則トシ唯縁組ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知ラサリシ當事者カ縁組ニ因リテ財産ヲ得タルトキハ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ其返還ヲ爲スコトヲ要シ惡意ノ當事者ハ縁組ニ因リテ得タル利益ノ全部ヲ返還スルコトヲ要シ尙ホ相手方カ善意ナリシトキハ之ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任セサル可カラス而シテ此理由モ曩ニ婚姻ノ取消ノ效力ニ付テ叙述シタレハ是亦玆ニ復説セサルナリ

第二款 縁組ノ效力

本款ニ於テハ縁組ヨリ養子ト養親及ヒ其親族トノ身分ニ生スル關係ト縁組カ養親ノ家ニ及ホス關係トヲ規定ス

親族關係ノ發生(第八百六十條) 養子ハ縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ

取得ス(人事編第三百三十四條、第三百三十五條)

養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得シ養親ノ血族ト總テ親族關係ヲ生スルコトハ吾邦古來ノ慣習ナルヲ以テ縁組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得スルモノトセリ而シテ養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ於テハ養子縁組ノ日ヨリ血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生スルコトハ法律カ親族ノ總則(第七百二十七條)ニ於テ既ニ認メタル所ナレハ養子ト養親トノ間ニ於テ縁組ノ日ヨリ實親子ニ等シキ關係ヲ生シ養子ヲ嫡出子トスルハ當然ナリ

養子ハ嫡出子ニ等シキカ故ニ親權、相續權ヲ始メ扶養ノ義務、婚姻ノ障礙(第七百六十九條但書ノ例外アリ)等ニ關シ實子ト毫モ異ナルコトアラサルナリ然レトモ之カ爲メニ養子ハ實家ニ於ケル親族關係ヲ失フニ非ス實家トノ關係ハ依然存スルモノナレハ養子ハ實方ノ親族關係ト養方ノ親族關係ト二様ノ親族關係ヲ有スルナリ

養親ト家ヲ同フスルコト(第八百六十一條) 養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ家ニ入ル(人事編第三百三十四條)

縁組ニ因リテ養子ト養親トノ間ニ親子ノ關係ヲ生スルコトハ第七百二十七條ニ規定スル所ナレトモ第七百三十三條ニ子ハ父ノ家ニ入ル父ノ知レサル子ハ母ノ家ニ入ルトアリテ養子ハ養親ニ對シテ子タルト同時ニ亦仍ホ實父母ニ對シテモ子タルヲ以テ以上ノ規定ニ因リテハ養子ハ當然養親ノ家ニ入ルモノト云フコトヲ得ス故ニ本條ヲ以テ之ヲ明ニシ吾邦從來ノ慣習ノ如ク養子ハ縁組ニ因リテ當然養親ノ家ニ入ルモノトセリ蓋シ吾邦ノ養子ハ主トシテ家ヲ繼カシムル爲メニ出ツルモノナルカ故ニ養子カ依然其實家ニ在リテハ其目的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テナリ

第四款 離縁

離縁ナル語辭ハ從來婚姻ノ解除及ヒ養子縁組ノ解除ニ區別ナク用ヒタリト雖モ民法ハ婚姻ノ解除ニ付テハ離婚養子縁組ノ解除ニ付テハ常ニ離縁ナル語辭ヲ用ヒタレハ離縁ト稱スルトキハ婚姻ノ解除ニ關係ナキコトニ注意セサル可カラス

離縁ヲ許スコトハ各國ノ立法例中或ハ之ヲ認ムルモノアリ或ハ否ラサルモノ

アリ佛國伊國等佛法系ノ諸國ハ離縁ヲ認メサレトモ獨逸諸州、奧國、獨逸新民法第千七百六十八條其他獨逸法系ノ諸國ハ當事者一方ノ請求ニ因リ養子ヲ爲スト同一ノ方式ヲ以テ縁組ヲ解除スルコトヲ得ルモノトセリ吾邦ニ於テハ從來養子縁組ノ解除ハ婚姻ノ解除ト同シク之ヲ許シタレハ本法ハ此舊慣ヲ認メ或ハ當事者ノ協議ニ因リ或ハ裁判所ノ宣告ヲ以テ離縁ヲ許スコト、セリ其當事者ノ協議ニ出テタルモノヲ協議上ノ離縁ト謂ヒ裁判所ノ宣告ヲ以テスルモノヲ裁判上ノ離縁ト謂フ而シテ協議上ノ離縁ハ恰カモ當事者間ニ協議調フトキハ離婚ヲ爲スコトヲ得ルカ如ク養子縁組ニ付テモ亦當事者間ニ協議サヘ調フトキハ其原因ノ如何ヲ問ハス離縁ヲ爲スコトヲ得可シ之ニ反シテ裁判上ノ離縁ハ猶ホ裁判上ノ離婚ノ如ク法律ハ其場合ヲ限定シ猥リニ之ヲ許サ、ルナリ

一 協議上ノ離縁

第八百六十二條 縁組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得養子カ十五年未滿ナルトキハ其離縁ハ養親ト養子ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ

有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス
 養親カ死亡シタル後養子カ離縁ヲ爲サント欲スルトキハ戸主ノ同意ヲ得テ之
 ヲ爲スコトヲ得(人事編第三百三十七條)
 本條第一項ハ離婚ニ關スル第八百八條ニ相當スルモノニシテ縁組ノ當事者ハ
 既ニ叙述シタルカ如ク其原因ノ如何ニ拘ハラズ協議調フトキハ離縁ヲ爲スコ
 トヲ許ス蓋シ法律カ協議上ノ離縁ヲ許シタルハ養子縁組ハ之ニ因リテ養子ト
 養親トノ間ニ親族關係ヲ生セシムルモノナリト雖モ此關係タルヤ專ハラ當事
 者ノ協議ニ因リ人爲ヲ以テ成リタルモノナレハ當事者カ之ヲ絶タント欲スル
 ニ於テハ其意思ニ反シテ強非テ之ヲ繼續セシム可キ公益上ノ必要アルヲ見ス
 若シ之ヲ許サ、ルコト、スルトキハ却テ其一家ノ不和ヲ見ルノミナラス吾邦
 ニ於テハ當事者間ニ協議調フタル離縁ハ慣習上之ヲ許シタルヲ以テ本法ニ於
 テモ之ヲ許スコト、爲シタリ
 十五年未滿ノ者カ養子ト爲ラント欲スルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代ハリテ
 縁組ノ承諾ヲ爲シ其父母ノ一方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタル

トキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノミノ意思ヲ以テ之
 ニ代ヘ父母共ニ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ
 表示スルコト能ハサルトキハ親族會及ヒ後見人ノ意思ヲ以テ之ニ代ヘ實家ノ
 父母カ繼父母又ハ嫡母ナルトキハ其意思ニ加フルニ親族會ノ同意アルヲ要ス
 ルコトハ第八百四十三條第八百四十六條ニ規定スル所ナレハ協議上ノ離縁ニ
 付テモ最初爲シタル縁組ノ場合ト同シク此等ノ者トノ協議ヲ必要トスルハ當
 然ナリ

婚姻ニ付テハ夫婦ノ一方カ死亡シタルトキハ離婚ヲ爲スコトヲ許サ、レトモ
 縁組ハ養親カ死亡シタル後ト雖モ養子カ其解除ヲ爲サント欲スルトキハ之ヲ
 許スコト、セリ是レ蓋シ婚姻ハ夫婦ノ一方カ死亡シタルトキハ既ニ解消セラ
 レタルモノニシテ復タ之ヲ解除ス可キ目的存セサレトモ養子縁組ハ之ニ反シ
 專ハラ親族關係及ヒ家族關係ノ發生ヲ目的トシ其關係ハ養親ノ死亡ニ因リテ
 解消セラル、モノニ非サレハ養親死亡ノ後ニ在リテモ仍ホ此關係ヲ解クコト
 ヲ許ス可キ必要アリテ此ノ如キハ實家及ヒ養家ノ爲メ便宜ナルコトアリ故ニ

此場合ニ於テハ戸主カ養親ニ代リテ同意ヲ爲ス可キモノトセリ然レトモ是レ後ニ叙述スルカ如ク養子カ家族タル間ニ限ルモノニシテ既ニ養子カ戸主ト爲リタルトキハ最早離縁ヲ爲スコトハ許サレサルナリ(第八百七十四條)
父母、親族會、後見人ノ同意(第八百六十三條) 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離縁ヲ爲スニハ第八百四十四條ノ規定ニ依リ其縁組ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十二條第二項、第三項及ヒ第七百七十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(人事編第百三十八條)

此規定ハ離婚ニ關スル第八百九條ニ相當スルモノニシテ成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ要ス若シ父母ノ一方カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ之ニ代ヘ父母共ニ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要シ實家ノ父母

カ繼父母又ハ嫡母ナルトキハ其意思ニ加フルニ親族會ノ同意(第八百四十三條及ヒ第八百四十六條)アルヲ要ス是ヲ以テ滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離縁ヲ爲スニ付テハ亦父母後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルハ至當ナリ而シテ縁組ト離縁トニ付テハ唯年齢ニ差異アルノミ法律カ成年以上ノ者ニモ同意ヲ得ルコトヲ必要トシタルハ蓋シ離縁ハ普通ノ法律行爲ト異ナリテ一層重要ノ效果ヲ有スルモノナルヲ以テ滿二十五年ニ達セサルカ如キ者ハ離縁ヲ輕卒ニ決行スルコトノ虞アルヲ以テナリ
禁治產者ノ離縁 禁治產者カ離縁ヲ爲スニハ猶ホ其縁組ヲ爲ス場合ニ後見人ノ同意ヲ要セサルカ如ク(第八百四十七條)其同意ヲ得ルコトヲ要セサルナリ(第八百六十四條、人事編第百三十九條)
此規定ハ離婚ニ關スル第八百十條ト同一ニシテ禁治產者ノ後見人ノ職ハ曩ニ説キタルカ如ク專ハラ禁治產者ノ看護第九百二十二條ト其財産上ノ行爲(第九百二十三條)トニ止マリ其身分上ノ行爲ニ關セサルナリ而シテ禁治產者ノ身分上ノ行爲ニ關シテハ禁治產者カ事實上精神ヲ回復セル時ニ在リテハ完全ノ能

力ヲ有スルカ故ニ其間ニ爲シタル離婚ハ有效タル可シ之ニ反シテ其心神喪失中ニ爲シタル離婚ハ意思ノ欠缺スルモノナレハ無効タル可シ依テ此場合ハ婚姻ノ場合ト異ナルコトナキヲ以テ茲ニ之ニ關スル規定ヲ準用スルコト、シタリ

形式上ノ要件 協議上ノ離婚ハ縁組ニ於ケルト同シク之ヲ要式ノ行爲ト爲シ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス若シ此方式ヲ缺キ離婚ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其離婚ハ絶對無効ナリ而シテ其届出ニ關スル手續ハ婚姻ノ届出ニ關スルモノト毫モ異ナラサルヲ以テ法律ハ離婚ノ場合ニ婚姻ニ關スル第七百五十五條ヲ準用スルコト、シタリ(第八百六十四條、人事編第三百三十九條)

離婚届出ニ對スル戸籍吏ノ義務(第八百六十五條) 戸籍吏ハ離婚カ第七百七十五條第二項、第八百六十二條及ヒ第八百六十三條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

戸籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離婚ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラル、コトナシ(人事編第三百三十九條)

此規定ハ離婚ニ關スル第八百十一條ニ相當スルモノニシテ戸籍吏ハ離婚ノ場合ニ於ケルカ如ク離婚カ法令ノ規定ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得サルモノトセリ而シテ此規定ハ其實質ニ至リテモ亦殆ント離婚ニ關スルモノト同一ナルヲ以テ今復タ茲ニ之カ説明ヲ爲サ、ルナリ

二 裁判上ノ離婚

養親ト養子トノ間ニ如何ニ不和ヲ生シ離婚ヲ爲サント欲スルトモ其一方カ之ヲ承認セサルトキ即チ當事者間ニ離婚ノ協議調ハサルトキハ他ノ一方ヲシテ之ヲ強ユルコトヲ得ス此場合ニ於テハ裁判所ニ之カ請求ヲ爲スヨリ外アラサルナリ然レトモ曩ニ説キタルカ如ク協議上ノ離婚ニ付テハ如何ナル原因ニ基キテ之ヲ爲ストモ當事者ノ自由ニ委シ法律ハ其間ニ毫モ干渉ヲ爲サ、レトモ當事者カ裁判所ニ訴ヘテ離婚ヲ爲スニハ法律カ定メタル原因アルニ非サレハ之ヲ許サ、ルナリ

裁判上ノ離婚ノ原因(第八百六十六條) 縁組ノ當事者ノ一方ハ左ノ場合ニ限り

離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

- 一 他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 二 他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
- 三 養親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 四 他ノ一方カ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 五 養子ニ家名ヲ瀆シ又ハ家産ヲ傾クヘキ重大ナル過失アリタルトキ
- 六 養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキ
- 七 養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ
- 八 他ノ一方カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ
- 九 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキ(人事編第四百十條)

第一項第四百十一條

第一ノ原因 他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ 此原因ハ

離婚ニ關スル第八百十三條第五號ニ相當シ唯茲ニハ同居ニ堪ヘサルコトヲ缺クノミ法律カ離縁ニ之ヲ缺キタルハ蓋シ夫婦ハ元來同居スヘキモノナリト雖トモ親子ハ必スシモ然ルモノニ非サルヲ以テナリ故ニ養子カ養親ニ對シテ又ハ養親カ養子ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキハ之ヲ受ケタル者ヨリ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得此ノ如キ場合ニ於テ仍ホ親子タル關係ヲ繼續セシムルハ堪フ可カラサル痛苦アル可ケレハナリ而シテ如何ナル所爲カ虐待ナルカ又重大ナル侮辱ナルカハ事實ノ問題ニ屬スルヲ以テ一ニ裁判官ノ査定ニ依ラサル可カラス

第二ノ原因 他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ 此原因ハ離婚ニ關スル第八百十三條第六號ニ相當シ其理由モ毫モ異ナル所ナキヲ以テ今復々茲ニ説明セサルナリ

第三ノ原因 養親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ 此原因ハ離婚ニ關スル第八百十三條第七號ニ相當ス但シ同條第七號ニハ配偶者ノ直系尊屬ヨリ云々トアレトモ離縁ニ付テハ養親ノ直系尊屬ヨリトアルカ故

ニ離婚ニ付テハ夫カ妻ノ直系尊屬ヨリ若クハ妻カ夫ノ直系尊屬ヨリ虐待ヲ受ケタルヲ問ハス其孰レノ場合ニ於テモ離縁ノ原因ト爲レトモ離縁ニ付テハ養子カ養親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキニ限り離縁ノ原因ト爲リ養親カ養子ノ直系尊屬ヨリ虐待ヲ受ケタリトテ離縁ノ原因タラサルナリ何ントナレハ配偶者ノ直系尊屬ハ他ノ一方ノ姻族ナレトモ養親ト養子ノ直系尊屬トハ何等ノ親族關係ヲ有セサルヲ以テナリ而シテ法律カ養親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタル場合ヲ離縁ノ原因ト爲シタルハ他ナシ養子カ常ニ敬事ス可キ養親ノ直系尊屬ヨリ虐待ヲ受クルトキハ其家ニ在ルニ堪ヘサル可キヲ以テナリ

第四ノ原因 他ノ一方カ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ 此原因ハ離婚ニ關スル第八百十三條第四號ニ相當ス而シテ縁組ノ當事者ノ一方カ刑法上ノ罪人ト爲ルトキハ他ノ一方ノ爲メ大ナル不名譽タル可キモノニシテ此ノ如キ場合ニ仍ホ強井テ養子ノ關係ヲ繼續セシムルハ甚ダ酷ニ失ス然レトモ如何ナル微罪ヲモ離縁ノ原因ト爲スハ其當ヲ得サルヲ以テ法律ハ重禁錮一年以上

上ノ刑ニ處セラレタルトキト爲シタリ離婚ノ場合ト離縁ノ場合トニ依リテ刑期并ニ罪質ニ區別ヲ爲シタルハ蓋シ夫婦ノ間ハ親子ニ比シ一層親密ナラサル可カラサルモノナレハ一方カ犯罪アリテ處刑ヲ受ケタルトキハ他ノ一方ニ於テ之ヲ憐ミ之ヲ助ク可キモノナルヲ以テ夫婦ハ破廉耻最モ甚シキ場合及ヒ罪狀ノ最モ重キモノニ限り離婚ノ原因トセリ之ニ反シテ養親ト養子トノ間ハ此ノ如キ關係アル可キモノニ非サルヲ以テナリ

第五ノ原因 養子ニ家名ヲ瀆シ又ハ家産ヲ傾クヘキ重大ナル過失アリタルトキ 養子ヲ爲スハ多クハ其家ノ家督ヲ相續セシムルニ在リ然ラサルモ永ク其家族ノ一員ト爲ス可キモノナレハ養子ニシテ其家ノ名ヲ瀆シ又ハ家産ヲ傾クルカ如キ重大ナル過失アルトキハ是レ養親カ養子ヲ爲シタル目的ニ反スルモノト云フコトヲ得可シ故ニ此ノ如キ場合ハ離縁ノ原因ト爲サル可カラス養子ノ如何ナル行爲カ其家ノ名ヲ瀆スカ又ハ家産ヲ傾ク可キモノナルヤハ家ノ貧富、其品位等ニ依リテ異ナルモノニシテ各人同一ナラサルモノナレハ一二事實ニ就キテ之ヲ決セサル可カラス

第六ノ原因 養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキ 養子ヲ爲スハ家督ヲ相續セシムルカ又ハ家事ヲ助ケシムルニ在リ然ルニ逃亡シテ三年以上モ復歸セサルトキハ養子ヲ爲スノ目的ニ反スルヲ以テ此場合ニ於テ離縁ヲ許スハ當然ノコトニ屬ス

第七ノ原因 養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ 此原因ハ離婚ニ關スル第八百十三條第九號ニ相當ス而シテ既ニ叙述シタルカ如ク養子ハ之ヲシテ家督ヲ相續セシメ然ラサルモ家事ヲ助ケシムルモノナルニ其生死ニシテ三年以上モ分明セサルトキハ養子ヲ爲シタルノ目的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ其養子ヲ離縁シ更ニ養子ヲ爲スコトヲ許サ、ル可カラ

第八ノ原因 他ノ一方カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ 此原因ハ離婚ニ關スル第八百十三條第八號ニ相當スルモノニシテ其理由全ク同一ナレハ再ヒ茲ニ叙述セサルナリ

第九ノ原因 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚

姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚又ハ婚姻ノ取消アリタルトキ 此原因ハ離婚ニ關スル第八百十三條第十號ニ相當シ全ク其裏面ヲ規定シタルモノニシテ其趣旨同一ナルヲ以テ今復タ茲ニ説カサルナリ

以上ノ原因アルトキニ限リ養親又ハ養子ヨリ裁判所ニ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得尙ホ此外ニ於テハ第八百七十六條ニ定メタル原因アルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモ其他ノ理由ニ依リテハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得サルナリ

離縁訴權ノ代理行使(第八百六十七條) 養子カ滿十五年ニ達セサル間ハ其縁組ニ付キ承諾權ヲ有スル者ヨリ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八百四十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(人事編第四百十三條) 此規定ハ縁組ノ承諾ニ關スル第八百四十三條及ヒ協議上ノ離縁ニ關スル第八百六十二條ト其趣旨ヲ同フスルモノニシテ離縁ノ訴ヲ提起セントスルニ當リ養子カ滿十五年以下ナルトキハ法律上ノ意思能力ナキ者ナレハ何人カ之ニ代リテ離縁ノ訴ヲ提起スルノ道ナカル可カラス是ヲ以テ此場合ニ於テ其縁組ニ

付キ意思ヲ代表スル者ヨリ之カ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトセリ即チ養子ノ實家ニ在ル父母若シ父母ノ一方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ其後見人及ヒ親族會ヨリ其幼者ニ代リテ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得而シテ父母ノ一方カ繼父母又ハ嫡母ナルトキハ其意思ニ加フルニ親族會ノ同意ヲ以テスルコトヲ要ス(第八百四十三條、第八百四十六條)

養親又ハ養子カ禁治産者ナルトキハ其心神ヲ回復セル場合ニ在リテハ後見人ノ同意ヲクシテ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得可シ而シテ其心神喪失中ニ在リテハ人事訴訟手續法第二十五條ニ依リ養親カ禁治産者ナルトキハ其後見人カ親族會ノ同意ヲ得テ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得又養子カ禁治産者ナルトキハ實方ノ直系尊屬又ハ實家ノ戸主カ其訴ヲ提起スルコトヲ得ルコト、セリ
離縁請求ノ消滅原因 (一) 第八百六十八條 第八百六十六條第一號乃至第六號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス



此規定ハ離婚ニ關スル第八百十四條第二項ノ規定ニ相當スルモノニシテ第八百六十六條第一號乃至第六號トハ(一)當事者一方ノ虐待又ハ侮辱(二)惡意ノ遺棄(三)養親ノ直系尊屬ノ虐待又ハ侮辱(四)重禁錮一年以上ノ處刑(五)家名ヲ瀆シ家産ヲ傾ク可キ養子ノ過失(六)三年以上ノ養子ノ逃亡ナリ而シテ本條ニ掲クル六個ノ場合ニ於テ當事者ノ一方ヲシテ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得セシムル所以ハ主トシテ此者ヲ保護セントスル趣旨ニ基クモノニシテ敢テ公益上ノ理由ニ基クモノニ非サレハ此特別保護ヲ受クル當事者ニ於テ離縁ノ訴ノ原因タル不良ノ行爲ヲ宥恕スル以上ハ強弁テ此訴權ヲ存セシムル理由アラサルナリ
(二) 第八百六十九條 第八百六十六條第四號(重禁錮一年以上ノ處刑)ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス
第八百六十六條第四號ニ掲ケタル刑ニ處セラレタル者ハ他ノ一方ニ同一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス(人事編第八十二條第二項、第四百十條第二項)

此規定ハ離婚ニ關スル第八百十四條第一項及ヒ第八百十五條ニ相當スルモノニシテ其理由モ全ク同一ナレハ今復タ茲ニ叙述セサルナリ

(三) 第八百七十條 第八百六十六條第一號乃至第五號及ヒ第八號(自己ノ直系尊屬ニ對スル他ノ一方ノ虐待又ハ侮辱)ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ
此規定ハ離婚ニ關スル第八百十六條ニ相當スルモノニシテ其規定ノ性質全ク同一ナレハ茲ニ復説セス

(四) 第八百七十一條 第八百六十六條第六號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ養親カ養子ノ復歸シタルコトヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其復歸ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百六十六條第六號ハ養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサル場合ナルカ養子カ復歸シタルトキハ離婚ノ原因消滅シタルモノ、如シト雖モ三年以上モ逃亡ヲ爲スカ如キ養子ハ養親ニ於テ之ヲ信任スルコト能ハサル可キヲ以テ復歸シ

タル後ト雖モ仍ホ其離婚ヲ請求スルコトヲ得ルモノトセリ然レトモ養子ノ復歸シタルコトヲ了知シタルニ拘ハラズ長キ間離婚ノ請求ヲ爲サスシテ後年ニ至リ突然離婚ノ請求ヲ爲スコトアラハ是レ多クハ口實ヲ養子ノ逃亡ニ籍リテ實際他ノ理由ニ依リテ離婚ヲ爲サント欲スル者ナラン故ニ法律ハ養親ニ養子ノ復歸後長年月看過スルコトヲ許サス養親カ養子ノ復歸シタルコトヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ復タ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ許サ、ルモノトセリ若シ又養親カ養子ノ復歸シタル事實ヲ知ラサル場合ニ於テモ其事由發生シテヨリ既二十年モ經過シタルトキハ養子ノ非行ニ對スル感情ハ既ニ薄ク眞ニ此原因ノ爲メニ離婚ヲ請求セント欲スル者ハ稀レナル可ク而シテ養子二十年間前逃亡シタルノ過失アリトスルモ今仍ホ同様ノ非行アル可キ者ト看做シ難ク又養子ニ於テハ養親カ養子ノ復歸シタルヲ知レルコトノ證據ヲ舉クルコト能ハサルナリ故ニ法律ハ養子復歸ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ許サ、ルモノトセリ

(五) 第八百七十二條 第八百六十六條第七號(三年以上養子ノ生死カ分明セザ

ルトキノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ養子ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

此規定ハ離婚ニ關スル第八百十七條ト全ク同一ナルヲ以テ茲ニ復説セサルナリ

(六) 第八百七十三條第二項 第八百六十六條第九號ノ事由婿養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキニ因ル離縁ノ訴ハ當事者カ離婚又ハ婚姻ノ取消アリタルコトヲ知リタル後六個月ヲ經過シ又ハ離縁請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス(人事編第四百十八條)

此規定ハ離婚ニ關スル第八百十八條第二項ト同趣旨ナリ唯タ離婚ノ請求ノ期間ハ三個月ナルニ茲ニ規定スル離縁ノ請求期間ヲ六個月ト爲シタル差異アルノミ是レ曩キニ養子縁組ノ取消ニ關シテ説キタル第八百五十三條、第八百五十五條、第八百五十八條第二項ト同一ノ理由ニ基キタルモノナレハ茲ニ復説セサルナリ

第八百六十六條第九號ノ場合ニ於ケル離縁訴權行使ノ方法(第八百七十三條第一項) 第八百六十六條第九號ノ場合ニ於テ離婚又ハ婚姻取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離縁ノ請求ヲ爲スコトヲ得(人事編第四百十八條)

此規定ハ第八百十八條第一項ト同趣旨ニシテ殆ント其裏面ヲ規定シタルニ過キサレハ茲ニ復タ其理由ヲ叙述セサルナリ

以上叙述シタル所ハ裁判上ノ離縁ニ關スル規定ナルカ協議上ノ離縁及ヒ裁判上ノ離縁ニ通スル特別規定アリ之ヲ左ニ叙述セシ

(一) 戸主タル養子ノ離縁(第八百七十四條) 養子カ戸主ト爲リタル後ハ離縁ヲ爲スコトヲ得ス但シ隱居ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス(人事編第四百十五條)

戸主タル養子ノ離縁ヲ許ストキハ一家ノ戸主ヲ廢スルニ至ル夫レ家族制度ヲ執ル一家ノ戸主權ハ一家ヲ管理スル絶對ノ權利ナレハ既ニ戸主ト爲リタル上ハ戸主ニ如何ナル事由アルモ其意思ニ反シテ他ヨリ之ヲ排斥スルコトヲ許サス亦隨テ養子カ戸主ト爲リタル後モ養子ヲ離縁シ戸主權ヲ排斥セシムルコトヲ得ス然レトモ養子カ隱居ヲ爲ストキハ再ヒ家族ト爲ルカ故ニ之ヲ離縁スル

トモ毫モ戸主權ニ影響ヲ及ホサルヲ以テ隱居ヲ爲シタル養子ヲ離縁スルコトハ恰モ家族タル他ノ養子ヲ離縁スルコトヲ得ルト同シク許サル可カラス唯タ養子カ隱居ヲ爲スニハ法定ノ條件第七百五十二條乃至第七百五十五條ヲ具備セサル可カラサルコトハ勿論ナリ而シテ戸主カ隱居ヲ爲スニハ縱令ヒ法定ノ條件ヲ具備スト雖モ戸主獨リ任意ニ之ヲ爲スニ止マリ如何ナル事由アルトモ他ヨリ戸主ニ對シ訴ヲ以テ隱居ヲ爲サシムルコトヲ得ス故ニ戸主タル養子ニ離縁ノ原由生シタルトキハ法定ノ條件ノ具備シタル場合ニ於テ養子カ任意ニ隱居ヲ爲シタル後ニ非サレハ離縁ヲ爲スコトヲ得サルナリ

此規定ハ一見スルトキハ從來ノ慣行ニ反スルカ如シト雖モ其實然ラサルナリ從來養子カ戸主タルトキ之ヲ離縁セントスルニハ戸主ノ儘離縁スルコトヲ許サス一旦戸主ヲ廢シテ養子ヲ離縁スルヲ例トセリ故ニ戸主タル養子ヲ離縁スル訴訟ニ廢戸主離縁請求ト題スルモノ多カリシナリ

(二) 離縁ノ效力(第八百七十五條) 養子ハ離縁ニ依リ其實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復ス但シ第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

養子カ離縁シタル場合ニ於テ第七百三十九條ノ規定ニ從ヒ實家ニ復籍シタルトキ爾後實家ニ於テ如何ナル關係ヲ有スルカ曾テ養子タラサル以前實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復スルカ將タ復籍後新ニ之ヲ取得スルモノナルカ養子ハ縁組ニ因リ實家ニ於ケル親族關係ヲ失ヒタルモノニ非ス之カ爲メニ養家ニ於ケル親族關係ヲ増シタルモ實家ニ於ケル關係ハ依然タルナリ例之ハ實家ノ父母、兄弟、姊妹ハ同シク父母、兄弟、姊妹ナリ又實家ニ於テ嫡出子又ハ庶子タリシナラシニハ養子縁組ノ後モ同シク實家ノ父母ノ嫡出子又ハ庶子タルナリ故ニ離縁ノ後養子カ其實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復スルトハ右ノ親族關係ヲ指スニ非スシテ養子カ實家ニ於テ其身分ニ付キ有セシ權利義務等ヲ回復スルコトヲ云フニ外ナラサルナリ例之ハ養子ハ實家ニ復歸シテ相續權ヲ有シ親權及ヒ戸主權ニ服スルカ如キ是レナリ若シ養子カ離縁ニ因リ實家ニ復籍シタルトキ以前有セシ權利ヲ回復スルコトナクシテ復籍ノ時ヨリ新ニ其家ニ入りタル者ト同一ノ權利ヲ有スルモノトスルトキハ次男ニシテ實家ニ兄(長男)ト弟(三男)トアリタル場合ニ於テ他家ノ養子ト爲リ兄(長男)死亡シタル後離縁シテ實家ニ復籍

シタリトセシ歟此場合ニ於テハ三男カ父ノ相續權ヲ有ス可シ又次男ニシテ實家ニ兄(長男)ト妹トアル場合ニ於テ他家ノ養子ト爲リ實家ニ於テハ兄死亡シタルヲ以テ妹ニ他ヨリ婿養子ヲ爲シタル後ニ至リ離縁シテ實家ニ復籍シタリトセシ歟此場合ニ於テハ婿養子相續權ヲ有ス可シ然レトモ他家ノ養子タリシ者ハ本條ノ規定ニ依リ曾テ實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復スルカ故ニ第九百七十七條第一項第五號ノ規定ニ從ヒ當然實家ノ相續權ヲ有ス可シ然レトモ養子離縁ノ爲メ實家ニ於テ第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ侵害スルコトアルニ拘ハラズ離縁シタル者カ其權利ヲ回復スルコトヲ得ルモノトスレハ第三者ハ意外ノ損失ヲ被ムルコトアル可キヲ以テ法律ハ但書ヲ設ケ第三者ノ權利ヲ保護シ實際上ノ弊害ヲ豫防セリ故ニ前ニ擧ケタル例ニ於テ養子離縁ノ際弟(三男)又ハ妹婿カ既ニ父ノ相續ヲ爲シタル後ナルニ於テハ養子タリシ者ハ此相續人ヲ排斥シテ相續ヲ爲スコトヲ得サルナリ

(三) 第八百七十六條 夫婦カ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ妻カ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキハ夫ハ其選擇ニ從

ヒ離縁又ハ離婚ヲ爲スコトヲ要ス

夫婦カ共ニ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻シタル場合ニ於テ其一方ノミヲ離縁スルヲ得可キコトハ既ニ叙述セリ然レトモ夫婦ノ一方ノミ他ノ養子ト爲リテ居リナカラ離縁シタル者ト依然夫婦ノ關係ヲ存スルコトハ許ス可キニアラサルナリ何トナレハ本法ノ規定(第七百四十五條、第七百六十四條第二項、第七百八十八條)ニ依リ夫婦家ヲ異ニスルコトヲ得サレハナリ若シ夫婦中ノ夫ノミ離縁ト爲リタル場合ニ於テハ妻ハ當然夫ニ隨ヒテ其家ニ入り之ト同時ニ離縁ト同シク其養家ニ對スル親族關係ヲ脱スルモノナレハ此場合ニ於テハ何等ノ支障ヲ生セサルナリ之ニ反シテ妻ノミ離縁セラレテ養家ヲ去リタルトキハ夫ハ固ヨリ當然妻ノ家ニ入ルモノニ非ス是ヲ以テ夫ハ此場合ニ於テ養家ニ對スル縁組關係カ若クハ妻ニ對スル婚姻關係カ孰レカ其一ヲ絶タサル可カラズ然レトモ法律上此ノ如キ場合ニ夫カ絶ツ可キモノヲ豫メ指示シテ夫ノ自由ヲ拘束スルコトハ人情ニ反シ其當ヲ得サルヲ以テ本法ハ夫ヲシテ縁組關係ヲ絶ツ可キカ將タ婚姻關係ヲ絶ツ可キカニ付キ夫ニ選擇權ヲ與ヘ或ハ協

議ニ依リ或ハ裁判所ニ請求シテ離縁又ハ離婚ノ孰レカヲ爲スコトヲ要スルモノトセリ

第五章 親權

親權ノ性質 親權トハ法律カ子ノ身分及ヒ財産ニ關シテ其家ニ在ル父又ハ母ニ對シテ附與シタル權利及ヒ義務ノ集合ナリ此定義ニ從フトキハ親權ヲ有スル者ハ子ト家ヲ同フスル父母ニ限ルカ故ニ縱令父母ト雖モ子ト家ヲ同フセサル者ハ此權利ヲ有セス而シテ祖父母其他ノ尊屬親ハ勿論戸主ノ如キモ父母ニ非サル限りハ親權ヲ有セス又家ニ在ル父母カ繼父母又ハ嫡母ナルトキハ親權ヲ有スト雖モ其權利ハ實父母養父母ノ如ク完全ナラスシテ制限セラル、所アリ(第八百七十八條)而シテ子ニ付テ云ヘハ親權ニ服スル者ハ嫡出子タルト庶子タルト私生子タルトニ付キ區別アラサルナリ
親權ニ服スル子ノ年齢ハ之ヲ成年ニ達スル迄ト限ラサルカ故ニ其年齢ニ付テハ制限ナシト雖モ法律ノ規定上成年者ニ對スル親權ノ效力ハ極メテ薄弱ナリ

獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ親權ニ服セス(第八百七十七條)然レトモ獨立ノ生計ヲ立ツル成年ノ子ト雖トモ婚姻(第七百七十二條)協議上ノ離婚(第八百九條)養子縁組(第八百四十四條)協議上ノ離縁(第八百六十三條)ヲ爲スニ付テハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
法律カ親權ヲ設ケタル趣旨ハ親權ヲ有スル者ノ直接ノ利益ノ爲メニ非スシテ親權ニ從フ者ノ直接ノ利益ノ爲メナリ元來親ハ其子ヲ養育シ教育スルノ義務アリ而シテ其養育教育ノ義務ヲ盡スニハ能ク其子ヲ養育シ得ルノ状態ニ在ラシメサル可カラス蓋シ親ヲシテ能ク其子ヲ教育シ得ルノ状態ニ在ラシメント欲セハ先ツ親ニ之ヲ制御スルノ權ヲ與ヘサル可カラス換言スレハ監護ノ權ヲ與ヘテ父母ノ住家ヲ去リタル子ヲ歸家セシムルノ權力ヲ得セシメ又懲戒ノ權ヲ與ヘテ重大ナル不行跡ノ子ヲ感化場又ハ懲戒場ニ入ル、ノ權力ヲ得セシムルコトヲ要スルカ如キ是ナリ又子自カラ其利益ヲ保護スルノ能力ナキカ故ニ父又ハ母ハ之ニ代ハリテ其利益ヲ保護ス而シテ親權ハ此點ニ付テハ子ノ利益ヲ保護スルヲ以テ其目的ト爲スカ故ニ親權ヲ行フ者カ爲ス行爲ノ範圍ハ子ノ

利益ヲ害セサルヲ限度トシ其不利益タル可キ行爲ハ決シテ之ヲ許ルサ、ルナ
 リ
 親權ノ設定ノ目的ハ右ニ説クカ如ク主トシテ子ノ直接ノ利益ノ爲メナレトモ
 又國家及ヒ父母モ亦之カ爲メニ間接ノ利益ヲ有ス其國家ノ利益トシテハ親權
 ノ設定ナキトキハ教育ナキ不長ノ徒ヲ増シ國家ノ自存及ヒ發達ヲ妨ク可ク財
 産管理ノ能力ナキ者ノ財産ヲ抛擲スルハ國家經濟ノ利益ヲ害スルナリ又親權
 ヲ行フ者ノ利益トハ子カ完全ニ發達スルト否トハ親ノ利益ニ重大ノ影響ヲ及
 ホスコトハ言ヲ俟タサルナリ
 親權ハ子ノ保護ノ爲メニ設ケラレ後見ノ制度モ亦然ルモノニシテ未成年者ノ
 爲メニハ保護ニ付キ二個ノ方法アリト雖モ子カ其家ニ於テ父母ヲ有スルトキ
 ハ親權ニ依リテノミ保護ヲ受ク此場合ニハ後見ヨリ生スル保護ヲ受ケサルナ
 リ其後見ヲ以テ未成年者ヲ保護スルハ父母ナキトキニ限ルナリ然レトモ母ノ
 ミ存スルトキト雖モ母ニシテ子ノ財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ其財産ノ管理
 ニ付テハ母アルニ拘ハラズ後見ノ開始ヲ見ル可シ(第八百九十九條第九百條第

一號)故ニ未成年者ノ爲メニハ二個ノ保護アリト雖モ同時ニ二個重複ノ保護ヲ
 受クルニアラサルナリ

親權ト戸主權 親權ヲ行フ者カ一家ノ戸主ナルトキハ親權ト戸主權ト同一人
 ニ集マルカ故ニ此等二者ノ衝突ヲ見ルコトナシト雖モ若シ親權ヲ行フ者ノ外
 ニ戸主アルトキハ親權ニ服スル者ハ同時ニ戸主權ニモ服セサル可カラサルモ
 ノニシテ此二者ハ相互ニ衝突スルニアラサルカノ疑ナキ能ハス然レトモ深ク
 新法ヲ檢覈スルトキハ決シテ衝突スルモノニアラサルナリ先ツ親權ハ子ノ身
 上及ヒ財産上ノ利益ヲ圖リテ之ヲ設ケ戸主權ハ家ノ利益ノ爲メニ之ヲ設ケタ
 ルモノナルカ故ニ其目的自ラ同シカラサルモノナリ例ヘ之ハ子ノ教育懲戒其
 財産ノ管理等ハ専ラ親權ノ作用ニ屬シ毫モ戸主權ニハ關係ヲ有セサルナリ戸
 主權ハ家族ノ居所ヲ定メ其婚姻養子縁組ヲ許否シ其他家族カ其家ヲ辭シテ他
 家ニ入り他家ヨリ其家ニ入ルニ付キ同意ヲ表シ又ハ不同意ヲ唱フルノ權ヲ有
 スルニ過キス換言スレハ戸主ハ家ノ管理ヲ以テ目的トシ親權ハ人ノ保護ヲ以
 テ目的ト爲ス而シテ前者ハ其效力家ノ全体ノ利害ニ影響ス可キモノ、外ヲ出

テス後者ハ其效力專ハラ各個人ノ身上財産ニ對スルモノニシテ其目的效力ヲ異ニスルカ故ニ二者衝突シテ家内ノ平和ヲ破ルノ恐アラサルナリ然レトモ戸主ハ家族ノ居所ヲ定ムル權ヲ有シ(第七百四十九條)親權ヲ行フ者モ亦同一ノ權ヲ有ス(第八百八十條)又家族カ婚姻又ハ縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ要シ尙ホ其外家ニ在ル父母(親權ヲ行フ者)ノ同意ヲモ要ス可キヲ以テ其一方カ定メタル居所ト他ノ一方カ定メタルモノト同シカラサルコトアル可ク又ハ縁組ニ付テモ兩者ノ意見同シカラサルコトアル可シト雖モ此等ノ場合ニ於テハ親權者カ戸主ノ定メタル居所又ハ婚姻又ハ縁組ニ關スル其意見ニシテ未成年者ノ爲メ甚タ不利益ト認メ戸主カ與フ可キ制裁ヲ甘受シテ子ノ居所ヲ定メ婚姻又ハ縁組ヲ爲スヲ得ルコトハ成年ノ家族カ之ヲ爲スト敢テ異ナルコトナシ故ニ此等ノ事項ニ關シテモ兩者ノ間ニ衝突アル可キ謂ハレナキナリ

本章ハ之ヲ分チテ三節トス即チ第一節總則第二節親權ノ效力第三節親權ノ喪失是レナリ

第一節 總則

此節ニ於テ親權ヲ行フ者及ヒ親權ニ服スル者ハ何人ナルヤヲ定ム

親權ニ服スル者及ヒ親權ヲ行フ者(第八百七十七條) 子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ス但シ獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ此限ニ在ラス

父カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ(人事編第四百十九條)

(一) 親權ニ服ス可キ者ハ未成年ノ子ニ限ル可キヤ或ハ未成年成年ヲ問ハサル可キヤハ諸國ノ立法例異ナル所ナリト雖モ其多クハ未成年ノ子ニ限ル然レトモ稀レニ一層制限シ未成年者ニシテ未タ自治産ノ宣告ヲ得サル者ニ限り既ニ之ヲ得タル者ハ未成年者ナリト雖モ親權ニ服セサルコト、スルモアリ舊人事編ハ何等ノ制限ヲモ設クスシテ廣ク親權ハ父之ヲ行フ云々ト規定シタレハ解釋上成年ノ子ニ對シテ親權ヲ行フコトヲ得ルモノト爲シタレトモ是レ從來ノ慣習ニ反スルヲ以テ新法ハ以上ノ立法例ト吾國情トニ基キ原則トシテ親權ニ服

スル者ハ子ノ成年ト未成年トヲ分タサルコト、シタレトモ其例外トシテ獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ親權ニ服セサルモノトシタリ而シテ獨立ノ生計ヲ立ツルヤ否ヤハ固ヨリ事實問題ニシテ裁判官ノ査定ニ任ス可キモノナレトモ獨立ノ生計ヲ立ツルトハ自己ノ資産若クハ勞務ニ因リテ生活スルヲ云フ獨立ノ生計ヲ立テサル成年者ハ其戸主タルト家族タルト又婚姻ヲ爲シタル者ト否トヲ問ハス常ニ親權ニ服スルモノトス獨立ノ生計ヲ立テサル成年者カ婚姻ヲ爲シ子ヲ舉ケタルトキハ己レ自身ハ親權ニ服スレトモ之ニ拘ハラズ其子ニ對シテハ親權ヲ行フコトヲ得若シ親權ニ服スル未成年者カ婚姻ヲ爲シテ子ヲ舉ケタルトキハ其子ニ對スル親權ハ其父タル未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者之ニ代ハリテ親權ヲ行フ然レトモ親權ノ效力ハ懲戒權ヲ除クノ外ハ單ニ未成年者ニ付テノミ存スルモノトセリ(第八百七十九條乃至第八百八十五條故ニ成年者ニ對スル親權ノ效力ハ實際ニ於テハ至テ薄弱ナリ)

(二) 親權ヲ行フ者ハ原則トシテハ其家ニ在ル父ナリ然レトモ私生子ノ如ク父カ知レサルトキ父カ死亡シタルトキ又ハ分家ヲ爲シ廢絶家ヲ再興シ他家ノ養子

ト爲リ、養子カ離縁ヲ爲シ、入夫カ離婚ヲ爲シタル等ニテ其家ヲ去リタルトキ又ハ不在、心神喪失等ニテ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ可キモノトセリ

古昔羅馬ニ於テハ親權ノ設定ハ專ラ父ノ利益ノ爲メニスルノ精神ニ出テタレトモ近世諸國ノ立法ニ於テハ主トシテ子ノ利益ノ爲メニスルノ主義ヲ取レルカ故ニ子ノ天然ノ保護者タル父及ヒ母ニ親權ヲ屬セシメタリ然レトモ是レ父母同時ニ之ヲ行フニ非スシテ母ハ以上叙述スルカ如ク父カ親權ヲ行フコト能ハサルトキニ限り之ヲ行フナリ而シテ親權ハ父又ハ母ト雖モ子ト家ヲ同フスル者ニ限ル故ニ養子縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル子ニ對シテハ實家ノ父母ハ親權ヲ行フコトヲ得ス又子カ家ヲ去リタルニ非スシテ親權ヲ行フ者カ分家若クハ本家相續ノ爲メ又ハ離縁若クハ離婚シテ其家ヲ去リタル場合ニ於テモ親子家ヲ異ニスルヲ以テ親權ヲ行フコトヲ得サルナリ而シテ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者ハ實家ノ親權ヲ脱スルト同時ニ養家ノ親ノ親權ニ服スルモノトス

法律カ親權ヲ行フ者ヲ家ニ在ル父又ハ母ニ限リタルハ蓋シ吾邦從來ノ慣習ニ依レハ家ヲ異ニスル父又ハ母ハ子ニ對シテ十分ナル權力ヲ有セサルモノニシテ苟モ家族制ヲ存スル以上ハ全ク此慣習ヲ度外ニ措クコト能ハサルヲ以テナリ故ニ他ニ在リテ繼父若クハ養親ト家ヲ同フスル者ハ其愛情ヨリ云ヘハ血縁アル實父カ親權ヲ有シテ可ナルモノ、如シト雖モ子ヲ其家風ニ適スル樣訓戒スルカ如キニ至リテハ家ヲ同フスル父ノミ適當ニシテ他ニ在ル實父ニ容喙セシム可キモノニ非ス此ノ如キ事ニ關シテハ實父ハ權力ヲ有セサルヲ以テ右ノ如キ規定ヲ設ケタルナリ

繼父母及ヒ嫡母ニ特別ナル規定(第八百七十八條) 繼父繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ次章(後見ノ章)ノ規定ヲ準用ス(人事編第百五十條乃至第六十條)

繼父母又ハ嫡母モ親權ヲ有スト雖モ此等ノ者ハ子ト自然ノ血縁ヲ有セサルヲ以テ愛情ニ乏シク相敵視スルコトナシトセサルモノニシテ此等ノ者ハ子ノ十分ナル保護者ニアラサルヲ以テ繼父母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ後

見ニ關スル規定ヲ準用シ此等ノ者ハ後見人ト同一ノ權力ヲ有スルニ止マル者トセリ

第二節 親權ノ效力

監護及ヒ教育ヲ爲スノ權利及ヒ義務(第八百七十九條) 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲ス權利ヲ有シ義務ヲ負フ(人事編第百五十條第百五十一條)

監護及ヒ教育ハ專ラ子ノ身上ニ關スルモノニシテ法律カ親權ノ制ヲ設ケタルハ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲サシムルニ在リテ子カ此等ノ保護ヲ受クルハ專ラ未成年ノ間ニ在リ故ニ此規定ハ未成年者ノミニ關ス而シテ監護トハ監督、保護ニシテ子ノ發育ヲ圖ルニ在リ故ニ別ニ之カ說明ヲ爲スヲ要セサレトモ教育ニ付テハ親權者ハ如何ナル程度ニ子ヲ教育セシム可キヤ例之ハ高等教育ヲ授ク可キヤ又ハ中等教育又ハ下等教育ニ止ム可キヤ等ハ各人ノ身分及ヒ資力ニ應ス可キモノナレハ法律ハ別ニ之カ程度ヲ定メス又其教育ノ方法モ同シク其身分

資力及ヒ子ノ性質等ニ依リテ定ム可キモノナレハ法律ハ之ヲ前者ト共ニ一ニ親權者ノ判斷ニ任スルコト、セリ

子ノ監護及ヒ教育ハ一方ニ於テハ父又ハ母ノ權利ナレトモ又他ノ一面ヨリ云フトキハ其義務タルナリ

茲ニ注意ス可キハ親ハ小學校令ニ依リ子ヲ小學校ニ入ラシム可キ義務アリ而シテ親ハ其義務ヲ盡スヲ以テ其子ニ對シ教育ニ關スル義務ヲ盡シタリト云フヲ得ス小學校令ヨリ生スル親ノ義務ハ公法上ノ義務ニシテ子ト親トノ關係ニ非ス之ニ反シテ親權ヨリ生スル義務ハ私法上ノ關係ニシテ親子間ノ權利義務ヲ規定シタルモノナレハ身分ノ高キ者資力ヲ有スル者ハ其身分資力ニ相應スル教育ヲ爲サシム可キ義務アルモノニシテ公法上ノ義務ナル小學校ニ入ル、ヲ以テ足レリトセス尙ホ高等ノ教育ヲ受ケシメサル可カラサルナリ

此規定ハ既ニ説キタルカ如ク子ノ身上ニ關スルニ止マリ其財産ニ關セサレハ子ノ教育ハ必スシモ親ノ費用ヲ以テス可シト云フニアラサルナリ子ノ教育ノ費用ハ原則トシテハ子ノ財産ヲ以テ之ヲ支辨ス可ク唯タ其財産ナキトキニ非

サレハ父ハ其費用ヲ負擔セサルナリ(第九百五十九條)

居所指定ノ權(第八百八十條) 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母カ指定シタル場所ニ其居所ヲ定ムルコトヲ要ス但シ第七百四十九條ノ適用ヲ妨クス(人事編 第五百十條)

戸主カ其家族ノ居所ヲ指定スル權ヲ有スルコトハ曩ニ第七百四十九條ニ付キ説キタル所ナルカ親權者モ未成年ノ子ニ對シテハ其居所ヲ指定スルコトヲ得ルモノトセリ是レ監護教育ノ權利ヨリ生スル重要ナル效果ノ一ナリ若シ未成年者ニ隨意ニ其居所ヲ定ムルコトヲ許ストキハ或ハ浮浪惡好ノ徒ト交リ監護教育ノ權利ハ毫モ其目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ル可キヲ以テ此規定ヲ設ケタリ

親權者カ戸主ニ非サルトキハ未成年ノ子ニ對シテハ其居所ヲ定ムル者二人アルヲ以テ其間ニ意見ノ衝突アルトキハ孰レノ意見ニ從フ可キヤ例之ハ戸主ハ其家ニ居ラシメント欲シ親權者ハ東京ノ學校ニ入レシメントシタルカ如キ場合ニ於テ親權者ハ原則トシテハ戸主ノ意見ニ從フ可シト雖モ若シ戸主ノ意見

ニ從ヒ家ニ留ムルヲ以テ子ノ爲メ不利益ナリトスルトキハ親權者ハ自己ノ意見ニ從ヒ子ヲ自己ノ指定シタル場所ニ居ラシムルコトヲ得可シ然レトモ戶主ハ固有ノ戶主權ヲ有スルヲ以テ此場合ニ於テ戶主カ其權利ヲ實行セント欲スルトキハ之カ實行ヲ妨クルコトヲ得サルモノナレハ法律ハ實行ノ爲シ得ラル、限リ實行セシム可キモノトセリ故ニ子カ親權者ノ意見ニ從ヒタルトキハ戶主權者ハ自己ノ戶主權ニ服從セサル者カ未成年者ナルニ於テハ之ヲ離籍スルコトヲ得サレトモ(第七百四十九條第二項)此場合ニ於テハ第七百四十九條第二項ノ規定ニ從ヒ扶養ノ義務ヲ免ル可シ曩ニ叙述シタルカ如ク親權ノ效力ノ成年ノ子ニ及フハ懲戒權ノミナレハ本條ノ規定スル所モ未成年者ノミニ關スルナリ未成年ノ子カ父又ハ母ノ居所ノ指定ニ從ハサルトキハ如何ナル制裁アルカ親權者カ戶主ニアラサルトキハ自己ノ權ニ服セサル子ニ對シテハ戶主ノ如ク扶養義務ヲ免ル、コトヲ得ス而シテ民法ニハ別ニ其制裁ヲ設ケサレハ唯本條規定ノ強制ノ方法トシテハ公力ニ訴ヘテ之カ實行ヲ爲スコトヲ得可シ例之ハ訴

訟ヲ提起シ若クハ警察ノ力ニ頼ルコトヲ得可ケレトモ本條ハ唯其權利ノ本則ヲ定メタルニ止リ其強制ノ方法ノ如キハ本法ノ關スル所ニ非サルナリ兵役ノ出願ヲ許否スル權利(第八百八十一條)未成年ノ子カ兵役ヲ出願スルニハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(人事編第一百五十條)此規定モ第八百七十九條ノ適用ニ過キス而シテ徵兵令(明治二十二年法律第一號第十二條)ニ依レハ十七歳以上ノ男子ハ兵役ヲ出願スルコトヲ得ルヲ以テ未成年ノ子カ兵役ヲ出願セントスルトキハ是レ大ニ子ノ身上ニ重要ノ影響ヲ有スルモノナレハ未成年ナル場合ニ限リ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得可キモノトセリ懲戒權(第八百八十二條)親權ヲ行フ父又ハ母ハ必要ナル範圍内ニ於テ自ラ其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ懲戒場ニ入ル、コトヲ得子ヲ懲戒場ニ入ル、期間ハ六個月以下ノ範圍内ニ於テ裁判所之ヲ定ム但シ此期間ハ父又ハ母ノ請求ニ因リ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得(人事編第一百五十一條、第五百二十二條、非訟事件手續法第九十二條)

此懲戒權ハ曩ニモ叙述シタルカ如ク未成年者ニ限ラス成年者ニモ關スルモノニシテ其作用ハ法律ニ於テハ之ヲ一定セス或ハ叱責スルコトアリ或ハ毆打スルコトアリ或ハ室内ニ監禁スルコトアリテ此ノ如キハ一ニ親權者一己ノ所存ニ在リト雖モ其程度ニ至リテハ餘リ甚シクシテ慘酷ニ陥非リ爲メニ子カ創傷ヲ受クルカ如キハ法ノ許サ、ル所ナリ故ニ必要ナル範圍ニ於テト云ヒ實ニ已ムヲ得サル場合ニ於テ相當ノ程度ニ於テ懲戒ヲ加フルコト、セリ而シテ其程度ハ全ク事實問題ニ屬スルモノナレハ一ニ裁判官ノ査定ニ任セサル可カラス若シ親權者カ其程度ヲ失シ親權ヲ濫用スルコトアラハ其權ノ作用ハ子ノ保護ト爲ラスシテ却テ害ト爲ル可ケレハ此場合ニ於テハ第八百九十六條ニ規定スル制裁ヲ受ク親權者ハ其權利ヲ喪失スルコトアル可キナリ親權ノ濫用甚シクシテ子ヲ毆打創傷シ又ハ慘酷ニ監禁制縛シテ衣類飲食ヲ屏去スル等苛刻ノ所爲アルトキハ管ニ親權者ハ其權利ヲ喪失スルノミナラス刑法ノ制裁毆打創傷又ハ擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪ヲ受ク可キヤ論ヲ俟タサルナリ何トナレハ懲罰ヲ加フルノ權利ハ國家ニ專屬スルモノニシテ個人カ擅ニ之ヲ爲スコトヲ得可

カラサレハナリ故ニ父又ハ母ノ專斷ニ依ル懲戒權ハ必要ナル範圍ヲ脱セサルコトニ注意セサル可カラス

親權者ハ自己ノ專斷ヲ以テ爲ス懲戒ノ外尙ホ進ンテ子ヲ懲戒場ニ入ル、コトヲ得可シ然レトモ之カ爲メニハ特ニ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス而シテ懲戒場トハ民法ニ於テハ如何ナル場所ナルコトヲ定メスト雖モ刑法(第七十九條第八十條、第八十二條)ニ所謂懲治場ノ如キモノヲ指スモノニシテ感化院ノ如キモノハ此中ニ算セサルナリ何トナレハ懲戒場ハ子ノ罪惡ヲ懲戒矯正スル目的ヲ有スル場所タル可シト雖モ感化院ハ之ト異ナリ其目的寧ロ教育ニ屬スルモノニシテ之ニ入ル、カ如キハ別ニ裁判所ノ許可ヲ受クルノ必要アラサレハナリ而シテ懲戒場ニ入ル、ノ期間ハ法律ニ於テ之ヲ制限シ如何ナル場合ニ於テモ其最長期ハ六ヶ月ヲ超過セサルコト、セリ又一旦裁判所カ定メタル期間ト雖モ父又ハ母ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得ルモノトセリ蓋シ懲戒場ニ入ル、コトハ實際ニ於テハ殆ント刑罰ヲ行フニ等シク全ク子ノ自由ヲ束縛スルモノナレハ其期間長キニ失スルトキハ却テ害アルヲ以テ之

カ期間ヲ制限シタルナリ故ニ若シ六ヶ月ノ入場ニテ尙懲戒ニ不足ナリトセハ一旦其期間ヲ經過シタルトキ出場シタル上更ニ裁判所ノ許可ヲ得テ法ノ許ルセル範圍内ニ於テ入場セシムルモ可ナリ

子ヲ懲戒場ニ入ル、可キ裁判所ノ決定ニ對シテハ其裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスル者即チ父又ハ母及ヒ子ハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得(非訟事件手續法第二十條)又檢事モ同シク抗告ヲ爲スコトヲ得(同第九十二條)營業ノ許可取消又ハ制限ノ權利(第八百八十三條)未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルニ非サレハ職業ヲ營ムコトヲ得ス

父又ハ母ハ第六條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得(人事編第二百十六條、第二百二十一條、財産編第五百五十條第一項)此規定モ亦第八百七十九條ノ適用ニ過キササルモノニシテ子ノ職業ニ就テノ得失及ヒ其種類如何ハ尙ホ教育ニ於ケルト同シク重大ナル關係ヲ有スルモノナルカ故ニ法律ハ親權者之ヲ許ルス可キモノトセリ一旦許可シタル職業ト雖モ親權者ニ於テ若シ其子カ之ニ堪ヘサルモノト認ムルトキハ其許可ヲ取消シ若

クハ其範圍ヲ制限スルコトヲ得可キモノトセリ而シテ其職業ハ單ニ商法ニ於テ謂フ所ノ營業ノミヲ指スニ非スシテ廣ク職業ニ就クコトヲ云フ故ニ學校ノ教員ト爲ルモ又ハ醫師工匠ト爲ルモ此中ニ包含セラル、ナリ

民法第六條ハ未成年ノ子カ營業ヲ許サレタル場合ノ能力ヲ規定シ其何人カ之ヲ許可シ其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限ス可キヤハ之ヲ親族編ニ讓リタルモノニシテ本條即チ之ヲ規定セルナリ

此規定モ成年者ニハ關セス未成年者ノミニ適用ス可キコトハ論ヲ俟タサルナリ

子ノ財産ニ對スル權利(第八百八十四條)親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法律行為ニ付キ其子ヲ代表ス但其子ノ行為ヲ目的トスル債務ヲ生スヘキ場合ニ於テハ本人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(人事編第五百十三條、第五百十四條)

是迄叙述シタル所ハ主トシテ子ノ身上ニ關スル規定ナリシカ是ヨリ説ク所(本條以下第八百九十四條ニ至ル迄)ハ專ハラ其財産ニ關スルナリ而シテ財産ニ關

スル親權ノ效力ハ之ヲ三種ニ區別スルコトヲ得可シ即チ一ハ財産ヲ管理スルノ權一ハ子ニ對スル法定代理權ニシテ他ノ一ハ子ノ法律行為ニ同意ヲ與フルコト是レナリ

子ノ財産ノ管理 管理ナル語辭ハ處分ナル語辭ニ對スルモノニシテ民法ノ總則編其他諸所ニ散見スル所ナレハ茲ニ之カ詳説ヲ爲ス必要ナシト雖モ財産ノ管理トハ其保存改良利用ヲ目的ト爲シ財産ノ利益ヲ圖ルコトヲ云フナリ未成年ノ子カ財産ヲ有スルトキハ自カラ之ヲ管理スル能力ヲ有セサルヲ以テ何人カ未成年ノ子ニ代ハリテ管理セサル可カラス是ヲ以テ法律ハ此管理ヲ親權ヲ行フ者ニ與ヘタリ

此管理權ハ子ノ一切ノ財産ニ及フテ原則トスレトモ二クノ例外アリ即チ(一)營業ヲ許サレタル未成年者ハ第六條ノ規定ニ從ヒ營業ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有スルカ故ニ其營業ニ關シテハ未成年者自カラ之ヲ管理シ親權者ハ其權利ヲ行フコトヲ得ス(二)第三者カ無償ニテ子ニ財産ヲ與ヘ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シタルトキハ第八百九十二條ノ規定ニ依リ親權者ハ子ノ財産ノ管理權ヲ有セサルナリ

此管理權ハ親權者ノ權利タルト同時ニ義務タルヲ以テ親權者ハ原則トシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス然レトモ父母ノ中母ノミハ例外トシテ之ヲ辭スルコトヲ得可シ(第八百九十九條)

法定代理權 未成年ノ子ハ自カラ財産ニ關スル法律行為ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ父又ハ母ハ其法定代理人ト爲ル而シテ此權利ノ範圍ハ極メテ廣ク苟クモ事ノ財産ニ關スルモノハ一切未成年者ヲ代表スルモノニシテ管タニ財産ノ管理ニ付テノミナラス子ノ一切ノ財産ノ處分ニモ及フ而シテ唯タ母ニ付テノミ制限(第八百八十六條)アルニ止リ父ニ付テハ制限ナキヲ以テ父ハ如何ナル行為ト雖モ獨斷ニテ爲スコトヲ得可シ例之ヘハ父ハ其獨斷ニテ子ニ屬スル不動產ヲ讓渡シ子ノ爲メニ借財ヲ爲スコトヲ得可シ然レトモ茲ニ唯タ一ノ例外アリ即チ子ノ行為ヲ目的トスル債務ヲ生ス可キ場合ニ於テハ父ハ獨斷ニテ爲スコトヲ得ス此場合ニハ子ノ同意ヲ得サル可カラス例之ヘハ子ヲ他人ノ雇人ト爲スカ如キ是レナリ是レ蓋シ子ノ身軀ノ自由ヲ束縛スルノ結果ヲ生ス可キヲ

以テナリ人ノ自由ヲ束縛スルハ重要ナレハ父母ト雖モ子ノ承認ナクシテ此ノ如キ契約ヲ爲スコトヲ得サルモノトセリ

本條ノ規定ハ未成年ノ子ハ自己ノ財産ニ付キ全ク何等ノ行爲ヲモ爲スコトヲ得サル旨ヲ意味スルモノニ非ス未成年ノ子ト雖モ自カラ法律行爲ヲ爲スヲ得可キコトハ既ニ第四條ニ規定スル所ナレハ同條ニ從ヒ未成年ノ子カ法定代理人ノ同意ヲ得テ自カラ爲シタル法律行爲ハ有效タルナリ又第五條ノ規定ニ從ヒ豫メ法定代理人ヨリ處分ヲ許サレタル財産ニ付テハ未成年者ハ隨意ニ之ヲ處分スルコトヲ得可キナリ故ニ本條ノ規定アルヲ以テ一概ニ未成年者ハ常ニ財産ニ關スル法律行爲ニ付テハ父又ハ母ヨリ代表セラル可シト云フコトヲ得サルナリ

又右代表權及ヒ同意權ニ關スルモノハ原則トシテ財産ニ止マルモノナルカ故ニ婚姻、離婚、養子縁組、離縁轉籍、分家、他家ノ相續又ハ再興等子ノ人事ニ關スルモノ、如キハ特ニ明文ヲ以テ代表權ヲ規定シタルモノ、外ニハ一切代表權ヲ有セサルナリ

子ノ配偶者ノ財産管理權第八百八十五條) 未成年ノ子カ其配偶者ノ財産ヲ管理スヘキ場合ニ於テハ親權ヲ行フ父又ハ母ハ之ニ代ハリテ其財産ヲ管理ス夫ハ妻ノ財産ヲ管理スルコトハ第八百一一條ニ規定スル所ナルカ未成年者ハ自己ノ財産スラ自カラ管理スル能力ヲ有セサルモノナレハ他人ノ財産ヲ管理シ得可キモノニ非サルヤ言ヲ俟タサルナリ而シテ多數ノ立法例ニ於テハ子ハ婚姻ヲ爲シタル後ニ於テモ其家ニ在ル父又ハ母ノ親權ニ服スルコト、シタルヲ以テ子カ未成年ナルトキハ婚姻ヲ爲シタルニ拘ラス父又ハ母カ其財産ヲ管理スルモノナレハ親權ヲ行フ父又ハ母カ之ニ代ハリテ其配偶者ノ財産ヲ管理スルモノトセリ(未成年者カ其妻ノ法律行爲ヲ許可スルニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要スル規定(第十八條、第四條)ヲ參照ス可シ)

母ノ管理權ニ對スル制限(第八百八十六條) 親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代ハリテ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲シ又ハ子ノ之ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一 營業ヲ爲スコト

- 二 借財又ハ保證ヲ爲スコト
- 三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ喪失ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
- 四 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト
- 五 相續ヲ拋棄スルコト
- 六 贈與又ハ遺贈ヲ拒絶スルコト(人事編第一百五十三條、第一百五十四條、第五十七條第一項)

人事編ノ規定ニ依ルトキハ未成年ノ子ノ財産ノ管理ニ付キ親權ヲ行フ父ト母トノ間ニハ母カ其管理ヲ辭スルコトヲ得ルノ外別ニ差異ナシト雖モ新法ハ母カ子ノ財産ノ管理ヲ爲ス場合ニ大ナル制限ヲ加ヘタリ諸國ノ立法例ニ於テハ父カ子ヲ代理スル權ヲ殆ント後見人ニ於ケルト同シク制限シタルモノ多シト雖モ吾邦ニ於テハ外國ノ立法例ニ倣ハス既ニ第八百八十四條ニ付キ説キタルカ如ク子ノ行爲ヲ目的トスル債務ヲ生ス可キ場合ノ外ハ全ク制限ヲ加ヘサルコト、爲シタルハ父ハ自己ノ財産ニ於ケルト同シク子ノ財産ヲ處分スルコト

ヲ得可シト雖モ母カ親權ヲ行フ場合ニハ父ト同一ナル權限ヲ有セス是レ蓋シ女子ハ概シテ男子ニ比シテ智慮十分ナラサルヲ常トシ其性質脆弱ナルヲ以テ他ノ誘惑スル所ト爲リ子ノ利益ニ反スル行爲ヲ爲ス可キ危險一層大ナル可ケレハナリ是ヲ以テ法律ハ母カ親權ヲ行フニ當リ子ノ代理人トシテ重要ナル行爲ヲ爲ストキ及ヒ子カ其行爲ヲ爲スニ當リ之ニ同意ヲ爲ストキハ特ニ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトセリ然レトモ母ハ親權ヲ行フ者ナルカ故ニ之ヲ後見人ト同視セス故ニ本條ニ掲ケタル行爲ハ之ヲ後見人カ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス可キ行爲第九百二十九條ニ比スレハ其數少ナキナリ今左ニ本條列記ノ各號ノ事項ニ付キ敘述セシ

(一) 營業ヲ爲スコト 營業ニ付テハ別ニ定義ヲ與フル必要ナシト雖モ未成年者カ資本ヲ投シテ商工業等ヲ營ムトキハ第八百八十三條ノ規定ニ從ヒ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ受ケサル可カラサレトモ母カ之ヲ許可スルニハ親族會ノ同意ヲ要ス是レ蓋シ一旦營業ヲ許ルストキハ未成年者ハ其營業ニ付テハ全ク成年者ト同一ノ能力ヲ有スルニ至ルカ故ニ此許可ハ未成年者ノ爲メ至大ノ

影響ヲ生スレハナリ

(二) 借財又ハ保證ヲ爲スコト 借財ハ之ヲ爲ストキハ未成年者ノ財産ニ影響ヲ生ス可キモノナレハ其危険ナルコト言フヲ俟タサルナリ又保證ハ單ニ借財ニ關スルモノ、ミナラス其他總テノ保證ヲ包含スルモノニシテ其危険ナルコトハ借財ヲ爲スニ異ナラス若シ債權者ヨリ其債權ノ執行ヲ受クルトキハ保證ハ元ト無償ナルヲ常トスルカ故ニ未成年者ノ財産ニ危険ヲ與フルコトハ却テ借財ヨリ大ナルコトアリ故ニ此等重大ナル債務ヲ負擔スルトキハ親族會ノ同意ヲ得ルモノトセリ

(三) 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ喪失ヲ目的トスル行爲 此行爲ハ例之ヘハ賣買、質入、抵當權ノ設定、贈與、權利ノ拋棄等其無償行爲タルト有償行爲タルトヲ問ハス其行爲ニシテ權利ノ喪失ヲ目的トスルモノナレハ皆ナ此中ニ包含ス可キナリ但シ動産ト不動産トニ付テハ唯タ一ノ差異アリ不動産ナルトキハ其如何ナルモノタルヲ問フコトナクレトモ動産ナルトキハ單ニ重要ナルトキニ限レリ

母カ親權ヲ行フ場合ト後見人カ被後見人ニ代ハリテ此種ノ行爲ヲ爲ス場合トニハ一ノ差異アリ後見人ノ場合ニハ權利ハ得喪ヲ目的トスル行爲第九百二十九條第十二條第一項第三號トアレトモ母カ親權ヲ行フ場合ニハ單ニ權利ハ喪失ヲ目的トスル行爲トアリテ其行爲ノ範圍ニ廣狹アリ

又茲ニ一ノ注意ヲ要スルモノアリ即チ後見人カ被後見人ニ代リテ訴訟行爲ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スレトモ母カ親權ヲ行フ場合ニ訴訟行爲ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得可キ規定ナキヲ以テ母ハ訴訟行爲ナレハ如何ナルモノニテモ獨斷ニテ爲スコトヲ得可キモノ、如シト雖モ其訴訟行爲ニシテ未成年者ノ不動産又ハ重要ナル動産ノ喪失ヲ目的トスルトキ例之ヘハ他ヨリ未成年者ノ不動産ニ對シ所有權確認ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ母カ其訴訟ニ於テ認諾ヲ爲ストキハ其行爲ハ全ク未成年者ノ不動産ノ喪失ヲ目的トスルニ外ナラサルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ此第三號ニ包含スルモノト解釋セサル可カラズ

(四) 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト 和解及

ヒ仲裁契約ハ其目的常ニ必スシモ權利ヲ喪失セシムルニ在ラサレトモ實際ニ於テハ此等ノ行爲ハ權利ノ喪失ヲ生スルコト多キカ故ニ甚タ危險ナル行爲ナルヲ以テ母カ獨斷ニテ爲スコトヲ得サルモノトセリ

(五) 相續ヲ拋棄スルコト 相續ヲ爲スコトハ相續人ノ爲メ却テ不利益ナルコトアリ例之ヘハ相續ニ屬スル債務カ其財産ヨリ超過スルカ如キ場合はレナリ然レトモ此ノ如キ場合ニ於テハ相續ニ付キ單純承認(第千二十三條)ヲ爲サスシテ限定承認(第千二十五條)ヲ爲シ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ被相續人ノ債務ヲ引受クルコトヲ得ルモノナレハ相續ニ因リ直接ニ金錢上ノ損害ヲ受ケサルコトヲ得ルカ故ニ相續ハ概シテ相續人ノ爲メ利益アルモノト云ハサルヲ得ス故ニ之ヲ拋棄スルハ未成年者タル相續人ノ利益ヲ拋棄スルモノナレハ之カ爲メニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトセリ而シテ此規定ハ相續カ未成年者ノ爲メニ不利益ナル場合ヲモ包含スルモノニシテ法律ハ別ニ相續カ利益ナル場合ト不利益ナル場合トヲ區別セサルナリ其不利益ナル場合ニ在リテ母カ獨斷ニテ之ヲ拋棄セント欲スルハ固ヨリ當然ナリト雖モ母ノ認

見又ハ違算ナキニ非サルヲ以テ相續ヲ拋棄スルトキハ總ヘテノ場合ニ於テ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトセリ

(六) 贈與又ハ遺贈ヲ拒絕スルコト 此等ノ行爲ハ無償取得ノ原因ニシテ未成年者ノ爲メニハ利益ノミアリテ不利益ナキヲ常トスレハ母カ獨斷ニテ之ヲ拒絕スルハ未成年者ノ爲メ不利益ナルコト、爲シ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトセリ

以上ノ規定ハ母カ自カラ右ノ行爲ヲ爲ス場合ノミナラス子カ之ヲ爲スニ付キ同意ヲ表スル場合ニモ親族會ノ同意ヲ得サル可カラス是レ母自カラ爲スモ子ヲシテ之ヲ爲サシムルモ其危險ニ於テハ異ナル所ナクレハナリ

母カ權限外ニ爲シタル行爲ノ效力(第八百八十七條) 親權ヲ行フ母カ前條ノ規定ニ違反シテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行爲ハ子又ハ法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ハ第二百二十一條乃至第二百二十六條ノ適用ヲ妨ケス(舊財産編第五百四十七條第一項)

母カ前條ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニ付キ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スル規定ヲ設ケタルハ全ク未成年者ノ利益ヲ保護スルニ在リ故ニ若シ母カ親族會ノ同意ヲ得スシテ此等ノ行爲ヲ爲シタルトキハ未成年者ノ利益保護ノ爲メニ制裁ヲカラサル可カラス是ヲ以テ法律ハ母ノ爲シタル行爲ハ取消スコトヲ得ルモノトセリ例之ハ母カ親族會ノ同意ヲ得スシテ未成年者ニ代ハリテ營業ヲ爲シ借財若クハ保證ヲ爲シ又ハ不動産ヲ賣却シタルカ如キ場合ニ於テハ之ヲ取消スコトヲ得可シ又未成年者カ前條規定ノ行爲ヲ爲スニ當リ第四條第一項ニ從ヒ法定代理人タル母ノ同意ヲ得タリト雖モ母カ其同意ヲ爲スニ付キ前條ノ規定ニ從ヒテ親族會ノ同意ヲ得サリシニ於テハ是亦未成年者ノ保護ヲラサルヲ以テ其行爲ハ同シク取消スコトヲ得ルモノトセリ

此取消權ヲ有スル者ハ子又ハ其法定代理人ナリ而シテ此取消權ハ未成年者ノ爲シタル行爲ニ關シ第四條第二項ニ規定シタル取消權ト其性質ヲ同フスルカ故ニ總ヘテ同一ノ規定ニ從フ可キモノトセリ即チ此場合ニ第十九條ヲ準用スルヲ以テ其行爲ノ相手方ハ未成年者カ能力者ト爲リタル後一ヶ月以上ノ期間

ヲ定メテ之ヲ追認スルヤ否ヤヲ催告スルコトヲ得若シ其期間ニ確答ヲ爲サ、リシトキハ追認シタルモノト看做サル、モノトス又其取消ノ方法取消ノ效力取消權ノ時効等ニ付テモ一般ノ法律行爲ノ取消ニ關スル第二百一十一條乃至第二百二十六條ノ規定ニ依ル可キモノトセリ

親權者ト未成年者ト及ヒ同一ノ親權ニ服スル未成年者間ト利益相反スル場合ニ於ケル代理規定(第八百八十八條) 親權ヲ行フ父又ハ母ト其未成年ノ子ト利益相反スル行爲ニ付テハ父又ハ母ハ其子ノ爲メニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

父又ハ母カ數人ノ子ニ對シテ親權ヲ行フ場合ニ於テ其一人ト他ノ一人トノ利益相反スル行爲ニ付テハ其一方ノ爲メ前項ノ規定ヲ準用ス

親權ヲ行フ父又ハ母カ子ノ法定代理人タルコトハ既ニ敘述シタルカ親權ヲ行フ父又ハ母ト子トノ間ニ利益相反スルコト往々之アル所ナリ此場合ニ於テ仍ホ父又ハ母ヲ子ノ法定代理人ト爲ストモ其性質上子ノ利益ヲ保護スル代理人ニ非サルナリ而シテ本法代理ノ總則(第八條)ニ於テモ既ニ何人ト雖モ同一ノ

法律行為ニ付キ其相手方ノ代理人ト爲リ又ハ當事者双方ノ代理人ト爲ルコトヲ得スト規定セルモノニシテ此規定ノ精神ハ親權者カ子ヲ代理スル場合ニモ貫クコトヲ要ス可キモノナルカ故ニ親權ヲ行フ父又ハ母ト子ノ利益ト相反スル行為ニ付テハ本人カ無能力者ニシテ自カラ行為ヲ爲スコトヲ得サルカ故ニ親權ヲ行フ父又ハ母ヨリ子ノ爲メニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ請求スルコトヲ要スルモノトセリ(後見人ト被後見人ト利益相反スル場合ニ關シテモ同一ノ趣旨ニ基ケル規定第九百十五條第四號アリ)

又親權ヲ行フ父又ハ母ト子ト利益相反スルニ非スシテ同一ノ親權ニ服スル數人ノ子アリテ其子ノ間ノ利益相反スル場合アリ此場合ニ於テ同一ノ親權者カ利益相反スル子ヲ代理スルコト、スルトキハ右ニ舉ケタル代理ノ總則ノ規定ニ反スルヲ以テ此場合ニ於テモ父又ハ母ハ其何レカ一方ノ子ノ代理人タルニ止マリ他ノ一方ノ爲メニハ特別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ請求スルコトヲ要スルモノトセリ

親族會ニ對シテ未成年者ノ特別代理人選任ノ請求ヲ爲ス者ハ獨リ親權ヲ行フ父又ハ母ナリ而シテ親權者カ子ト利益ノ相反スル行為ニ付キ子ノ特別代理人ノ選任ヲ請求スルハ自己ノ爲メノ利益ナリト爲シ其選任ノ請求ヲ爲サ、ルトキハ親權者以外ノ者カ此手續ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ若シ他ノ者カ親族會ニ對シテ特別代理人選任ノ請求ヲ爲スコト能ハサルモノトスルトキハ之カ爲メニ子ノ不利益ヲ受クルコト尠少ナラサル可シ或ハ法文ニハ親權ヲ行フ父又ハ母カ云々トアリテ其他ノ者ノ規定ナキヲ以テ親權者以外ノ者ハ此手續ヲ爲スコトヲ得スト論スル者アリ或ハ親權者カ此請求ヲ爲サ、ルトキハ親族檢事等ノ請求ニ因リ第九百四十四條ノ規定ニ從ヒ親族會ヲ開キ特別代理人ノ選任ヲ爲スコトヲ得ト説ク者アリ但シ父又ハ母カ此手續ヲ爲サスシテ親權ヲ濫用シタルトキハ第八百九十六條ノ規定ニ依リ之ニ對シテ親權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ父又ハ母カ親權ヲ濫用スルニ至ラスシテ單ニ特別代理人ノ選任ノ請求ヲ爲サ、ルノミナルトキハ右ノ如ク其選任ハ如何シテ之ヲ爲ス可キヤノ問題ヲ生ス可シ

管理ニ關スル責任ノ程度(第八百八十九條) 親權ヲ行フ父又ハ母ハ自己ノ爲メ
 ニスルト同一ノ注意ヲ以テ其管理權ヲ行フコトヲ要ス
 母ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ付テモ其實ヲ免ル、コトヲ得ス但シ
 母ニ過失ナカリシトキハ此限ニ在ラス(人事編第一百五十三條)
 後見人及ヒ一般ノ受任者ニ在リテハ善良ナル管理人ノ注意ヲ以テ被後見人若
 シハ委任者ノ財産ヲ管理シ(後見人ニ付テハ第九百三十六條受任者ニ付テハ第
 六百四十四條ノ規定アリ)其他他人ノ事務ヲ管理スル者(特定物ヲ引渡ス可キ債
 務者ニ關スル第四百條、組合員ニ關スル第六百七十一條、親族會員ニ關スル第九
 百五十三條、遺言執行者ニ關スル第一千百十四條)ハ皆善良ナル管理者ノ注意ヲ以
 テ其財産ヲ管理スルコトヲ要スルモ親子ノ間ニ在リテハ其趣ヲ異ニシ父又ハ
 母ニ善良ナル管理者ノ注意ヲ責ムルハ人情ニ適セサルナリ此場合ハ夫カ妻ノ
 財産ヲ管理スルト同シ(第八百五條)自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ以テ子
 ノ財産ヲ管理スレハ足レルモノトセリ
 此規定ハ父又ハ母カ獨リ其子ノ財産ヲ管理スル場合ニ止マラス第八百八十五

條ノ規定ニ從ヒ子ノ配偶者ノ財産ヲ管理スル場合ニモ適用ス但シ父又ハ母カ
 子ノ配偶者ノ財産ノ管理ニ付キ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ爲スハ子ト
 其配偶者トノ間ニ財産ノ管理ニ付キ何等ノ規定ナキトキニ限ル若シ契約上ノ
 財産制ニ於テ夫カ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲ス可キ旨ヲ定メタルトキハ父又
 ハ母ハ其趣旨ニ從ヒ子ニ代リテ善良ナル管理者ノ注意ヲ要ス可キヤ勿論ナリ
 母カ第八百八十六條ノ規定ニ依リ親族會ノ同意ヲ得テ子ノ爲メニ或行爲ヲ爲
 シ又ハ子カ或行爲ヲ爲スニ同意シタルトキハ母ハ親族會ノ同意ヲ得タルノ故
 ヲ以テ全ク其責任ヲ免レ其實ハ親族會ニ歸スルカ如キ疑ヲ生スルノ虞ナシト
 セス是ヲ以テ特ニ本條第二項ヲ設ク母カ親族會ノ同意ヲ得タルトキト雖モ母
 ハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ爲ス可キ義務アルコトヲ示シタルナリ例
 ヘハ母カ子ノ不動産ヲ他ニ賣却スルニ當リ故意又ハ過失ニテ普通ノ價格ヨリ
 低廉ナル代金ヲ以テシ親族會亦之ヲ輕々ニ看過シタルトキハ親族會ハ第九百
 五十三條ノ規定ニ從ヒ未成年者ニ對シテ損害賠償ノ責任アルハ言ヲ俟タサレ
 トモ母モ亦其責任ヲ負ハサル可カラス

管理ノ計算(第八百九十條) 子カ成年ニ達シタルトキハ親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ遲滯ナク其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但其子ノ養育及ヒ財産ノ管理ノ費用ハ其子ノ財産ノ收益ト之ヲ相殺シタルモノト看做ス(人事編第百五十六條) 從來ノ慣習ニテハ親カ子ノ財産ヲ管理スルトキ計算ヲ爲スカ如キコトアラサレトモ苟モ民法上親子財産ヲ異ニスルコトヲ認ムル以上ハ子ノ財産ヲ管理スル者ヲシテ其計算ヲ爲サシムルハ固ヨリ當然ナリ故ニ子カ成年ニ達シタルトキハ子ハ自ラ財産ヲ管理ス可キヲ以テ父又ハ母ハ速ニ其管理セシ財産ノ計算ヲ爲シ現在ノ財産ハ子ニ引渡サ、ル可カラス 計算ヲ爲ス可キ期間ニ付テハ法律ハ別ニ之ヲ嚴格ニ定メス唯遲滯ナクト命シタルニ過キス之ヲ後見人カ第九百三十七條ニ依リ後見終了ノ後二ヶ月内ニ計算ヲ爲サ、ル可カラサルニ比スルトキハ自ラ寛大ナリ又後見人ハ計算ノ結果引渡ス可キ金額ニ對シテハ後見終了ノ時ヨリ利息ヲ附ス可キ義務(第九百四十條)ヲ負ヘトモ親權者ハ此ノ如キ義務ヲ負ハサルナリ 本條文ニハ子カ成年ニ達シタルトキトアリテ此規定ハ子カ成年ニ達シタルト

キノミニ適用シ其他ノ親權ノ消滅ノ場合例之ヘハ親カ其家ヲ去リ親權喪失ノ宣告ヲ受ケ又ハ母カ財産ノ管理ヲ辭シタルカ如キ場合ハ適用ヲ受クルモノニ非ス蓋シ此場合ニ於テハ子ハ直チニ後見ニ服スルカ(第九百條)故ニ後見ノ開始ト同時ニ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ調査(第九百十七條)スルヲ以テ此場合ニハ管理ノ計算ヲ命ス可キ必要アラサルナリ 普通財産ノ管理者カ財産ノ管理ヲ爲スハ其收支ヲ計算シテ殘存スルモノハ之ヲ本人ニ返還ス可シト雖モ親權者カ子ノ財産管理ノ計算ヲ爲スハ之ト異ナリテ子ノ養育及ヒ財産管理ノ費用ハ子ノ財産ノ收益ト之ヲ相殺シタルモノト爲シ子ノ財産ヨリ生スル收益ハ如何ニ多クシテ子ノ養育及ヒ子ノ財産ノ管理費用ヲ支出シテ幾多ノ剩餘ヲ生スル場合ニ於テモ亦其反對ノ結果ヲ生スル場合ニ於テモ換言スレハ親權者ニ利益ナル場合ト不利益ナル場合トヲ問ハズ子ノ財産ヨリ生スル收益ニ付テハ收支ノ計算ヲ爲スコトヲ要セサルナリ蓋シ親ハ子ニ對シ扶養ノ義務ヲ負フモノナレハ其間柄ハ固ヨリ尋常私人間ノ如キ關係ナラサレハ之ヲシテ一々收支ノ計算ヲ爲サシムルハ人情ニ背キ亦吾邦ノ實際

ニ適セサルヲ以テ以上ノ如ク規定シタルナリ
 第三者カ無償ニテ子ニ與ヘタル財産ノ收益第八百九十一條) 前條但書ノ規定ハ無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ其財産ニ付テハ之ヲ適用セス
 第三者カ無償ニテ子ニ財産ヲ與ヘ其收益ヲ積立テ、子ノ生長シタル後ノ一定ノ資本ト爲サシメント欲スルコトアリ或ハ其收益ヲ以テ特ニ子ノ爲メニ或物ヲ買ハシメント欲スルコトアリ或ハ其收益ヲ以テ子ノ教育資金ト爲サント欲スルコトアル可シ此等ノ場合ニ於テモ尙ホ法律ノ規定ヲ以テ子ノ財産ノ收益ト其扶養及ヒ財産ノ管理ノ費用ト相殺ス可キモノトスルトキハ贈與者ハ其相殺セラル可キコトヲ嫌ヒテ遂ニ子ニ財産ヲ與ヘサルニ至ルコトアル可シ是レ子ノ爲メニ不利益タル可ケレハ若シ贈與者カ前條ノ規定ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ子ノ利益ヲ保護シ且贈與者ノ意思ヲ貫徹セシムルカ爲メニ其財産ニ付テハ相殺ノ規定ヲ適用セサルモノトシタリ
 此規定ノ適用ヲ受ケシムルカ爲メニハ贈與者ニ於テ親權者カ自己ノ贈與シタ

ル財産ト扶養及ヒ財産管理ノ費用ト相殺セサランコトノ意思ヲ特ニ表示セサル可カラス若シ其意思表示ナキトキハ當然前條ノ規定ノ適用ヲ受ク可キナリ
 『財産管理權ニ對スル例外(第八百九十二條) 無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シタルトキハ其財産ハ父又ハ母ノ管理ニ屬セサルモノトス
 前項ノ場合ニ於テ第三者カ管理者ヲ指定セサリシトキハ裁判所ハ子其親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理者ヲ選任ス
 第三者カ管理者ヲ指定セシトキト雖モ其管理者ノ權限カ消滅シ又ハ之ヲ改任スルノ必要アル場合ニ於テ第三者カ更ニ管理者ヲ指定セサルトキ亦同シ
 第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 此規定モ亦前條ノ規定ト同趣旨ニシテ子ノ利益ヲ保護スル爲メニ設ケラレタリ
 第三者カ子ニ財産ヲ贈與スルニ當リ其親權者カ浪費者等ニシテ之ヲ消費スルコトヲ虞レ其財産ノ管理ヲ親權者ニ委スルコトヲ欲セサルコトアリ若シ此場合ニ於テ法律ノ規定(第八百八十四條)ニ從ヒテ強クテ親權者ヲシテ之ヲ管理

セシムルモノトスルトキハ第三者ハ遂ニ子ニ贈與ヲ爲サ、ルニ至ルコトアリ
 テ子ノ不利益ト爲ル可キヲ以テ法律ハ特ニ本條ヲ設ケ子ニ贈與ヲ爲スニ當リ
 贈與者カ其贈與財産ヲ親權者ヲシテ管理セシメサル意思ヲ表示シタルトキハ
 親權者ニ之ヲ管理セシメサルモノトシタリ

右ノ場合ニ於テ贈與者カ財産ノ管理者ヲ指定シタルトキハ其者ヲシテ管理者
 ト爲ス可キハ當然ナリト雖モ若シ贈與者カ其管理者ヲ指定セサリシトキハ別
 ニ之ヲ選任セサル可カラス是ヲ以テ子其親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所カ
 其管理者ヲ選任スルコト、シタリ

贈與者カ財産ノ管理者ヲ指定セシ場合ト雖モ其者ノ權限カ消滅シタルトキ又
 ハ其者カ不適任若クハ遠方ニ旅行スル等ノ爲メ管理ヲ繼續スルコト能ハスシ
 テ之ヲ改任スル必要アルトキニ於テ贈與者カ更ニ管理者ヲ指定セサル場合ニ
 於テハ裁判所ヲシテ之ヲ選任セシムルヨリ外アラサルナリ

第三者カ本條ノ規定ニ依リ指定シタル管理者ハ委任契約ニ依ル受任者ナルカ
 故ニ委任ニ關スル規定(第六百四十三條以下)ノ適用ヲ受ク可ク裁判所ニ於テ選

任セラレタル管理者ハ本條ノ規定ニ依リ不在者ノ財産管理者ニ關スル第二十
 七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス可キコト、セリ

管理終了ノ場合ニ於ケル管理繼續ノ義務(第八百九十三條) 第六百五十四條及
 ヒ第六百五十五條ノ規定ハ父又ハ母カ子ノ財産ヲ管理スル場合及ヒ前條ノ場
 合ニ之ヲ準用ス(人事編第二百二條乃至第二百四條)

委任契約ニ依ル受任者ハ委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者
 其相續人又ハ法定代理人ハ委任者其相續人又ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理
 スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要シ委任終了ノ事由ハ
 其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルトヲ問ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ
 相手方カ之ヲ知りタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得
 サルコトハ第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ニ規定スル所ナルカ此規定ハ
 父又ハ母カ子ノ財産ヲ管理スル場合ニモ適用スルヲ妥當トスルカ故ニ本條ノ
 規定ヲ設ケタリ是レ夫婦財産制ニ關シ第八百六條ニ規定スル所ト同一ノ趣旨
 ニ基クナリ

管理ヨリ生スル債權ノ特別時効(第八百九十四條) 親權ヲ行ヒタル父若クハ母
 又ハ親族會員ト其子トノ間ニ財産ノ管理ニ付テ生シタル債權ハ其管理權消滅
 ノ時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
 子カ未ダ成年ニ達セサル間ニ管理權カ消滅シタルトキハ前項ノ期間ハ其子カ
 成年ニ達シ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ之ヲ起算ス(人事編第二
 百十一條)

債權ハ十年ニシテ時効ニ罹ルヲ一般ノ原則トスレトモ法律ハ親權ヲ行フ父若
 クハ母又ハ親族會カ子ノ財産ノ管理中子ニ對シテ負擔シタル債務モ親權者カ
 子ニ對シテ有スル債權モ管理權消滅ノ時ヨリ五年ニシテ時効ニ因リ消滅スル
 モノトセリ若シ此特別ナル規定ナキトキハ子カ親權者ニ對シテ有スル債權ニ
 付テ云ヘハ例之ヘハ親權者カ子ノ財産ノ管理中其財産ヲ消費シタリトセンニ
 此消滅時効ハ債權發生ノ時ヨリ十年ニシテ完成ス可クレハ子カ成年ニ達シタ
 ルトキ計算ノ結果子ニ支拂フ可キ金額アリトセハ子ノ成年ニ達シタル後即チ
 管理權消滅後十年間モ子ハ其債權ニ付キ請求權ヲ有スルニ至ル可クシテ普通

ノ規定ハ前ノ場合ノ如キニ於テハ未成年者ヲ保護スルニ足ラス又後ノ場合ニ
 於テハ親權者ハ長キ間財産管理ノ勞ヲ取リタル後十年間モ尙ホ其管理ノ計算
 ニ付キ責任ヲ負フカ如キハ親權者ノ迷惑大ナリト云フ可シ故ニ法律ハ彼此ノ
 利害ヲ折中シテ右ノ如キ規定ヲ設ケタルニ外ナラサルナリ
 以上ハ子カ親權者ニ對シテ有スル債權ニ付テ叙述シタリト雖モ親權者カ子ニ
 對シテ有スル債權モ亦同シカラサル可カラス若シ此間ニ不同ノ規定アルトキ
 ハ或ハ親權者ノ債權ハ消滅シタルニ拘ハラズ其債務ハ依然存スルカ如キ不公
 平ノ結果ヲ生ス可クレハナリ

本條ノ規定ハ獨リ子ト親權者トノ間ニ生シタル債權ニ付テノミナラス亦子ト
 親族會トノ間ニ財産ノ管理ニ付キ生シタル債權ニモ適用ス可キモノトセリ親
 族會モ子ニ對シテ財産權上ノ責任ヲ負フコトアリ例之ハ親族會カ不注意ニテ
 母ノ行爲ニ同意(第八百八十六條)シタルカ爲メ子ニ損害ヲ生スルコトアリ又ハ
 親族會ノ不注意ニテ第八百八十八條ノ場合ニ不適任ナル特別代理人ヲ選任シ
 タルニ因リテ子ニ損害ヲ生スルコトアリ而シテ親族會員ハ單ニ親族タルカ爲

メ又ハ未成年者ニ縁故アルカ爲メニ其會員ト爲リタル者ナレハ右ノ如キ場合ニ於テ此等ノ者ヲシテ普通ノ規定ニ從ヒ其責任ヲ長ク免レシメサルモノトスルハ甚ク酷ニ失スルヲ以テ以上ノ如ク規定シタルナリ

時効ノ起算點ハ子カ成年ニ達スルニ因リ管理權ノ消滅シタルトキハ其消滅ノ時ヨリ之ヲ起算ス若シ其成年ニ達セサル前ニ例之ハ親權喪失ノ宣告ヲ受ク管理ヲ辭シ(母ニ限ル)又ハ其家ヲ去ルニ因リテ管理權消滅シタルトキハ後任ノ法定代理人ノ就職シタル時ヨリ之ヲ起算スルモノトス

子ニ代ハリテ戸主權及ヒ親權ヲ行フ權利(第八百九十五條) 親權ヲ行フ父又ハ母ハ其未成年ノ子ニ代ハリテ戸主權及ヒ親權ヲ行フ(人事編第二百五十七條) 曩ニ説キタル如ク外國ノ立法例ニ於テハ未成年者ト雖モ婚姻ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ親權ヲ脱スレトモ本法(第八百七十七條)ニ於テハ未成年ノ子カ自ラ子ヲ有スル場合ニ於テハ自ラ親權ニ服シナカラ自己ノ子ニ對シテハ親權ヲ行フコトヲ得ルコト、ナリ奇怪ナル結果ヲ呈スルニ至リ事理甚ク其當ヲ得サルヲ以テ本條ノ規定ヲ設ク未成年ノ子カ子ヲ有スルトキハ其子ニ對シテハ未

成年ノ子ニ對シテ親權ヲ行フ父又ハ母カ之ニ代ハリテ親權ヲ行フコト、セリ又未成年ノ子カ戸主ナルトキモ其戸主權ヲ行フ者ナカル可カラサルカ故ニ親權者ヲシテ之ニ代ハリテ其權利ヲ行ハシムルコト、セリ(親權ヲ行フ者アラサルトキハ後見人被後見人ニ代ハリテ戸主權ヲ行ヒ又ハ之ニ代ハリテ親權ヲ行フ又戸主權ハ後見人アラサルトキハ親族會之ヲ行フ(第九百三十四條第七百五十一條))

第三節 親權ノ喪失

舊民法人事編ノ草案ニハ本節ニ該當スル規定アリシモ確定ノ法文ニ削除セラレタリ其削除セラレタルハ蓋シ吾邦ノ慣習トシテ親カ子ニ對シテ親權ヲ行フニ外ヨリ干涉スルハ不都合ナリト云フニ在ラン然レトモ親權ヲ規定シテ父又ハ母ニ此權利ヲ與ヘタルヲ以テ父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナル場合ニ於テ之ヲシテ依然親權ヲ行ハシムルハ子ノ爲メニ不利益ナルコト論ヲ俟タサルナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テ裁判所ヲシテ子ノ親族又ハ檢事ノ請

求ニ因リテ親權ノ喪失ヲ宣告セシムルハ管ニ子ヲ保護スルノミナラ不公益上亦此ノ如クスル必要アルヲ以テ本節ノ規定ヲ設ケタルナリ

親權喪失ノ宣言(第八百九十六條) 父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

親權ノ喪失ハ親權者カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナルトキニ限ル而シテ親權ノ濫用又ハ不行跡トハ頗ル漠然タル事實ニシテ如何ナルモノカ其標準ト爲ル可キカハ法律ニ於テ之ヲ定メサレトモ親權ノ濫用トハ親權者カ法律ノ認メタル範圍ヲ超エテ其權利ヲ行ヒ又ハ法律カ認メタル範圍内ニ於テモ親權行使ノ方法其當ヲ得サルヲ云フ例之ヘハ子ヲ懲戒スルニ當リ毆打シテ創傷ヲ爲スカ如キ又ハ監護、教育ノ方法其當ヲ失シ又ハ財産ノ管理其當ヲ得サルカ如キ場合はレナリ又著シク不行跡トハ例之ヘハ飲酒好色其度ヲ失シテ家事ヲ顧ミサルカ如キヲ云フモノニシテ此等ノ事實ハ總テ裁判所ノ認定ニ依ルコト、セリ

親權ノ喪失ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ子ノ親族又ハ檢事ニ限リ子ハ自カラ之カ請求ヲ爲スコトヲ得ス法律カ子ニ此請求權ヲ與ヘサル所以ハ他ナシ子トシテ親ヲ訴フルハ名分ノ上ニ於テ許ス可カラサルヲ以テナリ

此請求ニ關スル裁判所ノ管轄ハ親權者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ナリ(人事訴訟手續法第三十一條)

財産管理權ノ喪失(第八百九十七條) 親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リ其子ノ財産ヲ危クシタルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

父カ前項ノ宣告ヲ受ケタルトキハ管理權ハ家ニ在ル母之ヲ行フ

此規定ハ夫婦ノ財産關係ニ付キ規定セラレタル第七百九十六條第二項ト其趣旨ヲ同フスルモノニシテ親權ノ濫用カ其全部ニ亘ラスシテ單ニ財産ニ關スル親權ノ行使方法ヲ誤リタル場合ナリ例之ハ子ノ教育、監護等ニ關スル親權行使ノ方法ハ宜ヲ得ルト雖モ親權者カ子ノ財産ヲ費消シ又ハ子ノ財産ヲ以テ危險ナル商業ヲ營ミタルカ如キ場合ニ於テハ必スシモ親權全部ヲ喪失セシム可キ

必要ナク唯財産ノ管理權ヲ奪ヘハ其弊ヲ妨クニ足ル故ニ法律ハ此ノ如キ場合ニ於テハ親權者ノ財産ノ管理權ノミヲ喪失セシムルコト、爲セリ
 此場合ニ於テモ管理權ノ喪失ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル者ハ親權喪失ノ請求ノ場合ト同シク子ノ親族又ハ檢事ニ限ル(人事訴訟手續法第三十一條)
 父カ親權者ナル場合ニ於テ親權ヲ喪失シタルトキ母アルトキハ母之ヲ行フハ當然ナリ母ナキトキ又ハ母カ之ヲ辭シタルトキ若クハ母カ之ヲ行フコト能ハサルトキハ後見人カ子ノ財産ノ管理ヲ爲スモノトス(第九百條第一號)
 失權宣告ノ取消(第八百九十八條) 前二條ニ定メタル原因カ止ミタルトキハ裁判所ハ本人又ハ其親族ノ請求ニ因リ失權ノ宣告ヲ取消スコトヲ得
 法律カ親權全部ノ喪失又ハ財産管理權ノミノ喪失ヲ宣告セシムル規定ヲ設ケタルハ已ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ其原因ニシテ止ミタルトキハ仍ホ其喪失ヲ繼續セシム可キ理アラサルヲ以テ此場合ニ於テハ親權ヲ回復セシム可キコト當然ナリ而シテ此場合ニ於テハ裁判所ハ本人又ハ其親族ノ請求ニ因リ失權ノ宣告ヲ取消スコトヲ得ルモノトセリ(人事訴訟手續法第三十二條)

失權ノ宣告カ取消サレタルトキハ後見ハ終了シ又失權ノ宣告ヲ受ケタル者カ父ニシテ其權利カ母ニ移リシ場合ニ於テハ父ハ再ヒ之ヲ行フモノトス
 母ノ財産管理權ノ拋棄(第八百九十九條) 親權ヲ行フ母ハ財産ノ管理ヲ辭スルコトヲ得(人事編第一百五十七條第二項)
 親權ハ曩ニ説キタルカ如ク權利タルト同時ニ義務タルカ故ニ親權者カ之ヲ辭スルコトヲ得サルヲ原則トス然レトモ女子自然ノ性質ト吾邦實際ノ狀態トニ依リ婦人ニハ往々財産ノ管理ニ適當ナラサル者アルヲ以テ母ニ限り財産ノ管理ヲ辭スルコトヲ許セリ若シ之ヲ許サスシテ強井テ母ヲシテ子ノ財産ヲ管理セシムルコト、スルトキハ却テ子ノ爲メニ不利益ト爲ル可キヲ以テナリ
 法律カ許シタル此拋棄ハ單ニ財産ノ管理ニ限ルモノニシテ財産ニ關セサル子ノ身上ニ係ル事ニ付テハ母ハ父ト同シク其親權ヲ行ハサル可カラス而シテ法律カ母ニ財産ノ管理權以外ノ親權ノ拋棄ヲ許サ、ルハ他ナシ子ノ身体ヲ保護スルハ親最モ之ニ適シ之ヲ他人ニ委シテ親カ願ミサルトキハ子ノ利益ニ反スルコト大ナルノミナラス法律ハ母ヲ以テ子ノ身上ノ保護ヲ爲スニ不適當ト認

メサルヲ以テナリ
母カ子ノ財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ第九百條ノ規定ニ依リ後見人ヲ置クモ
ノニシテ母ハ子ノ身上ノ保護ヲ爲シ後見人ハ其財産ヲ管理ス(第九百三十五條)

第六章 後見

後見トハ親權ヲ脱シタル未成年者及ヒ禁治産者ノ身体及ヒ財産ヲ保護監督ス
可キ職務ナリ凡ソ秩序整然タル社會ニ在リテハ自ラ己レノ身体及ヒ財産ヲ保
護スル能力ナキ者ヲ保護セス之ヲ顧ミスシテ可ナルモノニアラス未成年者及
ヒ禁治産者ノ如キハ自ラ其身体及ヒ財産ノ保護ヲ爲スコト能ハサル者ナレハ
法律上之ヲ保護スル機關ヲ設クサル可カラス本章ニ規定スル後見ハ則チ此等
ノ者ヲ保護スルノ機關ニ外ナラサルナリ而シテ未成年者ハ總テ此後見ニ依リ
保護ヲ受クルニ非ス前ニ説キタルカ如ク其家ニ父又ハ母アルトキハ其親權ニ
服シテ保護ヲ受ク後見ヲ受クルコトナシ未成年者カ後見ニ依リ保護ヲ受クル
ハ其家ニ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權者カ管理權ヲ有セサルトキニ限ルナ

リ

後見ハ未成年者及ヒ禁治産者保護ノ爲メ公益上設定セラレタル一ノ職務ナレ
トモ之ヲ以テ直チニ公ノ職務ト云フコトヲ得サルナリ何トナレハ國家ハ之カ
規定ヲ設クタレトモ自ラ其事務ニ干渉セサルモノニシテ後見ノ機關ハ私ノ機
關ニ屬シ國家ノ機關ニ非サレハナリ然レトモ後見ノ機關タル後見人後見監督
人又ハ親族會員ト爲ルノ義務ハ國家ニ對スル公法上ノ義務タルナリ故ニ此等
ノ機關ニ選定セラレタル者ハ正當ノ事由ナキトキハ之ヲ辭スルコトヲ得サル
ナリ(第九百七條、第九百十六條、第九百四十六條)

後見ノ職務ハ無償ニテ之ヲ行フテ原則トス故ニ其職務ヲ執ル者ニシテ如何ニ
長キ間如何ニ煩雜ナル事務ヲ執ルトモ之カ報酬ヲ請求スルコトヲ得サルナリ
唯後見人ニ對シテハ被後見人ノ財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ與フルコトアレトモ
其場合モ甚ダ制限セラレ且ツ是レ後見人ノ權利ニハアラサルナリ(第九百二十
五條)

本章ヲ分チテ四節トス第一節ヲ後見ノ開始トシ如何ナル場合ニ後見ハ開始セ

ラル、ヤヲ規定シ第二節ヲ後見ノ機關トシ如何ナル機關ヲ以テ後見ヲ行ハシム可キヤヲ規定シ第三節ヲ後見ノ事務トシ後見人ノ職務權限及ヒ責任等ヲ明カニシ第四節ヲ後見ノ終了トシ其義務カ終了シタル場合ニ於ケル後見人ノ權利義務ヲ規定シタリ

第一節 後見ノ開始

後見開始ノ場合(第九百條) 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス

- 一 未成年者ニシテ親權ヲ行フ者ヲキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキ

- 二 禁治産ノ宣告アリタルトキ(第八條、人事編第六百六十一條、第二百二十四條

第一項

後見ニ附セラル、者ハ未成年者及ヒ禁治産者ニ限ルモノニシテ其他ニ於テハ如何ナル場合ニ於テモ後見ニ附セラル、コト絶ヘテアラサルナリ例之ハ成年者ニシテ自ラ其身體財産ノ保護ヲ爲スコト能ハサルトキハ若シ其者カ準禁治

産者(心神耗弱者、聾者、盲者及ヒ浪費者)タル可キ者ナルトキハ第十一條ノ規定ニ從ヒ法律上特別ノ保護ヲ受クレトモ此場合ニハ保佐人ヲ附スルモノニシテ後見ニハアラサルナリ

第一 未成年者ノ後見

曩ニ親權ノ性質ニ付キ説キタルカ如ク未成年者ハ親權ニ依リテ保護ヲ受ケ亦後見ニ依リテモ保護ヲ受クレトモ同時ニ兩者ノ保護ヲ受クルニ非ス未成年ノ子カ其家ニ於テ父又ハ母ヲ有スルトキハ親權ニ依リテノミ保護ヲ受ケ若シ其父及ヒ母カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、父及ヒ母カ最初ヨリ子ノ家ニ在ラサルトキ、其家ヲ去リタルトキ、其他父及ヒ母カ家ニ在ルトモ其ニ親權ヲ行フコト能ハサルトキニ於テノミ後見ノ開始アルモノトス又親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキニ於テモ其開始アルモノトス曩ニ第八百九十七條ニ付キ説キタルカ如ク親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其子ノ財産ヲ危クシタルトキハ其管理權ヲ喪失セシメラル、コトアリ又母ハ子ノ財産ノ管理ヲ辭スルコトヲ得ル(第八百九十九條)モノニシテ此等ノ場合ニ於テハ親權ヲ行フ者カ管

理權ヲ有セサルヲ以テ他ニ子ノ財産ヲ管理スル者ナカラサル可カラス是ヲ以テ子ノ保護ノ爲メニ後見開始スルコト、シタリ但シ此第二ノ場合ニ於テハ後見ノ事務ハ制限セラレ未成年者ノ財産ニ關スル權限ノミヲ有シ其他未成年者ノ身上ニ關スル事ニ付キテハ權限ヲ有セサルナリ(第九百三十五條)曩ニモ説キタルカ如ク親權ヲ行フ父又ハ母カ未成年ノ子ノ財産ノ管理權ヲ喪失シタリトモ其身上ニ關スル保護ハ依然親權者ニ於テ爲ス可キモノトス

第二 禁治產者ノ後見

心神喪失ノ常況ニ在ル者カ禁治產者タルニハ第七條ノ規定ニ依リテ裁判所ノ宣告ヲ受ク而シテ此宣告ヲ受ケタル者ハ第八條ニ依リテ後見ニ附セラル、モノニシテ其之ニ附セラル、時期ハ禁治產ノ宣告アリタル時トス而シテ禁治產ヲ宣告シタル決定ハ人事訴訟手續法第五十二條ニ依リ禁治產者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者カ其送達ヲ受ケタル日ヨリ其效力ヲ生シ又法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢事カ送達ヲ受ケタル日ヨリ其效力ヲ生スルモノトス

第二節 後見ノ機關

後見ノ機關ハ四アリ第一後見人第二後見監督人第三親族會第四裁判所是レナリ其親族會ハ後見ノ爲メノミニ設ケラレタルニ非スシテ其他後見ノ事務ニ屬セサル多クノ事務ヲモ掌ルヲ以テ之ヲ後見ノ章中ニ置カスシテ別ニ一章ヲ設ケ之ヲ規定セリ

- (一) 後見人ハ後見ノ最モ重ナル機關ニシテ其理事者ナリ
- (二) 後見監督人ハ後見人ノ事務ヲ監督スルモノナレトモ時トシテハ之ニ代ハルコトアリ(第九百十五條)
- (三) 親族會ハ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ合議体ヨリ成ル機關ニシテ或ハ後見人後見監督人ヲ選定シ或ハ之ヲ監督シ或ハ之ヲ指揮シ右第一、第二ノ機關ヲシテ十分ニ其職務ヲ盡サシムルコトヲ謀ルモノトス
- (四) 裁判所ハ總テ此等ノ機關ニ對シテ最上ノ監督權ヲ有スルモノニシテ國家ヲ代表シ公益ノ名義ニ依リテ無能力者ヲ保護スル任ニ當ルモノナリ而シテ裁判所ハ裁判所構成法非訟事件手續法等ノ規定アリテ民法中ニ之ヲ規定スルノ必要アラサルナリ故

ニ本節ニ於テハ後見人及ヒ後見監督人ノ二機關ノミヲ規定シ之ヲ二款ニ分テ

第一款 後見人

遺言後見人(第九百一條) 未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得但シ管理權ヲ有セサル者ハ此限ニ在ラス
親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ハ前項ノ規定ニ依リテ後見人ノ指定ヲ爲スコトヲ得(人事編第六十四條、第六十五條)
此規定ハ親權ヲ行フ者カ遺言ヲ以テ未成年者ノ後見人ヲ指定シタル場合ニシテ法律ハ親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年者ノ後見人タル可キ者ヲ指定スル權ヲ有スルコト、セリ然レトモ父又ハ母カ一時親權ヲ有セシコトアルニ於テハ之ヲ喪失シタル後ニ於テモ後見人指定ノ權アルモノニ非ス又父及ヒ母共ニ順次親權ヲ行ヒタル場合ニ於テ其順ノ前後ヲ問ハス孰レノ指定シタル後見人モ有效ナリト云フニ非ス法律ハ唯最後ニ親權ヲ行ヒタル者カ指定シタル者ヲ以テ有效ナルモノトセリ最後ニ親權ヲ行フ者ハ父ナルコトモアレハ母ナルコトモ

アル可シ父母共ニ生存スルトキハ父親權ヲ行ヒ父カ死亡シ家ヲ去リ又ハ親權ヲ喪失シタルトキハ母之ヲ行フヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ其中ノ一人タラサル可カラス蓋シ最後ニ親權ヲ行フ者カ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルハ後見ハ畢竟親權ノ延長シタルモノニ外ナラサルヲ以テ父カ死亡スルモ母カ親權ヲ行フトキハ別ニ後見人ヲ置クノ必要ナシ父ハ豫メ後見人ト爲ル可キ者ヲ指定シ置キテ母ノ死後ニ之ヲ後見人ト爲ストスルトキハ二人ノ親權ヲ行フカ如キ者ヲ生セサルモ何年ノ後ニ在リテ後見人ト爲ル可キカハ豫メ之ヲ知ルコトヲ得ス母カ長ク生存スルトキハ其間ニハ曾テ父ノ指定シタル後見人ハ死亡スルコトモアル可ク又其他身上ニ非常ノ變動ヲ生スルコトモアル可クシテ常ニ親權ヲ行フ父ヲシテ後見人ヲ指定セシムルコト、スルトキハ此ノ如ク不都合アルヲ以テ最後ニ親權ヲ行フ者ヲシテ後見人ヲ指定セシメ成ル可ク實際ノ必要ニ應シテ適當ノ人ヲ舉クルヲ得セシメタル所以ナリ
最後ニ親權ヲ行フ者ニ限リ後見人指定ノ權利ヲ有シ又最後ニ親權ヲ行フ者ハ何人ト雖モ其指定ノ權利ヲ有ストノ原則ニ對シ二個ノ例外アリ

第一、最後ニ親權ヲ有スル者ト雖モ管理權ヲ有セサルトキハ後見人ヲ指定スルノ權ナシ曩キニ説キタルカ如ク親權ノ中ニハ子ノ身上權及ヒ管理權ノ二者ヲ包含スレトモ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ(第八百九十七條)管理權ノ喪失ヲ宣告セラレタルトキ又ハ母カ財産ノ管理權ヲ辭シタルトキハ親權ヲ行フ者ハ其一部身上權ノミヲ行フニ過キサリナリ而シテ親權ヲ行フ者カ後見人ヲ指定スルハ其承繼人ヲ定ムルニ外ナラサルニ此場合ニ於テ管理權ヲ行フ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルモノトスルトキハ親權ヲ行フ者ハ自己ノ有セサル職務ニ付キ其承繼人ヲ指定スルモノト云フ可シ是レ全ク本法ノ精神ニ背クモノナルヲ以テ此例外ヲ設ケタルナリ

第二ノ例外ハ親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルコト是レナリ母カ最後ニ親權ヲ行フトキハ父ト同シク後見人ヲ指定スルコトヲ得ルコトハ前ニ述ヘタルカ如シ然レトモ若シ其母ニシテ父ノ生前ニ於テ豫メ管理權ヲ辭シタルトキハ母カ父ノ死後殘存シテ親權ヲ行フトモ是レ其一部(身上權)ヲ行フニ過キスシテ財

産ノ管理權ハ有セサルヲ以テ母ハ此場合ニ於テハ第一ノ例外ニ付キ叙述シタル理由ニ依リ自己管理權ヲ有セスシテ管理權ヲ有スル後見人ヲ指定スルコトヲ得セシム可キ理アラサルヲ以テ此場合ニ於テハ母アルニ拘ハラヌ母ナキ場合ト同シク父カ後見人ヲ指定スルコトヲ得可キモノトシタリ

親權ヲ行フ者カ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルハ遺言ヲ以テスル場合ニ限ル之ヲ法律カ遺言ニ限りタルハ元來後見人ノ指定ハ自己ノ死亡後ノ爲メニスルニ非サレハ爲スコトヲ得サルモノナレハナリ故ニ親權ヲ行フ父又ハ母カ其家ヲ去リタルニ因リ其子ニ後見人ヲ要スル場合ニ於テハ從來親權ヲ行ヒタリシ者カ其家ヲ去ルニ臨ミ後見人ヲ指定スルノ權アラサルナリ此場合ニ於テハ第九百五條ノ規定ニ從ヒ親族會之ヲ選任スルモノトス又遺言指定ハ遺言者カ遺言ノ當時ニ於テ指定ノ權利アルモノナルコトヲ要スルコトハ論ヲ俟タス(第一千六百十三條)故ニ遺言ヲ爲ス當時ニ於テ本條ノ資格ヲ有セサルトキハ其遺言ハ全ク效力ヲ生セス又其指定ハ遺言者カ其死亡ノ當時ニ於テ指定ノ權利アルモノナルコトヲ要ス例之ヘハ遺言指定ヲ爲シタル後父又ハ母カ親權又ハ管理權ヲ喪

失シ又ハ其家ヲ去リタル後ニ於テ死亡シタルトキハ其遺言ハ全ク效力ヲ生セサルナリ

禁治産者ノ後見人(第九百二條) 親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治産者ノ後見人ト爲ル

妻カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ夫其後見人ト爲ル夫カ後見人タラサルトキハ前項ノ規定ニ依ル

夫カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻其後見人ト爲ル妻カ後見人タラサルトキ又ハ夫カ未成年者ナルトキハ第一項ノ規定ニ依ル(人事編第二百二十四條第二項第三項)

本條ハ禁治産者ニ對シテ法律上當然後見人ト爲ル者ヲ規定シタルモノナリ未成年者ノ後見人ハ既ニ説キタルカ如ク先ツ之ヲ指定スル親權者ノ指定ニ依リテ定マル可シト雖モ禁治産者ノ後見人ハ之ニ反シテ先ツ法定後見人ヲ定メ其

後見人ナキ場合ニ於テ始メテ親族會之ヲ選任スルモノトス

禁治産ノ宣告ハ成年者ニ對シテ爲スヲ通例ナリトスレトモ然レトモ未成年者

ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得サルモノニ非サレハ未成年者ニ對シテモ其宣告ヲ爲スコトアル可シ而シテ未成年者ニ對シテハ父又ハ母アルトキハ父又ハ母カ之ニ對シテ親權ヲ行ヒ父又ハ母ナキトキハ後見人アリテ之ヲ保護スルヲ以テ別ニ未成年ノ子ニ對シテハ禁治産ノ宣告ヲ爲スコトノ必要ナキモノ、如シト雖モ未成年者ノ行爲ハ其成年ニ達シタル後五年ヲ經過スルトキハ最早之ヲ取消スコトヲ得ス(第二百二十四條第一項、第二百六條)禁治産者ノ行爲ハ禁治産取消ノ後其行爲ヲ爲シタルコトヲ覺知シタル時ヨリ五年ヲ經過スルニ非サレハ其取消權ハ消滅セサルナリ(第二百二十四條第二項、第二百六條)又未成年ノ間ニ禁治産ノ請求ヲ爲サレハ其者カ成年ニ達シタル後禁治産ノ宣告ヲ受クルマテ其者ハ能力者ニシテ保護ヲ缺クニ至ル可シ然レトモ未成年ノ間ニ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ成年ニ達スルトモ其宣告ノ取消サレサル間ハ禁治産者トシテ保護ヲ受クルノ利益アリ是ヲ以テ未成年者ニ對シテモ禁治産ノ宣告ヲ爲ス所以ナリ

未成年者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ父又ハ母アルトキハ父又ハ

母カ未成年者ニ對シテ親權ヲ行ヒテ之ヲ保護スルヲ以テ未成年者カ成年ニ達スル迄ノ間ハ父又ハ母ハ後見人ノ名稱ヲ有スルノミニシテ其實ヲ行フコトアラサルナリ故ニ父又ハ母ハ禁治産者カ未成年ノ間ハ總ヘテ後見人ニ關スル規定ノ適用ヲ受クルコトナシト雖モ禁治産者カ成年ニ達シタルトキハ爾後一般ノ後見人ト同シク總テ後見ニ關スル規定ノ適用ヲ受クルモノトス例之ヘハ父ハ未成年ノ禁治産者ノ不動産ヲ自己ノ獨斷ニテ處分スルコトヲ得可シト雖モ禁治産者カ成年ニ達シタル後ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得サルナリ又禁治産者カ未成年中ハ父又ハ母ハ後見監督人ノ監督ヲ受クルコトナシト雖モ禁治産者カ成年ニ達シタル後ハ其監督ニ服スルコトヲ要ス

以上ノ如ク禁治産者ニ對シテ其父又ハ母ヲ以テ法定ノ後見人ト爲シタルハ家ニ在ル父又ハ母ハ子ノ爲メ最モ能ク其利益ヲ保護スル者ナルヲ以テナリ以上ハ一般ノ原則ナリト雖モ既ニ婚姻セル成年者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ其配偶者ヲ以テ後見人ト爲セリ蓋シ夫婦ハ共同ノ生活ヲ爲シテ

互ニ相愛スルノ情アリ又互ニ相扶クルノ義務アルモノニシテ父母ニ比シテ一層親密ノ關係ヲ有スルヲ以テ之ヲシテ後見人ノ職務ヲ行ハシムルハ最モ其當ヲ得タリト云フ可シ但シ配偶者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ他ノ一方カ第九百七條ノ規定ニ依リ後見人タルコトヲ辭シ又ハ第九百八條ノ規定ニ依リ後見人タルコト能ハサルトキハ亦親權者ヲシテ其後見人タラシムルコト、セリ

又夫カ未成年者ナルトキハ妻其後見人タラスシテ親權者其後見人ト爲ル是レ他ナシ子カ未成年ナルトキハ禁治産ノ宣告ヲ受ケサル場合ニ於テハ父又ハ母カ親權ヲ行フモノナレハ禁治産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テモ親權者カ其後見人ト爲リテ之ヲ保護スルハ至當ノ事タルヲ以テナリ

未成年者及ヒ禁治産者ノ後見ニ共通スル規定(第九百三條) 前二條ノ規定ニ依リテ家族ノ後見人タル者アラサルトキハ戸主其後見人ト爲ル(人事編第六十六條、第二百二十四條第三項)

本條ノ規定ハ未成年者及ヒ禁治産者ニ共通スルモノナルカ未成年者ニ對シテ

ハ遺言ニ依リテ指定セラレタル者ヲ以テ第一順位ノ後見人ト爲シ禁治産者ニ對シテハ其禁治産者ノ何者タルカニ依リ父母夫妻若クハ妻ヲ以テ第一順位ノ後見人ト爲スコトハ前二條ニ規定スルカ如シ然レトモ時トシテハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定セサルコトアル可ク或ハ父母夫妻ノ孰レモナキ場合アル可シ良シ之アリトモ後見人タルコト能ハサル場合アル可キヲ以テ此場合ニ於テハ後見人タル可キ者ヲ定メサル可カラサルモノニシテ本條ハ此等ノ場合ニ於テ其無能力者カ家族ナルトキ其戸主ヲ以テ後見人ト爲スコト、シタリ

戸主ト爲ルニハ成年者タルヲ要セス之ニ反シテ後見人ト爲ルニハ成年者タルヲ要ス(第九百八條第一號)故ニ戸主カ未成年者タル場合ニハ家族ノ後見人ト爲ルコト能ハサルコトハ論ヲ俟タサルナリ然レトモ戸主カ未成年者ナル場合ニハ戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者カ若クハ其後見人タル者アル可クシテ此場合ニ於テハ戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者若クハ戸主ノ後見人カ第八百九十五條又ハ第九百三十四條ニ從ヒ當然家族ニ對シテ後見人タル可キナリ然レトモ此場合ニハ親族會ニ於テ別ニ後見人ヲ選定ス可シトノ說ナキニシモアラサルナリ(民

法修正案參考書

選定後見人(第九百四條) 前三條ニ依リテ後見人タル者アラサルトキハ後見人ハ親族會之ヲ選任ス(人事編第六百六十七條第二百二十四條第四項) 前三條ニ規定スル遺言後見人又ハ法定後見人アラサルトキ良シ之アリトモ第九百七條ノ規定ニ依リ後見人ヲ辭シタルカ又ハ第九百八條ノ規定ニ依リ後見人タルコトヲ得サルトキハ親族會ニ於テ後見人ヲ選任スルコト、セリ此ノ如キ場合ニ裁判所ヲシテ後見人ヲ選任セシムル立法例ナキニ非スト雖モ此場合ニ後見人ノ選任ヲ親族會ニ委スルハ吾邦ノ人情ニ最モ適セサルヲ以テナリ 後見人選任ノ爲メ親族會召集ノ義務第九百五條) 母カ財産ノ管理ヲ辭シ後見人カ其任務ヲ辭シ親權ヲ行ヒタル父若クハ母カ家ヲ去リ又ハ戸主カ隱居ヲ爲シタルニ因リ後見人ヲ選任スル必要ヲ生シタルトキハ其父母又ハ後見人ハ遲滞ナク親族會ヲ召集シ又ハ其召集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス(人事編第六百六十八條第二百二十四條第四項)

本條ハ現在後見人タリ又ハ親權ヲ行フ者カ自己ノ意思ニ因リテ其任務ヲ辭ス

ル場合ニ於テハ直チニ後見人ヲ選任ス可キ必要アルヲ以テ之ヲ選任スル親族會ヲ招集セサル可カラサルコトヲ規定ス此場合ニ於テ親族會ヲ招集スルニ付キ義務ヲ有スル者ハ第一親權ヲ行フ母カ財産ノ管理ヲ辭シタルトキ、曩キニ説キタルカ如ク(第八百九十九條)親權ヲ行フ母ハ財産ノ管理ヲ辭スルコトヲ得ルヲ以テ此場合ニ於テハ第九百條第一號ニ依リ後見開始セラル、ヲ以テ從來親權ヲ行ヒタル母カ親族會ヲ招集スルハ當然ナリ、第二、後見人カ其任務ヲ辭シタルトキ、後見人ハ其就任ノ前後ヲ問ハス正當ノ事由アルトキハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ル(第九百七條)カ故ニ後見人カ之ヲ辭シタルトキ其後任ノ者ヲ選任スルカ爲メニ之ニ親族會招集ノ義務ヲ負ハシムルハ當然ナリ、第三、親權ヲ行ヒタル父若クハ母カ家ヲ去リタルトキ、父又ハ母カ親權ヲ行フハ子ト同一ノ家ニ在ルトキニ限ル(第八百七十七條)然ルニ父又ハ母カ養子縁組、婚姻、本家相續、再興其他ノ原因ニ因リテ家ヲ去リタルトキハ親權ヲ失フヲ以テ此場合ニ於テハ後見人選任ノ必要アリ而シテ從來親權ヲ行ヒタル者ニ後見人選任ノ爲メ親族會招集ノ義務ヲ負ハシムルモ亦當然ナリ、第四、後見人タル戸主カ隱居ヲ爲シタルト

キ、戸主カ法律上家族ノ後見人タルハ戸主タルノ資格アルノ故ヲ以テナリ故ニ若シ隱居ヲ爲シ戸主ノ地位ヲ退クトキハ之ト同時ニ後見人タルノ資格ヲモ失フ可キヲ以テ此場合ニ於テハ後任後見人ヲ選任ス可キ必要アリ而シテ此場合ニ於テモ前戸主ヲシテ親族會ヲ招集セシムルハ相當ナリ

以上ノ場合ハ總ヘテ親權者又ハ後見人ノ意思ニ因リテ無能力者ノ後見人ヲ選任ス可キ必要生シタルカ故ニ法律ハ此等ノ者ニ親族會招集ノ義務ヲ負ハシメタル所以ナリ其意思ニ非スシテ後見人ヲ選任ス可キ必要ノ生シタルトキ例之ヘハ親權者カ親權若クハ管理權喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ後見人カ後見人タル能力ヲ失ヒ若クハ免黜セラレタル場合ニ於テハ法律ハ此等ノ者ニ後見人ノ選任ヲ要求スルノ義務ヲ負ハシム可キ理由ナキヲ以テ後見監督人ヲシテ之ヲ請求セシムルコト、セリ(第九百十五條第二號)

親權者又ハ後見人カ自カラ親族會ヲ招集スル場合ハ既ニ親族會ノ設ケアル場合ナリ(第九百四十九條)之ニ反シテ被後見人ノ爲メニ未タ親族會ノ設ケナクシテ始メテ之ヲ招集スル場合ニハ之ヲ裁判所ニ請求セサル可カラス

後見人ノ員數第九百六條) 後見人ハ一人タルコトヲ要ス(人事編第百六十二條 第二百二十六條)

羅馬法及ヒ外國ノ立法例ニ於テハ往々二人以上ノ後見人ヲ許ルセトモ(佛民法 第四百十七條ニハ後見人ノ外ニ副後見人アリ)吾邦ニ於テハ此ノ如キ立法例ヲ 採用セス二人以上ノ後見人ヲ許ルストキハ實際ニ於テハ便利ナルコトアル可 シト雖モ後見人ハ親權ニ類スル權利ヲ行フモノニシテ親權ヲ行フ者ヲ一人ナ リトスルトキハ後見人モ亦一人トセサル可カラス然レトモ後見人ニシテ二人 以上アルトキハ其間ニ意思ノ衝突ヲ生シ從フテ家族上ノ紛議ヲ來タシ又ハ各 自其責任ヲ他ニ讓リテ被後見人ノ爲メニ不利益ナルコト多カル可キヲ以テ本 法ニ於テハ之ヲ一人ト爲シタリ而シテ後見人ハ其任務繁忙ニ堪ヘサルカ如キ 場合ニ於テハ第九百二十六條ノ規定ニ從ヒ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財産管 理者ヲ使用スルコトヲ得ルカ故ニ實際ニ於テハ左程大ナル不都合アルヲ見サ ルナリ

後見人ノ辭任第九百七條) 後見人ハ婦女ヲ除ク外左ノ事由アルニ非サレハ其

任務ヲ辭スルコトヲ得ス

- 一 軍人トシテ現役ニ服スルコト
- 二 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルコト
- 三 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ本條又ハ次條ニ掲ケタル事由ノ 存セシ場合ニ於テ其事由カ消滅シタルコト
- 四 禁治產者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト但配偶者直系血族及ヒ 戸主ハ此限ニ在ラス
- 五 其他正當ノ事由(人事編第百六十三條第一項第百七十八條第百二十五 條、第二百二十六條)

後見人ノ職務ハ原則トシテハ法律上拒辭スルコトヲ得サル負擔タリ然レトモ 此原則ニハ他ノ原則ノ如ク例外アリ或ル特別ノ場合ニ於テ法律ハ後見人カ其 任務ヲ辭スルコトヲ許ルセリ後見人ノ任務ヲ辭スルコトハ法律カ後見人タル 可キ者ニ與ヘタル恩典ナリ故ニ後見人タル可キ者ニシテ此恩典ヲ拋棄セント 欲セハ拋棄スルコトヲ得可シ然レトモ後見人タル可キ者カ其免除ノ權利ヲ拋

棄セサルトキハ當然後見人タルモノトス而シテ後見人カ其任務ヲ辞スルコトハ就任ノ前後ヲ問ハス故ニ後見人カ免除ノ事由アルニ拘ラス就職シタルトキハ之ヲ以テ絶對ニ其免除ノ權利ヲ抛棄シタルモノト云フヲ得サルナリ

法律ハ後見人ノ任務ヲ辞スルコトヲ得可キ事由五箇ヲ規定セリ即チ左ノ如シ

(一) 軍人トシテ現役ニ服スルコト 軍人トシテ此恩典ヲ受クルハ現役ノ者ニ限ル故ニ豫備、後備役ニ在ル者ハ後見人ノ任務ヲ辞スルコトヲ得ス法律カ現役ニ在ル軍人ニ此恩典ヲ與ヘタルハ他ナシ現役ニ服スル軍人ハ通常軍隊ニ在ル者ナルカ故ニ他ノ事務ヲ執ルコト能ハサルコト多ク又軍人ノ紀律ハ他ノ官吏ニ比シ數層峻嚴ナルカ故ニ後見人タルカ故ニ毫モ其本分ノ職ヲ怠ルコト能ハス故ニ此ノ如キ者ヲシテ後見人タラシムルトキハ却テ被後見人ノ爲メ不利益タルコトアリ又後見人タル可キ者ニ付テ云ヘハ嚴重ナル固有ノ職分アル者ニ後見ノ任務ノ如キ重大ナル責任ヲ負ハシムルハ甚タ酷ニ失スルヲ以テナリ

(二) 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ従事スルコト 現役ニ在ル軍人ヲ除クノ外他ノ官吏、公吏等公務ニ従事スル者ハ被後見人ノ住所ノ市又ハ

郡内ニ於テハ公務ノ餘暇ニ於テ後見人ノ任務ヲ爲スコトヲ得可シト雖モ若シ後見人カ被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ヲ執ルトキハ其任地ヲ離ル、コト能ハサル場合アル可ク之ニ強非テ後見人ノ任務ヲ執ラシムルトキハ公務ノ妨ト爲ル可クシテ此ノ如キ者カ後見人タルトキハ十分ニ其任務ヲ盡スコト能ハスシテ被後見人ノ爲メ不利益タル可ク又後見人タル可キ者ニ付テ云ヘハ甚タ苛酷ナルヲ以テ法律ハ此場合ニ於テハ後見人ノ任務ヲ辞スルコトヲ許ルセリ

公務ニ従事スルトハ官吏、公吏カ職務ヲ執ル場合ノミヲ指スニ非スシテ公證人、執達吏、議會議員等カ公務ヲ以テ繼續シテ自己ノ業務ヲ執ルコトヲモ云フナリ

(三) 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ本條又ハ次條ニ掲ケタル事由ノ存セシ場合ニ於テ其事由カ消滅シタルコト 遺言ヲ以テ親權者ヨリ指定セラレタル後見人(第九百一條)其他法律ノ規定ニ依リ後見人タル可キ者(父、母、夫、妻(第九百二條)戸主(第九百三條)其他ノ者(第九百四條)カ法律ノ規定シタル事由(本條及ヒ次條)アリテ其任務ヲ辞スルカ若クハ後見人ト爲ルコトヲ得サル場合ニ於テハ

他ノ者カ後見人ト爲ル可シト雖モ他ノ者カ後見人ト爲リタルハ全ク元來後見人タル可キ者ニ辭任又ハ後見人タルコトノ無資格ノ事由生シタルニ由ル故ニ其事由ニシテ止ミタルトキハ其者ヲシテ固有ノ順位ニ復シテ後見ノ任務ヲ執ラシム可キハ正當ナリ例之ヘハイ遺言後見人カ軍人トシテ現役ニ服セルノ故ヲ以テ其任務ヲ辭シ(ロ)禁治産者ノ後見人タル父又ハ母カ自己禁治産ノ宣告ヲ受ケテ後見人タル能力ヲ失ヒ(ハ)夫又ハ妻カ未成年者ナルトキ親權者カ其配偶者ノ後見人ト爲リタル場合ニ於テイノ軍人カ豫備役ニ入リ(ロ)父又ハ母ニ對スル禁治産ノ宣告カ取消サレ(ハ)夫又ハ妻カ成年ニ達シタルトキハ此等ノ者ハ法律上舊位置ニ復シテ當然後見人タルモノニ非ス此場合ニ於テハ本號ノ規定ニ依リ後任ノ後見人カ之ヲ理由トシテ其任務ヲ辭スルコトヲ得ルニ止マレリ法律ハ何故ニ辭任又ハ除斥ノ原因止ミタルトキハ後見人タル可カリシ者ヲ當然後見人ト爲サ、ルカ是レ他ナシ後見人カ屢々變更スルハ被後見人ノ爲メ概シテ不利益ナルト辭任又ハ除斥ノ原因中其消滅シタルヤ否ヤ頗ル不明ナルモノアリテ之カ爲メ爭訟ヲ生スルノ虞アリ而シテ其裁判確定ノ結果往々ニシ

テ前後見人カ一定ノ期間内其任務ヲ不當ニ行ヒ法律上後見人タル可キ者カ其任務ヲ行ハサリシカ爲メニ種々煩雜ナル問題ヲ惹起ス可キヲ以テナリ

(四) 禁治産者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト 未成年者ニ對スル後見ノ年限ハ豫メ一定スルモノニシテ如何ニ長クトモ二十年ヲ超過スルコトアラサルナリ而シテ未成年者ニ對シテハ最初ハ親權者アリテ之ヲ保護シ親權者カ死亡シ家ヲ去リ又ハ親權ヲ喪失シタル等ノ場合ニ於テ後見ニ付セラル、コト多キカ故ニ二十年間後見人アルコトハ寧ロ稀レナル可キナリ之ニ反シテ禁治産者ニ對スル後見ノ任期ハ豫メ何年繼續ス可キモノナルヤヲ知ルコト能ハサルナリ然ルニ正當ノ理由ナキニ於テハ禁治産者ノ畢生間モ繼續スル後見ノ任務ヲ辭スルコト能ハサルモノトスルハ甚タ酷ニ失スルヲ以テ禁治産者ノ後見人ハ十年ヲ經過シタルトキハ辭スルコトヲ得ルモノトセリ是レ外國ノ立法例ニ於テモ多ク見ル所ノ規定ナリ

此規定ニハ例外アリ即チ配偶者直系血族及ヒ戸主カ後見人タル場合はレナリ此等ノ者ハ當然禁治産者ヲ保護ス可キ地位ニ在ル者ニシテ若シ此等ノ者カ其

後見ノ任務ヲ辭スルトキハ之ヨリ一層關係ノ薄キ者ヲ以テ後見人ト爲サ、ル
可カラサルニ至リ頗ル不當タルヲ免レサレハナリ法文上ノ解釋トシテハ此但
書ハ此等ノ者ハ後見ノ任務カ十年ニ滿タサルトモ辭スルコトヲ得可キ趣旨ト
見ルコトモ得可シト雖モ本條規定ノ精神ニ依リテ前ノ如ク解釋セサル可カラ
サルナリ

(五) 此他正當ノ理由 以上列舉シタル事由ハ法律カ認メテ以テ後見ノ任務ヲ
辭スルニ足ルト爲シタルモノナレトモ此他ニ於テモ事實上後見ノ任務ヲ辭ス
ルコトヲ許スニ足ル事由アルナリ例之ハ病身ニシテ其任務ニ堪ヘサル場合
公務(被後見人ノ住所ノ市又ハ郡内ニ於テ從事スル)多忙ニシテ到底後見ノ任務
ヲ執ルコト能ハサル場合、一家生計ノ都合ニ依リ被後見人ノ住所ヨリ遠隔ノ地
ニ移住セサレハ一家ヲ糊スルコト能ハサル場合ノ如キハ後見ノ任務ヲ辭スル
コトヲ許ルサ、ル可ラス而シテ此正當ノ事由トハ事實問題ニ屬スルヲ以テ
裁判所ノ査定ニ依リテ定マル可キナリ
以上ハ後見ノ任務ヲ辭スルコトヲ得可キ事由ナルカ婦女カ後見人ナルトキハ

法律ハ以上ノ事由ナク其任務ヲ辭スルコトヲ得ルモノトセリ曩ニ女戸主カ隱
居ヲ爲ス場合(第七百五十五條)及ヒ母カ親權者ナルトキ財産ノ管理ヲ辭スルヲ
得ルコトニ付キ叙述シタルカ如ク婦女ハ一般ニ其性格ニ於テ財産管理ニ適セ
ス強井テ之ニ後見人タル義務ヲ負ハシムルハ吾邦ノ事情ニ適セサルヲ以テ此
例外規定ヲ設ケタルナリ

後見人タル不能力(第九百八條) 左ニ掲ケタル者ハ後見人タルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治産者及ヒ準禁治産者
- 三 剝奪公權者及ヒ停止公權者
- 四 裁判所ニ於テ免黜セラレタル法定代理人又ハ保佐人
- 五 破産者
- 六 被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血

族

七 行方ノ知レサル者

八 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリト認めタル者人事編第一百八十條乃至百八十二條第二百二十六條

人事編ニ於テハ後見人ノ缺格ノ場合ト除斥及ヒ罷黜ノ場合トヲ分チテ規定シ佛民法モ亦然リ(第四百四十二條乃至第四百四十九條)ト雖モ本法ハ之ヲ一括シテ本條ノ規定ヲ設ケタリ故ニ本條ニ掲ケタルモノヲ詳細ニ分拆スルトキハ最初ヨリ後見人ト爲ル能力ナキ者アリ半途ニシテ其能力ヲ失フ者アリ又ハ元來ノ能力ハ有スルモ自己ノ過失不行跡等ニテ後見人タルコトノ資格ヲ失ヒタル者其他種々ノ者アレトモ是レ畢竟孰レモ後見人タルコトヲ得サル事由タルニ外ナラサルナリ

後見人ハ被後見人ノ身上ヲ保護シ及ヒ財産ヲ管理スル重要ノ職務ヲ行フモノナルヲ以テ被後見人ノ爲メニ不利益ト見ラル、者ハ之ニ任スルコトヲ禁セサル可カラズ本條ニ列舉シタル者ハ法律カ被後見人ノ爲メニ不利益ナル者ト看做シタルナリ而シテ此等ノ者ハ最初ヨリ後見ノ職ニ就クコトヲ得サルノミナラス一旦後見人ト爲リタル場合ト雖モ當然其職ヲ失フ可キモノトス

(一) 未成年者 未成年者ハ自身後見ニ服スル者ナルカ故ニ之ニ他人ノ後見人タルコトヲ禁スルハ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ

(二) 禁治産者及ヒ準禁治産者 是亦未成年者ノ如ク自カラ己ノ身上及ヒ財産ヲ保護スルコト能ハスシテ後見ニ付セラレ又ハ保佐人ノ補助ヲ必要ト爲ス者ナルカ故ニ到底他人ノ後見人タルニハ適セサルナリ

(三) 剝奪公權者及ヒ停止公權者 刑法第三十二條第三十三條第三十四條ノ規定ニ依リ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ終身公權ヲ剝奪セラレ禁錮ニ處セラレタル者ハ其刑期間輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ監視ノ期限間公權ヲ停止セラレ、モノニシテ此ノ如キ者ハ信用少ナキ者ナレハ之ニ被後見人ノ財産ノ管理ヲ託スルハ被後見人ノ不利益タルト後見人タルコトハ一面ニ於テ義務ナレトモ亦他ノ一面ニ於テハ權利ナレハ國家カ以上ノ如キ犯罪者ニハ後見人タルコトノ名譽ヲ有スルコトヲ得サルモノトシタリ但シ刑法第三十一條第七號ノ但書親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラストアレトモ是レ本條ノ規定ト牴觸スルモノニシテ刑法ノ規定ハ本條ノ規定ニ依リ

テ改正セラレタルニ外ナラサルナリ

(四) 裁判所ニ於テ免黜セラレタル法定代理人又ハ保佐人 法定代理人例之ヘハ親權者、後見人不在者ノ財産管理人、法人ノ理事、清算人、相續人ノ曠缺セル遺産ノ管理人、遺言執行者又ハ保佐人等其任ニ適セサルモノタルコトヲ認メラレタル者カ更ニ後見人タルニ適セサルコトハ明カナルヲ以テ此ノ如キ者ハ一タヒ裁判所ニ於テ免黜セラレタルトキハ更ニ後見人ト爲ルコトヲ得サルモノトセリ

然レトモ是レ前ニ免黜セラレタルコトカ裁判所ニ於テセラレタル者ニ限ル故ニ第九百一十一條第一項、第九百十七條第三項、第九百十九條第三項ノ規定ニ依リ親族會ヨリ免黜セラレタル後見人ハ此規定ノ適用ヲ受クサルモノトス

(五) 破産者 破産者ハ財産上ノ信用ナキ者ナレハ後見人トシテ之ニ財産ノ管理ヲ委スルハ被後見人ノ爲メ甚タ不利益ナリ民法施行法第二條第三條ノ規定ニ依リ家資分散者及ヒ以前身代限ノ處分ヲ受クテ未タ其債務ヲ辨濟セサル者ハ破産者ト同視セラレ、モノトス

(六) 被後見人ニ對シ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族被後見人ニ對シ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者ノ如キハ被後見人ト利益相反スルモノト見ルコトヲ得可クレハ此ノ如キ者ヲ其後見人ト爲スハ被後見人保護ノ道ニアラサルナリ又其者ノ配偶者及ヒ直系血族モ同シク後見人ト爲ルコトヲ得サルナリ

(七) 行方ノ知レサル者 此ノ如キ者カ後見ノ任務ヲ盡スコト能ハサルハ言テ俟タス

(八) 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡不正又ハ著シキ不行跡アリト認メタル者 此規定ハ第四號ト同趣旨ナリ第四號ハ他ノ後見其他ノ法定代理ニ付テ裁判所ニ於テ免黜セラレタル者ナレトモ茲ニ規定スル者ハ其後見ニ付キ特ニ其任ニ堪ヘサル者ト認メラレタルノ差アルナリ

保佐人(第九百九條) 前七條ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス
保佐人又ハ其代表スル者ト準禁治產者トノ利益相反スル行爲ニ付テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス(人事編第二百十七條第二

百二十四條第二項乃至第四項、第二百二十五條、第二百三十二條第三項、第二百三十三條第一項)

未成年者及ヒ禁治産者ニ於ケル後見人ト準禁治産者ニ於ケル保佐人ト其性質相類ス準禁治産者ハ禁治産者ニ比シテ其無能力ノ程度稍輕キカ故ニ唯タ其保護ノ程度薄キノミニシテ後見人ト其規定ヲ異ニスル理由アラサルヲ以テ後見人ノ規定ニ關スル前七條(第九百二條乃至第九百八條)ヲ保佐人ニ準用スルコトハセリ

保佐人ノ利益ト準禁治産者ノ利益ト相反スルコトアリ(例之ヘハ保佐人ト其保佐スル準禁治産者ト契約ヲ爲シ又ハ其一方ヲ相手トシ訴訟ヲ爲スカ如キ是レナリ)又保佐人カ代理權ヲ有スル第三者例之ヘハ保佐人カ第三者ノ後見人タルトキ其第三者ノ利益ト準禁治産者ノ利益ト相反スルコトアリ此場合ニ於テ保佐人ハ自己又ハ其代理スル第三者ノ利益ヲ圖ル爲メニ準禁治産者ニ之カ行爲ヲ許可スルノ虞レナシトセス故ニ此場合ニ於テハ臨時保佐人ヲ選任セシメ之ヲシテ準禁治産者ノ爲サントスル行爲ヲ許可セシムルコトハセリ故ニ其必要

アル場合ニ於テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス是レ親權ノ效力ニ關スル第八百八十八條ノ規定ト同一ノ趣旨ニ出テタル規定ナリ而シテ後見人ニ付テハ之ヲ監督スル者アリテ以上ノ如キ場合ニハ第九百十五條第四號ノ規定ニ依リ其監督人カ被後見人ヲ代表スルカ故ニ被後見人ノ利益ハ十分ニ保護セラル可キ道アリト雖モ準禁治産者ニ付テハ此ノ如キ者アラサルヲ以テ右ノ如キ規定ヲ特ニ設ケタルナリ

第一欸 後見監督人

後見監督人トハ後見ノ一機關ニシテ後見人カ果シテ能ク其任務ヲ盡スヤ否ヤヲ監督シ或ル場合ニ於テハ被後見人ノ爲メニ自カラ必要ナル處分ヲ爲シ被後見人ト其後見人ト利益相反スル行爲ニ付テハ被後見人ヲ代表ス而シテ人事編ニ於テハ之ヲ置クコトヲ必要トセサリシ(人事編第六十九條第一項)ト雖モ後見ノ制ヲシテ弊害ナカラシメント欲セハ之ヲ置クノ必要アルヲ以テ本法ニハ之ヲ親族會ノ自由ニ任セシテ必ス置クコトハ爲シタリ(佛民法亦然リ) 遺言後見監督人(指定後見監督人トモ云フ)第九百十條) 後見人ヲ指定スルコト

親族編 第六章 後見 第二節 後見ノ機關

ヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得(人事編第六十九條第二項)

後見人ニハ遺言ヲ以テ指定シタル者第九百一條、法定ノ後見人(第九百二條、第九百三條)及ヒ選定後見人(第九百四條)ノ三種アレトモ後見監督人ハ遺言ヲ以テ指定シタル者ト親族會ニ於テ選定シタル者トニ限レリ而シテ後見監督人ニ法定ノ者ヲ設ケサルハ他ナシ後見監督人ハ後見人ノ誰タルコトノ定マリタル上之ヲ監督スルニ適當ナル者ナラサル可カラサルヲ以テ法律ハ豫メ後見監督人ヲ定ムルヲ得サレハナリ

本條ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得可キ旨ヲ規定シタルモノニシテ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得可キ者(第九百一條)ハ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得而シテ父母ハ時ヲ異ニシテ各親權ヲ行フコトアリト雖モ第九百一條ノ規定ニ依リ最後ニ親權ヲ行フ者ニ非サレハ後見人ヲ指定スルコトヲ得サルヲ以テ親權者ニシテ後見人及ヒ後見監督人ヲ指定シタルトキハ必ス此兩者ハ同一ノ人ノ指定ニ係ル可キヲ以テ法律ハ同一ノ人ノ指定ニ係ル後見

監督人ハ能ク後見人ヲ監督スルニ適シタル者ト看做シタルナリ然レトモ親權者カ此等兩者ノ中一人ヲ指定シ他ノ一人ヲ指定セサルコトアリ若シ後見監督人ニシテ指定セラレサリシトキハ次條ノ規定ニ從ヒ親族會ニ於テ之ヲ選任セサル可カラス之ニ反シテ親權者カ後見監督人ノミヲ指定シテ後見人ヲ指定セサリシトキハ第九百三條及ヒ第九百四條ニ從ヒ戸主又ハ親族會ニ於テ選任シタル者後見人タル可シト雖モ此場合ニ於テ後見監督人ハ前ニ定マレルヲ以テ果シテ其者カ後ニ定マレル後見人ヲ監督スルニ適スル者ナルヤハ知ルコト能ハサル可キナリ

選定後見監督人(第九百十一條) 前條ノ規定ニ依リテ指定シタル後見監督人ナキトキハ法定後見人又ハ指定後見人ハ其事務ニ着手スル前親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得

親族會ニ於テ後見人ヲ選任シタルトキハ直チニ後見監督人ヲ選任スルコトヲ要ス(人事編第六十九條第一項、第二項、第七十條)

前條ニ規定シタル指定後見監督人ナキトキハ親族會ニ於テ後見監督人ヲ選任スルモノトス而シテ之カ爲メニ親族會ヲ招集スルニハ法定後見人(第九百二條第九百三條)又ハ指定後見人(第九百一條)カ其事務ニ着手スル前裁判所ニ之カ申請ヲ爲サ、ル可カラス若シ後見人カ其手續ヲ爲サスシテ其事務ニ着手シタルトキハ其制裁トシテ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得ルモノトセリ而シテ法律カ後見人ノ事務ニ着手スル前親族會招集ノ請求ヲ爲スコトヲ要スルトシタルハ蓋シ民法ニ於テハ被後見人ノ利益保護ノ爲メニ後見ノ機關トシテ後見人ノ傍ラニ後見監督人アリテ始終後見人ヲ監視スルコト、爲シタリ故ニ若シ後見監督人ナキ場合ニ於テ後見人カ其事務ニ着手スルコトヲ得ルモノトスルトキハ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ私スルヤモ知ル可カラス又後見人ノ事務如何ニ不整頓ナリト雖モ之ヲ監督整理セシムル者アラスシテ被後見人ノ利益ト爲ル可シ又後見監督人ナクシテ後見人カ其事務ニ着手スルトキハ法律カ第九百十七條ニ於テ後見人ニ命シタル被後見人ノ財産ノ調査ヲ爲シ及ヒ其目錄ヲ調製スルコトモ能ハサルナリ何トナレハ此財産ノ調査及ヒ目錄調製ハ後

見監督人ノ立會ナケレハ爲スコトヲ得サレハナリ

以上ノ義務ヲ負ヘル後見人ハ法定又ハ指定ノ後見人ニ限ル若シ後見人ニシテ親族會ニ於テ選定セラレタルモノ(第九百四條)ナルトキハ親族會ノ招集ヲ請求スルノ要ナキナリ蓋シ法定後見人又ハ指定後見人カ後見人タルハ後見ノ開始ノ場合ナルカ故ニ未タ被後見人ノ爲メニ親族會ノ成立シ居ラサル時(第九百四十九條)ナレトモ法定後見人又ハ指定後見人ナクシテ親族會カ後見人ヲ選任ス可キ場合ニ於テハ特ニ後見監督人ヲ選任スルカ爲メニ親族會ヲ招集スルノ必要ナク其後見人選任ノ爲メニ招集セラレタル親族會ニ於テ同時ニ後見監督人ヲ招集スレハ可ナリ故ニ此場合ニハ本條第二項ヲ設ケ親族會ニ於テ後見人ヲ選任シタルトキ(第九百四條)ハ直チニ後見監督人ヲ選任スルコトヲ要スト爲シタルナリ

後見監督人ノ改選 (一)第九百十二條 後見人就職ノ後後見監督人ノ缺タタルトキハ後見人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス(人事編第六百六十九條第一項)第二

項第七十條

前條ハ後見人就職ノ際後見監督人ナカリシヲ以テ之カ選任ノ方法ヲ規定シタルモノナレトモ本條ハ之ト異ナリテ後見人就職ノ際ハ後見監督人アリシモ其後ニ至リテ缺ケタル場合ヲ規定セリ後見監督人ニ選任セラレタル者カ死亡シタルニ因リ缺ケタルコトアリ或ハ第九百七條ノ事由アルニ由リ辭任スルコトアリ(第九百十六條)或ハ第九百八條ノ事由アルニ由リ免黜セララルコトアリ此等ノ場合ニ於テハ速ニ前後見監督人ノ後任ヲ選任セサル可カラサルヲ以テ法律ハ後見人ヲシテ遲滯ナク親族會ヲ招集シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要スト爲セリ而シテ此場合ニテモ後見人カ此義務ニ違反シタルトキハ之ニ前條ト同一ノ制裁ヲ加ヘ親族會ニ於テ免黜スルコトヲ得ルモノトセリ蓋シ是レ此場合ニ於テモ後見監督人ハ被後見人保護ノ爲メニ一日モ缺ク可カラサルモノタルニ後見人カ後見監督人ナキコトヲ知リナカラ之カ選任ヲ促スコトヲ爲サハルハ不正ノ行爲ヲ爲ス爲メカ否ラサレハ非常ノ怠慢者ナルヲ以テナリ本條ニ於テハ前條ト異ナリテ後見人カ自カラ親族會ヲ招集スルハ被後見人ノ

爲メ既ニ親族會ノ設ケアルヲ以テ別ニ裁判所ニ之カ招集ヲ請求スルノ必要ナクレハナリ(第九百四十九條)

(二) 第九百十三條 後見人ノ更迭アリタルトキハ親族會ハ後見監督人ヲ改選スルコトヲ要ス但前後見監督人ヲ再選スルコトヲ妨ケス

新後見人カ親族會ニ於テ選任シタル者ニ非サルトキハ後見監督人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集シ前項ノ規定ニ依リテ改選ヲ爲サシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ後見人ノ行爲ニ付キ之ト連帶シテ其責ニ任ス

後見監督人ノ改選ハ後見監督人自身カ缺ケタル場合ニ限ルモノニ非ス後見監督人ハ依然タルモ後見人ノ更迭アリタルトキハ亦改選セララルモノトス是レ後見監督人ノ職務ノ性質ヨリ生スル規定ナリ後見監督人ハ後見人ノ誰レナルヤノ定マリタル後ニ之ヲ選任スルヲ原則トシ曩キニ叙述シタルカ如ク後見監督人ハ後見人カ能ク其任務ヲ盡スヤ否ヤヲ監督スル者ナレハ後見監督人ヲ選任スルニ當リテハ其後見人トノ間ニ於ケル親族上、財産上等ノ諸關係從來ノ經歷、年齢及ヒ智能等ヲモ參考トシ此後見人ナルカ故ニ彼ノ後見監督人ニテ適當

ナリトシ總ヘテノ標準ヲ後見人ニ取リテ之ヲ定メタルモノナルカ故ニ若シ其標準タル後見人ニシテ更迭アリタルトキハ之ニ伴フテ後見監督人ヲ改選ス可キハ當然ナリ否ラサレハ智能其他ノ關係ニ於テ後見監督人ニ優リタル後見人就任シタルトキハ以前ヨリ繼續スル後見監督人ニテハ到底新任ノ後見人ヲ監督スルヲ得サルコトアル可シ故ニ後見人更迭ノ場合ニ於テ親族會カ後見人ヲ選任シタルトキハ其選任ト同時ニ後見監督人ヲ改選スルコトヲ要スト爲シタリ然レトモ實際前後見監督人ニシテ新後見人ヲ監督スルニ適任ナルニ於テハ親族會カ前後見監督人ヲ再選スルコトハ毫モ差支ナキヲ以テ但書ノ規定ヲ加ヘタル所以ナリ

新後見人カ親族會ニ於テ選任シタル者ニ非サルトキ例之ヘハ指定又ハ法定ノ後見人タルトキハ後見監督人ハ自カラ遲滞ナク親族會ヲ招集シ自己ノ改選ヲ爲サシメサル可カラス而シテ此場合ニ於テモ親族會カ前後見監督人ヲ適當ト認ムルニ於テハ同シク再選スルコトヲ得可キナリ

後見監督人カ若シ指定又ハ法定後見人ノ新ニ就職シタルニ拘ハラズ自己ノ改

選ヲ爲ス可キ手續ヲ盡サ、ルトキハ新族會ハ其職權ヲ以テ之ヲ改選スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ後見監督人ハ著シキ怠慢者又ハ新後見人ト通謀シテ私曲ヲ行ハント欲スル者ト看做シ新後見人ノ爲シタル行爲ニ付テハ之ト連帶シテ其責ニ任スルコト、爲シタリ

此制裁ハ後見監督人ニ對シテノミ存シ親族會カ第一項ノ場合ニ於テ後見監督人ノ改選ヲ怠リタル場合ニハ如何ナル制裁モ之ナキモノ、如ク疑フ者アル可シト雖モ親族會ニ對シテハ第九百五十三條ノ規定アルカ故ニ其改選ヲ怠リタルカ爲メニ被後見人ニ損害ヲ生シタルトキハ其責ヲ辭スルコト能ハサルナリ』後見監督人タル不能力(第九百十四條) 後見人ノ配偶者直系血族又ハ兄弟姉妹ハ後見監督人タルコトヲ得ス

後見監督人タルコトヲ得サル場合ハ種々アリ後見人タルコトヲ得サル場合ノ如ク(第九百八條)無能力者、破産者又ハ裁判所ニ於テ不適任ト認メラレタル者ナルカ故ニ後見監督人ト爲ルコトヲ得サルコトアリ(第九百十六條)又後見人ト後見監督人トノ關係上或ル種類ノ人ニ限リテ之ヲ後見監督人ト爲スコトヲ得サ

ルアリ如何ナルモノヲ後見監督人ト爲スコトヲ得可カラサルモノト爲スカハ諸國ノ立法例同シカラス佛民法第四百二十三條ノ如キハ或ル場合ヲ除クノ外ハ後見監督人ハ之ヲ兩系(父系母系)ノ中後見人ノ屬セサル系中ヨリ之ヲ選擇ス可キモノトセリ

本條ハ則チ後見監督人カ後見人ト親族關係ヲ有スルカ故ニ法律カ後見監督人タルコトヲ禁シタル規定ナリ後見監督人ハ屢々敘述スルカ如ク後見人ヲ監督スル職務ヲ有スルカ故ニ最モ公平ニシテ偏頗ノ恐レナキコトヲ要ス然ルニ後見監督人タルヘキ者カ後見人ノ配偶者直系血族及ヒ兄弟姉妹等ノ如ク近親ノ間柄ニ在リテハ其愛情最モ深キヲ常トセルカ故ニ後見人カ私曲又ハ不行跡等ノ事アルトモ情實ニ流レテ後見人ヲ庇護シ充分ニ之ヲ監督スルコト能ハサルコトアリ此ノ如クスルトキハ被後見人ノ不利益タルヲ以テ法律ハ以上列記シタル者ヲ以テ後見監督人タル資格ナキモノトシタルナリ又後見監督人タルコトヲ得サル他ノ場合ハ第九百十六條ニ規定スル所ナレハ茲ニ之ヲ敘述セス

後見監督人ノ職務(第九百十五條) 後見監督人ノ職務左ノ如シ

- 一 後見人ノ事務ヲ監督スルコト
- 二 後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ナク其後任者ノ任務ニ就クコトヲ促シ若シ後任者ナキトキハ親族會ヲ招集シテ其選任ヲ爲サシムルコト
- 三 急迫ノ事情アル場合ニ於テ必要ナル處分ヲ爲スコト
- 四 後見人又ハ其代表スルモノト被後見人トノ利益相反スル行爲ニ付キ被

後見人ヲ代表スルコト(人事編第九十八條乃至第二百條)

後見監督人ノ職務ハ主トシテ後見人ヲ監督スルニ在レトモ其職務ハ尙ホ之ノミニ限ラス或場合ニハ被後見人ヲ代表シ又ハ必要ナル處分ヲ爲スコト等アルヲ以テ今其職務ヲ左ニ順次敘述セン

第一 後見人ノ事務ヲ監督スルコト

此職務ハ最モ重モナルモノニシテ後見監督ノ目的ハ後見人カ能ク其任務ヲ盡スヤ否ヤ其事務ノ執行カ法規ニ違反シ又ハ被後見人ノ利益ヲ害スルコトナキヤ否ヤヲ監視スルニ在リ而シテ此目的ヲ達スルカ爲メニ設ケラレタル規定モ

亦尠少ナラサルナリ後見人カ被後見人ノ財産ヲ調査シ其目錄ヲ調製スルニ當
リテ後見監督人ノ立會ヲ必要トシタル第九百十七條第二項ノ規定後見人カ被
後見人ニ對シテ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フトキハ財産ノ調査ニ着手スル前ニ
之ヲ後見監督人ニ申出ツルコトヲ要スル第九百十九條第一項ノ規定後見人カ
其管理ノ計算ヲ爲スニ當リテモ亦後見監督人ノ立會ヲ必要トスル第九百三十
八條第一項ノ規定ノ如キ是ナリ

後見監督人ハ其監督ノ結果ニ依リ後見人ノ管理上ノ不能又ハ不正實ノ事跡ヲ
發見シタルトキハ直チニ相當ノ處置ヲ爲サ、ルヘカラス

第二 後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ナク其後任者ノ任務ニ就クコトヲ促
シ若シ後任者ナキトキハ親族會ヲ招集シテ其選任ヲ爲サシムルコト

後見人ハ被後見人ノ爲メ一日モ缺クヘカラサルモノタリ若シ暫時ニテモ其缺
ケタルトキハ被後見人ハ其法定代理人ナク法律上ノ保護ヲ受ケサルカ故ニ後
見監督人ハ後見人カ死亡シ資格ヲ失ヒ又ハ辭任ヲ爲ス等ニテ缺ケタル場合ニ
於テ之ニ代ハルヘキ法定若クハ指定後見人アルトキハ遲滯ナク之ニ其就任ヲ

促シ若シ又法定後見人ナキトキハ親族會ヲ招集シテ之ヲ選任セシメサルヘカ
ラス

第三 急迫ノ事情アル場合ニ於テ必要ナル處分ヲ爲スコト

後見ノ事務ハ後見人之ヲ行ヒ後見監督人ハ之ヲ行ハサルヲ常トスレトモ後見
人カ更迭シ後任者カ未タ就任セサルカ如キ場合ニ於テ急ヲ要スル事務アルコ
トアリ例之ヘハ被後見人カ訴訟ノ當事者ノ一方ニシテ上訴其他急ニ爲サ、ル
ヘカラサル訴訟行爲ヲ爲スニ當リ後任者ノ就任ヲ待ツトキハ權利ヲ失フカ如
キ場合ニ於テハ後見監督人ハ被後見人ノ爲メ自ラ適當ノ處分ヲ爲サ、ルヘカ
ラス又風水害ニ遇ヒテ家屋ノ破損シタルカ如キ場合ニ於テモ速ニ其應急工事
ヲ施サ、レハ被後見人ノ不利益タル場合ノ如キモ亦後見監督人ハ自ラ必要ナ
ル處分ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ後見監督人カ此處分ヲ爲スハ後見人ノ缺ケ
タル場合ニハ限ラサルナリ現在後見人アリト雖モ不在ナルトキ又ハ其任務ヲ
行フコト不能ナルカ如キ場合ニ於テモ後見監督人ハ此義務ヲ負フナリ

第四 後見人又ハ其代表スルモノト被後見人トノ利益相反スル行爲ニ付キ被

後見人ヲ代表スルコト

後見人カ二人以上ノ被後見人ノ後見ヲ爲スコトアリ若クハ他人ノ商業支配人
其他ニ由リテ他ノ代表者タルコトアリ此等ノ場合ニ於テ被後見人ト其後見人
カ代表スル他ノ被後見人其他ノ者トノ利益相反スルコトアリ又ハ被後見人ノ
利益ト後見人ノ利益ト相反スルコトアリ例之ハ訴訟又ハ賣買ノ行爲ヲ爲ス
ニ當リ後見人又ハ其代表スル者カ被後見人ノ相手方ナル場合ニ於テ後見人カ
被後見人ヲ代表シテ其行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルトキハ被後見人ノ利
益ヲ充分ニ保護スルコト能ハス此ノ如キ場合ニ於テ後見人ノ行爲ハ自己ノ爲
メナルトキハ言フテ俟タス自己ノ利益ヲ圖ルヘク若シ然ラスシテ其代表スル
他ノ者ノ爲メナリトモ愛憎偏頗ノコトアル可クシテ公平ニ雙方ヲ代表シ各其
利益ヲ保護スルコト能ハサルヘキヲ以テ此場合ニ於テハ後見監督人カ被後見
人ヲ代表スルコト、爲シタリ

此規定ハ親權ニ關スル第八百八十八條ノ規定ト其趣旨ヲ同フスルモノニシテ
何人モ同一ノ法律行爲ニ付キ其相手方ノ代理人ト爲リ又ハ當事者雙方ノ代理

人ト爲ルコトヲ得サル代理ノ原則(第八八條)ヲ適用シタルナリ

後見監督人ノ責任ノ程度 本法ハ後見監督人カ其職務ヲ行フニ付テ受任者ノ
責任ニ關スル第六百四十四條ヲ之ニ準用スルコト、爲シタリ(第九百十六條)即
チ後見監督人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其職務ヲ行ハサルヘカラサルナ
リ親權者カ其子ニ對シテ管理權ヲ行フ場合(第八百八十九條)夫カ妻ノ財産ヲ管
理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合(第八百五條)ニハ孰レモ自己ノ爲メニスルト
同一ノ注意ヲ以テスレハ足レトモ後見監督人ハ親子夫婦間ノ關係ト異ナリテ
他人ノ事務ヲ管理スルモノナルヲ以テ普通ノ受任者ト同シク自己ニ對スルト
同一ノ注意ヲ以テ足レリトセス善良ナル管理者ノ注意ヲ以テスヘキコト當然
ナリ而シテ此規定ハ後見人及親族會員ニ付テモ同シク見ル所ナリ(第九百三十
六條、第九百五十三條)

後見監督人ノ辭任 後見監督人タルコトモ後見人ノ如ク法律上ノ強制負擔ナ
レハ任意ニ之ヲ辭スルコトヲ得サルモノニシテ後見人ト同シク法律カ認メタ
ル事由アルニ非サレハ其任ヲ辭スルコトヲ得サルナリ而シテ此場合ニハ後見

人ニ付キ規定シタル第九百七條ヲ準用スルコト、セリ(第九百十六條、人事編第百六十九條第三項)

後見監督人タル不能力 後見監督人タルコトヲ得サル場合モ後見人ノ缺格ノ場合ト同シキカ故ニ後見監督人ニ其規定第九百八條ヲ準用スルコト、セリ(第九百十六條、人事編第百六十九條)

第三節 後見ノ事務

本節ハ後見人カ行フヘキ職務及ヒ其之ヲ行フニ當リテ有スル權利及ヒ義務ノ範圍ヲ規定シタルモノナリ

就職ノ際ニ於ケル義務(第九百十七條) 後見人ハ遲滞ナク被後見人ノ財産ノ調査ニ着手シ一个月内ニ其調査ヲ了リ且其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得
財産ノ調査及ヒ目錄ノ調製ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ

後見人カ前二條ノ規定ニ從ヒ財産ノ目錄ヲ調製セサルトキハ親族會ハ之ヲ免黜スルコトヲ得(人事編第百八十三條、第百八十七條)

後見人カ就職ノ際ニ於ケル義務ハ被後見人ノ財産ヲ調査シ及ヒ之カ目錄ヲ調製スルコト是レナリ後見人ノ事務ハ通常之ヲ三種ニ區別ス一ハ被後見人ノ身上ニ對スル事務、二ハ其財産ニ對スル事務、三ハ法律行為ニ付キ被後見人ヲ代理シ又ハ被後見人カ爲ス行為ニ付キ同意ヲ與フルノ事務ナルカ後見人ハ其中主トシテ財産管理ヲ爲ス可キモノニシテ其任務ノ始マルヤ直チニ管理ニ着手シ又其任務ノ終ルトキハ後見人ハ其管理セシ財産ヲ被後見人ニ返還セサルヘカラサルモノナレハ管理ニ着手スルニ當リ財産ヲ調査シ之カ目錄ヲ調査セシメサルトキハ管理ノ終リタルトキ被後見人ノ財産カ幾何ナリシカヲ知ルコト能ハサルナリ而シテ後見人カ其任務中被後見人ノ財産ニ對シテ私曲ヲ行ヒ之ヲ減少スルトモ容易ニ知ルコト能ハサルナリ故ニ後見人ハ其就職スルヤ遲滞ナク被後見人ノ財産ノ調査ニ着手セサル可ラサルモノトセリ人事編(第百八十七條)ハ後見人ハ當然其任務ニ就ク日ヨリ十日内ニ財産ヲ調査スヘキコトヲ命シ

タレトモ本法ハ調査終了ノ期限ヲ制限シタルニ止マリ其着手ニ付テハ別ニ制限ヲ設ケスシテ單ニ遲滯ナクト云ヒ實際ノ情況ニ應セシムルコト、爲シタリ然レトモ調査ノ結了及ヒ目錄ノ調製ニ付キ制限ヲ設ケサルトキハ後見人カ之ヲ等閑ニ付スヘキ恐レアルヲ以テ之ヲ一、個、月、内ニ爲スコトヲ要ストシタリ但シ財産カ夥多ナルカ又ハ遠隔ノ地ニ散在スルカ其他正當ナル理由アリテ一、個、月、内ニ其調査ヲ終ハルコト能ハサル場合ニ於テハ此期間ハ親族會ニ於テ伸長スルコトヲ得ルモノトセリ

財産ノ調査ハ後見人カ隨意ニ之ヲ爲スコトヲ許サス之ヲ調査スルニハ必ス後見監督人ノ立會アルヲ要ス若シ後見人カ其立會ナクシテ調査ヲ爲シタルトキハ其效ナキモノトセリ蓋シ財産ノ調査ハ被後見人ノ財産ヲ明確ニスルカ爲メニ爲スモノナレハ後見人カ恣ニ之ヲ調査スルコトヲ許ストキハ或ハ不正ノ目錄ヲ調製シテ財産ヲ私スルノ恐レアリ或ハ調査疎漏ニシテ財産ノ脱漏スル恐アルヲ以テ以上ノ如ク規定シタル所以ナリ

後見人カ右法律ノ規定ニ從ヒ財産ヲ調査シ其目錄ヲ調製セサルトキハ如何ナ

ル制裁ヲ加フヘキヤ右ノ如キ場合ニ特別ノ制裁ヲ付セス唯タ其過失懈怠等ニ依リテ損害ヲ生シタルトキハ普通ノ原則ニ依リテ之カ賠償ヲ請求シ又不正ノ行爲アルカ著シキ不行跡アルトキハ之ヲ免黜スルコトヲ得(第九百八條第八號)ヘシト雖モ不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡等ハ之ヲ證明セサルヘカラサルモノニシテ時トシテハ其證明ニ困難ヲ感スルコトアリ又ハ財産ヲ調査セサレハトテ必スシモ不正行爲、不行跡アリト云フヲ得サルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テモ之ヲ免黜スルコトヲ得ル規定ヲ設ケサルトキハ如何トモスルヲ得サル場合ヲ生スヘキヲ以テ親族會ハ此義務ニ違背シタル後見人ヲ免黜スルコトヲ得ルモノトシタリ蓋シ此ノ如キ後見人ハ私曲ヲ逞フセンカ爲メ若クハ甚シキ怠慢者ナルカ爲メ法律上ノ義務ヲ怠リタルモノト看做スコトヲ得ヘケレハ之ヲ免黜スルコトヲ得トシタルハ當然ナリ

目錄調製終了前ノ權限(第九百十八條) 後見人ハ目錄ノ調製ヲ終ハルマテハ急迫ノ必要アル行爲ノミヲ爲ス權限ヲ有ス但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(人事編第百八十九條)

後見人カ財産ノ調査目錄ノ調製前ニ管理ニ着手スルコトヲ得ルモノトスルト
 キハ前ニ敘述シタルカ如ク弊害アルヲ以テ其調査終了スルマテハ被後見人ノ
 爲メニ行爲ヲ爲サシメサルヲ可ナリトス然レトモ其間全ク如何ナル行爲ヲモ
 爲サシメサルコト、スルトキハ被後見人ノ爲メニ後見機關ノ一部ヲ缺クヲ以
 テ後見人カ財産ノ調査ヲ爲シ目錄ノ調製ヲ終ハルマテハ急迫ノ必要アル行爲
 ノミヲ爲ス權限ヲ與ヘタリ例ヘハ訴訟行爲ニ付キ懈怠ヲ爲ストキハ甚シキ不
 利益アル場合(不變期間ノ經過)時効ノ中斷急ヲ要スル修繕期間アル株金ノ拂込
 等ノ如キ之ヲ怠ルトキハ權利ヲ失ヒ又ハ財産ノ破損ヲ招クカ如キ行爲ハ之ヲ
 爲スコトヲ得セシメサルヘカラス又爲サシメサルヘカラサルナリ若シ之ヲ爲
 スコトヲ得サルモノトスルトキハ却テ被後見人ノ不利益タルヘキナリ然レト
 モ其他ノ行爲ニ至リテハ財産目錄調製ヲ待チテ後之ヲ爲スモ不都合アルコ
 トナカルヘシ

夫レ此ノ如ク後見人カ財産目錄ノ調製ヲ終ハラサル前ニ於テ本條ノ權限外ノ
 行爲ヲ爲シタルトキハ其行爲ハ被後見人ニ對シテハ全ク效力ヲ生セサルヲ原
 則トスト雖モ善意ノ第三者即チ後見人カ財産目錄ノ調製ノ終ラハサルコトヲ
 知ラサル者ニ對シ後見人カ急ヲ要セサル行爲ヲ爲シタルトキ之ヲ後見人ノ權
 限外ニ屬スル行爲トシテ效力ヲ生セサルモノトスルトキハ第三者ハ之カ爲メ
 ニ意外ノ損失ヲ被ムリ甚タ酷ニ過クルナリ何トナレハ財産目錄ノ調製ノ終ハ
 リタルヤ否ヤノ如キハ全ク後見人ト被後見人トノ間ニ於クル内部ノ關係ニシ
 テ第三者ハ之ヲ知ラサルヲ常トスレハナリ故ニ善意ノ第三者ニ對シテハ後見
 人ハ常ニ第九百二十三條ニ規定セル權限ヲ有セルモノト看做シ之ヲ保護セリ
 然レトモ第三者ニシテ未タ財産目錄ノ調製ヲ終ラサルコトヲ知リナカラ後見
 人ト其權限外ニ屬スル行爲ノ取引ヲ爲シタルトキハ第一百十三條乃至第一百八
 條ノ規定ニ依リ追認アリタルトキハ行爲ノ當時ニ遡リテ其效力ヲ生スヘシト
 雖モ然ラサルニ於テハ被後見人ニ對シテ其行爲ハ效力ヲ生セサルナリ
 被後見人ニ對スル債權債務關係ノ申出(第九百十九條)後見人カ被後見人ニ對
 シ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フトキハ財産ノ調査ニ着手スル前ニ之ヲ後見監督
 人ニ申出ツルコトヲ要ス

後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有スルコトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキハ其債權ヲ失フ

後見人カ被後見人ニ對シ債務ヲ負フコトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得(人事編第百八十八條)

本條ハ財産調査ノ着手前後見人ニ負ハシメタル義務ノ一ナリ蓋シ被後見人ノ財産ヲ調査スルハ前ニモ叙述シタルカ如ク其財産ヲ明確ニスルニ在ルカ故ニ被後見人カ有スル債權債務モ亦之ヲ記載スヘキハ勿論ナリ然ルニ後見人カ被後見人ニ對シテ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フ場合之ヲ申出ツルコトヲ要セストスルトキハ後見人カ債權者タル場合ニ於テハ被後見人ノ先人カ既ニ辨濟シタル證據ナキコトヲ發見シタルトキハ再ヒ之カ辨濟ヲ請求スヘク又ハ被後見人方ニ存セシ辨濟ノ證據ヲ湮滅シテ再度ノ辨濟ヲ請求スルコトアルモ計リ知ル可カラサルナリ又後見人カ被後見人ノ債務者タル場合ニ於テハ被後見人方ニ債權ノ證據ナキヲ奇貨トシ又ハ存生セシ證書ヲ湮滅シテ其義務ヲ免レント謀ルコトナシトセス然レトモ財産ノ調査前ニ以上ノ申出ヲ爲ストキハ此ノ如キ

奸曲ヲ爲スコト能ハサルヘキナリ

後見人ハ何人ニ對シテ其債權及ヒ債務ノ申出ヲ爲スヘキヤ外國ニ於テハ或ハ公證人或ハ裁判所或ハ親族會ニ之ヲ申出テシムル例多ク又尋問ヲ受ケテ後申出ツレハ可ナリト爲スモノアレトモ本法ハ此ノ如キ立法例ニ倣ハス尋問ヲ受ケスシテ後見人自ラ進ンテ後見監督人ニ申出ツヘキコト、セリ

後見人カ右申出ヲ怠リタル制裁トシテハ債權ヲ有スル場合ト債務ヲ負擔スル場合トニヨリ異レリ後見人カ被後見人ニ對シテ債權ヲ有スルコトヲ知リナカラ之ヲ申出テサルトキハ其債權ヲ失フモノトシ又債務ヲ負フコトヲ知リナカラ之ヲ申出テサルトキハ親族會ハ之ヲ免黜スルコトヲ得ルモノトセリ然レトモ此等ノ場合ハ後見人カ其債權又ハ債務アルコトヲ知リテ之ヲ申出テサル場合ニ限ルモノニシテ若シ後見人カ相續其他ニ依リテ被後見人トノ間ニ債權又ハ債務ノ關係アルコトヲ知ラサル場合ニ於テハ之カ申出ヲ爲サ、ルヲ責ムヘキニアラサレハ以上ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非サルナリ

就職後被後見人カ包括財産ヲ取得シタル場合ニ於ケル義務(第九百二十條) 前

三條ノ規定ハ後見人就職ノ後被後見人カ包括財産ヲ取得シタル場合ニ之ヲ準用ス

被後見人ノ利益ヲ能ク保護スル爲メニハ後見人カ就職スル際ニ限ラス其以後ト雖モ被後見人カ財産ヲ取得シ又ハ喪失シタルトキハ其都度之ヲ財産目録中ニ記載セサルヘカラス然レトモ被後見人カ特定財産ヲ取得スル場合ハ頻繁ナルヘキニ其都度後見人ヲシテ一々之カ目録ヲ調製セシムルカ如キハ後見人ヲシテ其煩ニ堪フルコトヲ得サラシムルヲ以テ特定財産ヲ取得シタルトキハ第九百二十八條ノ規定ニ從ヒ後見人ハ每年少クトモ一回被後見人ノ財産ノ狀況ヲ親族會ニ報告スヘキ義務アルヲ以テ之ニ依リテ報告スレハ足ルモノトシ特ニ取得ノ都度財産目録ニ記載スヘキ義務ヲ負ハシメサル所以ナリ然レトモ被後見人カ包括財産ヲ取得シタルトキ例之ヘハ他人ノ相續ヲ爲シ又ハ他人ヨリ包括的遺贈ヲ受クタル場合ニ於テハ被後見人ノ財産ニ至大ノ變動ヲ生スルモノナルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ新ニ財産目録ヲ調製シテ其取得シタル資産額ヲ明ニスルハ必要ナルヲ以テ此場合ニ限り前三條ノ規定ヲ準用スルコト

、爲シタリ

未成年者ノ身上ニ關スル後見人ノ職務第九百二十一條) 未成年者ノ後見人ハ第八百七十九條乃至第八百八十三條及ヒ第八百八十五條ニ定メタル事項ニ付キ親權ヲ行フ父又ハ母ト同一ノ權利義務ヲ有ス但シ親權ヲ行フ父又ハ母カ定メタル教育ノ方法及ヒ居所ヲ變更シ未成年者ヲ懲戒場ニ入レ、營業ヲ許可シ、其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(人事編第百八十四條第百八十五條)

未成年者ニ對スル後見ハ恰カモ親權ノ延長シタルモノ、如クニシテ其後見人ハ親權者ノ相續人ト云フモ可ナルカ故ニ後見人ノ職務ハ概シテ親權者ニ等シキヲ本則トスレトモ唯タ其間差異アルハ其一ハ自然ノ愛情ニ基クモノナルカ故ニ其保護完全ナルコトヲ期シ得ヘキモ他ノ一ハ必スシモ自然ノ愛情アラサルヲ以テ其保護完全ナルコトヲ期スヘカラス之ヲ以テ親權者ノ權利ニハ制限ナキ場合ニモ後見人ノ權限ニハ制限アリテ殊ニ親族會ノ監督ヲ受ク其認許ヲ得テ被後見人ニ對スル權利ヲ行フコトアルノミ即チ本條ニ於テ未成年者ノ身

上ニ關スル權利義務ニ付キ親權ニ關スル規定ヲ準用スルコト、セリ後見人ハ第一未成年者ノ監護及ヒ教育ノ權利義務(第八百七十九條)第二未成年者ノ居所ヲ定ムル權利(第八百八十條)第三兵役ノ出願ヲ拒否スル權利(第八百八十一條)第四懲戒ノ權利(第八百八十二條)第五職業ヲ許可シ之ヲ取消シ又ハ制限スルノ權利(第八百八十三條)第六未成年者カ其配偶者ノ財產ヲ管理スヘキ場合ニ未成年者ニ代ハリテ其財產ヲ管理スル權利(第八百八十五條)ヲ有ス然レトモ親權者ハ子ノ教育ノ方法及ヒ其居所ヲ定メ之ヲ懲戒場ニ入レ其營業ヲ許可シ其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニ獨斷ヲ以テ決スルコトヲ得ルト雖モ後見人ハ此等ノ場合ニ於テハ必ス親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトセリ蓋シ此等ノ場合ハ總テ被後見人ノ爲メ重大ナル利害アルモノナレハナリ

後見人カ新ニ未成年者ノ教育ノ方法ヲ定ムル場合ハ親權ヲ行フ父又ハ母ト同シク敢テ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス唯タ親權ヲ行ヒタル父又ハ母カ定メタル方法ヲ變更セント欲スルトキノミ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルナリ又未成年者ノ居所ヲ定ムル場合モ亦之ト同シク其親權者カ定メタルモノヲ

變更スルトキノミ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルニ過キサルナリ但シ此場合ニ於テモ後見人以外ノ者カ戶主タルトキハ戶主ハ第七百四十九條ノ規定ニ依リ家族タル未成年者ノ居所ヲ定ムル權利ヲ有スルコトハ論ヲ俟タサルナリ而シテ又後見人カ戶主タル場合ニ於テハ戶主ノ資格ヲ以テ右同條ノ規定ニ依リ其獨斷ヲ以テ未成年者ノ居所ヲ變更セシムルヲ得ルコトモ亦論ヲ俟タサルナリ法律カ親權者ノ既ニ定メタル教育ノ方法及ヒ居所ヲ變更スル場合ニ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトシタルハ蓋シ親權者ハ子ノ爲メ最モ利益アル教育ノ方法及ヒ居所ヲ定メタルモノト看做スカ故ニ之ヲ變更スルニハ重大ナル理由ナカラサル可カラサルナリ是ヲ以テ親族會ヲシテ之ヲ調査セシメノカ爲メニ其同意ヲ得ルコト、爲シタルナリ

禁治產者ノ身上ニ關スル後見人ノ職務(第九百二十二條) 禁治產者ノ後見人ハ禁治產者ノ資力ニ應シテ其療養看護ヲカムルコトヲ要ス

禁治產者ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ私宅ニ監置スルト否トハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ム(人事編第二百二十七條)

本條ハ禁治産者ノ後見人ニ特殊ナル職務ヲ定メタルモノナリ禁治産者ニ對スル後見モ其身体及ヒ財産ヲ保護スル職務タルコト未成年者ニ對スル後見ニ同シト雖モ其保護ノ目的ノ異ナルニ從ヒテ其義務ノ實體モ異ナル所アリ蓋シ法律カ未成年者ヲ後見ニ付スルハ其身体精神ノ未タ發達セサルニ由ル而シテ禁治産者ヲ後見ニ付スルハ其身体精神ノ健康ヲ失セルニ由ル故ニ未成年者ニ付キ其監護及ヒ教育ニ注意スヘキト同シク禁治産者ニ付テハ其療養看護ニ注意セサルヘカラス唯タ療養看護ノ方法ニ付テハ固ヨリ本人ノ資力ニ應シテ自ラ差等アルヘキカ故ニ禁治産者ノ資力ニ應シテ其療養看護ヲ爲ス可キコト、シタリ

禁治産者ハ心神喪失ノ常況ニ在ルモノナルヲ以テ之ヲ療養看護スルニハ瘋癲病院ニ入ル、カ又ハ之ヲ私宅ニ監置スルカハ費用ノ上ニ差異アルノミナラス禁治産者ノ健康ニモ影響ヲ及ホシ且ツ其病症如何ニ依リテハ病院ニ入レ又ハ監督スルノ必要ナキノ場合モアルヘケレハ此等ノ事ヲ決スルニ後見人ノ獨斷ヲ以テセシムルハ禁治産者ノ爲メ利益ナラサルヲ以テ後見人カ之ヲ決スルニ

ハ親族會ノ同意ヲ得ヘキコト、ナシタリ

被後見人ノ財産ニ關スル後見人ノ職務第九百二十三條 後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ對スル法律行爲ニ付キ被後見人ヲ代表ス

第八百八十四條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(人事編第百八十六條)

前々條第九百二十一條ハ特ニ未成年者ノ後見ニ關シ前條第九百二十二條ハ特ニ禁治産者ノ後見ニ關スレトモ本條ハ此等兩種ノ被後見人ニ普通ナル規定ニシテ其財産ニ關スル後見人ノ職務ヲ定メタルナリ即チ後見人ハ被後見人(未成年者又ハ禁治産者)ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル一切ノ法律行爲ニ付キ被後見人ヲ代表ス而シテ其管理權及ヒ代表權ノ行爲ニ付テハ親權ヲ行フ父又ハ母ニ比シテ以下叙述スルカ如ク數多ノ制限ヲ受クヘシト雖モ本條ノ規定ハ親權ニ關スル第八百八十四條ト其趣旨ヲ同フス又被後見人ノ行爲ヲ目的トスル債務ヲ生スヘキ場合ニ於テハ父又ハ母カ親權ヲ行フ場合ト同シク必ス被後見人ノ同意ヲ得サルヘカラス

毎年支出スヘキ金額ヲ豫定スル義務(第九百二十四條) 後見人ハ其就職ノ初メ

ニ於テ親族會ノ同意ヲ被後見人ノ生活、教育又ハ療養看護及ヒ財産ノ管理ノ爲メ毎年費スヘキ金額ヲ豫定スルコトヲ要ス

前項ノ豫定額ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テ豫定額ヲ超ユル金額ヲ支出スルコトヲ妨ケス（人事編第九十條第一項、第二百九條、第二百二十六條）

後見人ノ就職ノ初ニ於テ被後見人ノ生活、教育又ハ療養看護及ヒ財産ノ管理ノ爲メニ年々費スヘキ金額ヲ豫定セスシテ之ヲ後見人ノ意見ニ依リ自由ニ費スコトヲ得ルモノトスルトキハ被後見人ノ爲メニ格外ニ多額ノ金額ヲ支出スルヤモ知ルヘカラス而シテ此場合ニ於テ後日其必要ナリシコトヲ證明スルトキハ其額ノ如何ヲ問ハス親族會ハ之ヲ非難スルコト能ハサルヘシ然ルニ被後見人ノ財産ニハ限りアルヲ以テ其社會上ノ地位、教育及生活ノ程度、病症ノ如何等ニ依リ適當ニ費サ、ルニ於テハ到底被後見人ノ財産ノ安固ハ之ヲ保存スルコト能ハサルナリ故ニ此等ノ費用額ハ豫メ親族會ノ適當ト認メタル所ニ從ヒテ之ヲ支出スルコト、定メ其額ハ已ムヲ得サルニ非サル以上ハ超過スルコトヲ

得サルモノトスルハ被後見人保護ノ爲メ最モ必要タルナリ

以上ノ豫定額ハ眞ノ豫定額ナルヲ以テ必要ナキ場合ニ豫定額ニ充ツルマテ費スヘカラサルナリ若シ豫定額内ノ支出ナリト雖モ不當ノ費用アリシトキハ後見人ハ之カ責任ヲ負ハサルヘカラス何トレハ後見人ハ被後見人ノ爲メニ常ニ善真ナル管理者ノ注意ヲ以テ其職務ヲ執ラサルヘカラスレハナリ又其反對ニ於テ縱令其豫定額外ト雖モ已ムヲ得サル支出ナルトキハ之ヲ支出スルコトヲ許サ、ルヘカラス然レトモ此場合ニ於テハ後見人ニ於テ其已ムヲ得サルコトヲ證明セサル可カラス

本文中生活ノ費用及財産管理ノ費用ハ未成年者及ヒ禁治産者ニ共通スルモノナレトモ教育ノ費用ハ専ラ未成年者ニ療養看護ノ費用ハ禁治産者ニ關スルモノナルヤ論ヲ俟タサルナリ

職務ニ對スル報酬（第九百二十五條）親族會ハ後見人及ヒ被後見人ノ資力其他ノ事情ニ依リ被後見人ノ財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ後見人ニ與フルコトヲ得但シ後見人カ被後見人ノ配偶者、直系血族又ハ戸主ナルトキハ此限ニ在ラス

後見人ニ報酬ヲ與フヘキモノトスルヤ否ヤニ付テハ諸國ノ立法例區々タリ葡
 萄牙ノ如キハ之ヲ與フルヲ常トシ佛蘭西伊太利ノ如キハ之ヲ與ヘサルヲ常ト
 シ和蘭ノ如キハ報酬ヲ與ヘサルヲ原則トスレトモ裁判所ノ決定アルトキハ之
 ヲ與フルコトノ例外アリ西班牙澳太利及ヒ獨逸ノ如キハ親族會ノ決議ニ依リ
 之ヲ與フルコトヲ得ルモノトセリ本法ハ獨逸法ニ倣ヒ親族會ハ後見人及ヒ被
 後見人ノ資力其他ノ事情ニヨリ被後見人ノ財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ後見人ニ
 與フルコトヲ得ルモノトセリ蓋シ後見人ニ報酬ヲ與フルヲ禁スルハ後見人ハ
 素ト公益上國民ノ義務トシテ之ニ無能力者保護ノ責任ヲ負ハシムルモノナル
 カ故ナレトモ是レ假令ヒ國民ノ義務ナレハトテ後見ノ職務ヲ盡クスカ爲メニ
 ハ時間ト費用トヲ要シ之カ爲メニ後見人ノ固有ノ職業ヲ妨ケラル、コトモア
 ルヘケレハ強井テ無報酬ニテ其職務ヲ執ラシムルトスルハ甚タ酷ニ失スルモ
 ノト謂フヘキナリ然レトモ後見人カ配偶者直系血族、戸主等ノ如キ特別ノ關係
 アル者ナルトキハ此等ノ者ハ其自然ノ性質ニ於テ被後見人ヲ保護スヘキ地位
 ニ在ルカ故ニ報酬ヲ與フヘキ理由存セサルナリ而シテ此但書ノ立法ノ趣旨ハ

後見人カ其任務ヲ辭スルコトヲ得サル場合ニモ見ル所ナリ(第九百七條第一項
 第四號但書)

有給ノ財産管理者又ハ復代理人ヲ使用スルノ權(第九百二十六條) 後見人ハ親
 族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財産管理者ヲ使用スルコトヲ得但第百六條ノ適用ヲ
 妨ケス(人事編第九十條第二項)

後見人ハ被後見人ノ身上ニ關スル事項ニ付テハ他人ヲシテ自己ノ職務ヲ執ラ
 シムルコトハ許スヘカラサレトモ財産ノ管理ニ付テハ法定代理人ハ原則トシ
 テ自己ノ責任ヲ以テ復代理人ヲ選任スルヲ得ルコトハ第百六條ニ規定スル所
 ニシテ此原則ハ後見人カ被後見人ノ財産ヲ管理スル場合ニ除外ヲ設ク可キニ
 非サレハ後見人ハ自己ニ代ハル財産ノ管理者ヲ使用スルコトヲ得若シ之ヲ許
 サ、ルトキハ被後見人ノ財産夥多ナルトキ又ハ諸所ニ散在スルカ如キ場合ニ
 於テハ後見人一人ニテ之ヲ管理スルヲ得サルコトアリ或ハ後見人カ自己ノ職
 務ニ繁忙ナルカ爲メニ自カラ被後見人ノ財産ヲ管理スルヲ得サルカ如キ不便
 アリ然ルニ他人ヲ以テ後見人ニ代ハルコトヲ許シ後見人カ其責任ヲ負フニ於

テハ恰カモ後見人自ラ管理スルト同一ニシテ極メテ便利タルナリ然レトモ後見人ハ被後見人ノ財産中ヨリ自己ノ獨斷ヲ以テ其代理人ニ給料ヲ與フルコトヲ得ス若シ給料ヲ與フル必要アルトキハ親族會ノ同意ヲ得サルヘカラス而シテ後見人カ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財産管理者ヲ使用シタル場合ニ於テモ第百六條ノ規定ハ適用セラル、モノトス即チ後見人ハ其復代理人ノ行爲ニ付テハ自カラ責任ヲ負フヘキヲ原則トシ唯タ其復代理人ヲ使用スルノ已ムヲ得サルニ出テタルトキハ單ニ復代理人ノ選任及ヒ監督ニ付テノミ之カ責任ヲ負フモノトス

受取リタル金錢ヲ寄託スル義務第九百二十七條) 親族會ハ後見人就職ノ初ニ於テ後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金錢カ何程ノ額ニ達セハ之ヲ寄託スヘキコトヲ定ムルコトヲ要ス

後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金錢カ親族會ノ定メタル額ニ達スルモ相當ノ期間内ニ之ヲ寄託セサルトキハ其法定利息ヲ拂フコトヲ要ス

金錢ヲ寄託スヘキ場所ハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ム(人事編第九十

一條

後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金錢カ嵩ミタルトキ之ヲ銀行其他ニ貯藏セシテ後見人カ保管スルニ於テハ後見人カ之ヲ消費若クハ融通スルノ危険アルノミナラス空シク之ヲ貯藏スルトキハ利殖セサルヲ以テ親族會ハ後見人就職ノ初ニ於テ後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金錢カ何程ノ額ニ達セハ之ヲ寄託スヘキカヲ定ムルコトヲ要スルコト、爲シタリ然レトモ後見人カ如何ナル些少ノ金額ヲ受取ルモ即時ニ之ヲ寄託スヘキモノトスルトキハ後見人ハ實ニ其煩ニ堪ヘサルカ故ニ法律ハ如何ナル些額ニテモ寄託スヘキコトヲ命セス何程ノ額ニ達スレハ寄託スヘキカハ被後見人ノ資産ニ從ヒテ異ナルモノナレハ其額ハ親族會ニ於テ定ムヘキコト、爲セリ

素ト後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金額ヲ寄託スルコト、スルハ被後見人ノ財産ノ安固ヲ圖ル爲メニ出ツルモノナレハ其之ヲ寄託スヘキ場所ニ付テモ後見人カ隨意ニ定ムルコトヲ許サス若シ後見人カ之ヲ信用ナキ所ニ寄託スルトキハ被後見人ノ爲メ安固ヲ圖リテ却テ其不利益ト爲ル可ケレハ其寄託

スヘキ場所ハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ムルコト、セリ
後見人カ親族會ノ定メタル額ニ達シタル金額ヲ相當ノ期間内ニ寄託セザルト
キハ之ニ對スル制裁ナカルヘカラス此場合ニ於テ後見人ハ其期間ヲ經過シタ
ルトキヨリ其法定ノ利息(第四百四條ノ規定ニ依リ一ケ年五分ナリ)ヲ拂フコト
ヲ要ス

財産ノ狀況ヲ報告スル義務(第九百二十八條) 指定後見人及ヒ選定後見人ハ毎
年少クトモ一回被後見人ノ財産ノ狀況ヲ親族會ニ報告スルコトヲ要ス(人事編
第九百九十二條、第二百二十六條、第二百二十八條)

親族會ハ後見人ヲ監督スル職務ヲ有スレトモ被後見人ノ財産ノ狀況ヲ詳悉セ
サルトキハ果シテ後見人カ適當ニ其任務ヲ盡クセルヤ否ヤヲ知ルコト能ハサ
ル場合多シ若シ後見人カ其任務ノ終了シタルトキ之ヲ一時ニ報告スルヲ以テ
足レリトスルトキハ後見人ノ任務ハ十數年モ繼續スルコトアルヘケレハ其間
ニ如何ナル私曲ヲ行フモ之ヲ知ルコト難クシテ遂ニ被後見人ノ不利益ト爲ル
ヘキヲ以テ毎年少クトモ一回財産ノ狀況ヲ報告スヘキモノト爲シタルナリ而

シテ此ノ如クスルトキハ獨リ被後見人ノ利益タルノミナラス後見人自身ノ利
益トモ爲ルヘシ何ントナレハ後見人ハ毎年少クトモ一回ノ報告ヲ爲ストキハ
之ヲ以テ一年間ノ責任ヲ解除セラレ可ケレハナリ

法律カ此義務ヲ獨リ指定後見人(第九百一條)及ヒ選定後見人(第九百四條)ニ限リ
テ負ハシメ、父、母、配偶者又ハ戶主ノ如キ法定後見人(第九百二條、第九百三條)ニ之
ヲ負ハシメサルハ如何此等ノ後見人ハ一ハ自然ノ愛情ニ基クカ故ニ私曲ヲ行
フコトアルハ稀レナリト推定シ又一ニハ此等ノ法定後見人ハ法律上當然後見
人タル義務アルモノニシテ如何ナル場合ニモ報酬ヲ請求スルコトヲ得サルカ
故ニ之ニ本條ノ義務ヲ負ハシムルハ酷ニ失スルヲ以テナリ

重大ナル行爲ニ付キ親族會ノ同意ヲ得ル義務(第九百二十九條) 後見人カ被後
見人ニ代ハリテ營業若クハ第十二條第一項ニ掲ケタル行爲ヲ爲シ又ハ未成年
者ノ之ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但元本ノ領
收ニ付テハ此限リニアラス(人事編第九百九十三條、第九百九十四條、第二百二十九條)
本條ハ後見人ノ代理權及ヒ同意權ノ制限ノ一タリ蓋シ後見人ハ第九百二十三

條ニ依リ被後見人ノ財産ニ付テハ概括的權限ヲ有シ又第四條ニ依レハ未成年者カ法律行為ヲ爲スニ付キ同意ヲ與フル權利ヲ有スト雖モ後見人カ如何ナル重大ナル行為ト雖モ之ヲ其獨斷ニテ爲シ又ハ爲サシムルコトヲ得ルモノトスルトキハ甚タ危險ニシテ被後見人ノ利益タルヘキヲ以テ本法ニ於テハ後見人ノ專横ヲ防カンカ爲メニ後見人カ被後見人ニ代ハリテ營業ヲ爲シ又ハ未成年者カ之ヲ爲スニ同意ヲ爲ス場合及ヒ後見人カ被後見人ニ代ハリテ第十二條第一項ニ掲ケタル行為準禁治產者カ其保佐人ノ同意ヲ得テ爲ス行為即チ(一)元本ヲ領收シ又ハ之ヲ利用スルコト(二)借財又ハ保證ヲ爲スコト(三)不動産又ハ動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行為ヲ爲スコト(四)訴訟行為ヲ爲スコト(五)贈與和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト(六)相續ヲ承認シ又ハ之ヲ拋棄スルコト(七)贈與若クハ遺贈ヲ拒絕シ又ハ負擔附ノ贈與若クハ遺贈ヲ受諾スルコト(八)新築改築又ハ大修繕ヲ爲スコト(九)第六百二條ニ定メタル期間ヲ超ユル質貸借ヲ爲スコト)ヲ爲シ又ハ未成年者カ之ヲ爲スニ同意ヲ爲ス場合ニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノト爲セリ而シテ第十二條ニ列舉シタル行為ハ孰レモ重大ナルコトヲ要スルモノト爲セリ而シテ第十二條ニ列舉シタル行為ハ孰レモ重大

ナルモノナレトモ是レ民法總則編ノ講義ニ依リテ判明スヘキヲ以テ茲ニハ別ニ說明セサルナリ唯々同條ノ規定ト異ナル所ハ茲ニ敘述セサルヘカラス即チ同條第一項第一號ノ前半タル元本ヲ領收スルコトハ準禁治產者カ之ヲ爲スニハ其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルト爲シタルモ後見人カ被後見人ノ爲ニ之ヲ領收スル場合ニ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要セサルモノト爲シタルハ他ナシ準禁治產者カ其獨斷ニテ元本ヲ領收スルコトヲ得ルモノトスルトキハ往々損害ヲ被ムルコトアラシク然レトモ後見人カ被後見人ニ代リテ之ヲ領收シタリトテ被後見人ニ損害ヲ釀成スルノ虞レナク若シ元本ヲ領收スル場合ニ一々親族會ノ同意ヲ得可キコト、スルトキハ甚タ煩ニ堪ヘサルモノニシテ却テ被後見人ノ利益タルヘキヲ以テ但書ヲ加ヘタルナリ

後見人ノ能力ノ制限 (一) 第九百三十條 後見人カ被後見人ノ財産又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタルトキハ被後見人ハ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ハ第二百二十一條乃至第二百二十六條ノ適用ヲ妨ケス(人事編第九十

五條、財産取得編第三十七條、第三十八條

後見人自身ノ利益ト被後見人ノ利益ト相反スル場合ニ於テハ後見人カ自己ノ利益ヲ圖ルハ人情ノ常ナルカ故ニ後見人カ被後見人ノ財産ヲ讓受クルコトヲ得ルトスルトキハ低價ニ之ヲ讓受クルノ虞アルノミナラス或ハ被後見人ノ爲メニ保存スヘキ財産ヲモ讓受クル等被後見人ノ損害トナルヘキ弊害ヲ生スルニ至ル又被後見人ニ對スル第三者ノ權利例之ハ第三者カ被後見人ニ對シテ有スル債權ヲ讓受クルコトヲ得ルモノトスルトキハ後見人ハ其債權ニ付テハ爭アル場合ニモ之ヲキ如クシ被後見人ノ爲メニ利益ト爲ルヘキ證據物ハ總テ之ヲ湮滅シ以テ自己ノ利益ヲ圖ルノ虞アリ故ニ此等ノコトハ共ニ避クヘキモノニシテ諸國ノ立法例ニ於テハ往々全ク此行爲ヲ禁スルモノアリ人事編ノ如キモ後見人ハ未成年者ノ財産又ハ未成年者ニ對スル權利ヲ讓受クルコトヲ得ストシ解釋上其行爲ハ全ク無効トナシタレトモ本法ハ之ヲ絶對ニ禁止セスシテ此場合ニ於テ被後見人ハ其讓渡ヲ取消スコトヲ得ルモノトセリ蓋シ後見人カ被後見人ノ財産又ハ之ニ對スル權利ヲ讓受クタル場合カ必スシモ被後見人

ノ不利益トナルモノニ非スシテ却テ往々其利益ト爲ルコトモアル可クレハ之ヲ絶對ニ禁止スヘキ必要ナキカ故ニ以上ノ如ク取消スコトヲ得ルニ止メタルナリ

本條ノ規定ハ後見人カ讓受行爲ヲ爲シタル場合即チ契約ニ因リテ被後見人ノ財産又ハ之ニ對スル權利ヲ讓受クタル場合ニノミ適用スヘキモノニシテ後見人カ相續遺贈等ニ因リテ其權利ヲ取得シタルトキハ其行爲ヲキカ故ニ被後見人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得サルヤ論ヲ俟タサルナリ

本條ノ取消權ハ無能力者ノ行爲ノ取消ト其性質ヲ同フスルカ故ニ無能力者ノ行爲ニ關スル第十九條ノ規定ヲ此場合ニ準用スルコト、スルハ至當ナリ故ニ後見人ハ被後見人カ能力者ト爲リタル後之ニ對シ又ハ其能力者ト爲ル以前ニ於テハ其後任後見人ニ對シテ一ヶ月以上ノ期間内ニ其取消スコトヲ得ヘキ行爲ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告シ其期間内ニ確答ヲ爲サルトキハ之ヲ追認シタルモノト見做ス又第二百二十一條乃至第二百二十六條ニ掲ケタル取消權ニ關スル一般ノ規定即チ其取消ノ效力、其行爲ノ追認、取消及追認ノ方法、

取消權ノ消滅時効ノ如キハ總ヘテ總則ノ規定ニ依ルヘキハ當然ナルカ故ニ之ニ依ルヘキコト、シタリ

(二) 第九百三十一條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ被後見人ノ財產ヲ賃借スルコトヲ得ス(人事編第九十六條)

後見人カ被後見人ノ財產ヲ其獨斷ニテ賃借スルコトヲ得ルモノトスルトキハ自己ノ利益ヲ圖ルカ爲メニ廉價ニ借り受クルノ虞アリ然レトモ他ノ者カ借受クルト同様若クハ之ヨリ一層被後見人ノ爲メニ利益ナル條件ヲ以テ賃借スルトキハ被後見人ノ爲メニ利益アルコトアルモ不利益ナルコトナケレハ此ノ如キ場合ニハ後見人カ賃借スルコトヲ許ルスモ可ナリ故ニ法律ハ後見人カ被後見人ノ財產ヲ賃借スルコトヲ絶對ニ禁止セシテ親族會ノ同意ヲ得可キモノトセリ

本條ニ規定スル賃借ハ不動産タルト動産タルトヲ問ハス總ヘテ之ヲ包含スルナリ人事編并ニ佛民法(第四百五十條第三項)ノ如キハ之ヲ不動産ノ賃借ニ限リタレトモ被後見人ノ動産タリトモ後見人カ其獨斷ニテ之ヲ賃借スルコトヲ得

ルモノトスルトキハ矢張り被後見人ノ爲メニ不利益タル可キヲ以テ本法ハ其範圍ヲ廣メ之ヲ財產ト爲シタルモノナリ

本條ノ規定ニ依リテ後見人カ被後見人ノ財產ヲ賃借スルトキハ後見人ハ被後見人ヲ代表セス此場合ニ於テハ被後見人トノ利益相反スルヲ以テ被後見人ヲ代表スルモノハ第九百十五條第四號ノ規定ニ依リテ後見監督人タルコト言フヲ俟タサルナリ

後見人カ任務ヲ曠シクシタル場合ニ於ケル處置(第九百三十二條) 後見人カ其任務ヲ曠シクスルトキハ親族會ハ臨時管理人ヲ選任シ後見人ノ責任ヲ以テ被後見人ノ財產ヲ管理セシムルコトヲ得(人事編第六十三條)

後見ハ公義務ニシテ其任務ヲ負擔スヘキ者カ擅ニ之ヲ避クルヲ得サルコトハ曩キニ第九百七條ニ於テ説キタルカ如シ然レトモ後見ハ其任務ニ就ク者ヲシテ作爲ノ責ヲ負ハシムルモノナレハ後見人カ其任務ヲ怠リテ之ヲ盡クサ、ル場合ニ於テハ法律上後見ハ單ニ之ヲ辭スルコトヲ得サルモノト定ムルノミニテハ未タ以テ足レリトセス尙ホ其上之ニ加フヘキ制裁ナカルヘカラス而シテ

後見人カ任務ヲ盡クサ、ルトキハ之ニ依リテ生スル損害ハ固ヨリ之ヲ賠償スヘキ責(第九百六十三條、第六百四十四條)アリト雖トモ損害賠償ハ固ト既ニ生シタル場合ノ救濟法タルニ過キサレハ損害ヲ未發ニ防キ以テ被後見人ヲ保護スルノ方法ナカルヘカラス是ニ於テ法律ハ後見人カ其任務ニ就カス又ハ一旦其任務ニ就キタル後ト雖トモ其任務ヲ曠シクスルトキハ親族會ハ臨時管理人ヲ選任シ之ヲシテ被後見人ノ財産ヲ管理セシムルコトヲ得ルモノトシテ此場合ニ於テ後見人ハ其臨時管理人ノ行爲ニ付テハ責任ヲ負フヘキモノトシタリ人事編(第六百六十三條)ハ此場合ニ後見人ハ代務者ノ管理ノ費用ヲモ負擔スヘキモノト爲シタレトモ此費用ハ何人カ管理シタリトテ必ス要スルモノナレハ是レ被後見人ノ財産中ヨリ支辨ス可キモノトシテ後見人ノ負擔ト爲サ、リシ所以ナリ而シテ外國ニ於テモ此ノ如キ場合ニ後見人ヲシテ費用ヲ負擔セシムルモノアルヲ見サルナリ

法律ハ臨時管理人カ被後見人ノ財産ヲ管理スルニ當リ過失アリタルトキハ後見人其責ニ當ル可キモノト爲シタルカ故ニ其過失ヨリ生シタル損害ハ被後見

人ハ其過失者ニ對シテ請求スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ後見人ニ對シテモ請求スルコトヲ得可キナリ而シテ此場合ニ於テ後見人カ過失者タル管理人ニ對シテ其賠償ヲ請求スルコトヲ得可キハ勿論ナリ

臨時管理人ノ權限ハ被後見人ノ財産ノ管理ニ止マリ其身分上ノ事ニハ關セサルナリ例之ヘハ教育ノ方法ヲ定メ、居所ヲ指定シ又ハ懲戒ヲ爲スコト等ハ管理人ノ權限ニ非サルナリ又財産ニ關シテモ管理行爲以外ニ於テハ管理人ハ權限ヲ有セス例之ヘハ被後見人ニ代ハリテ法律行爲ヲ爲シ又ハ被後見人カ其行爲ヲ爲スニ同意ヲ與フルコトノ如キ是ナリ故ニ若シ後見人カ此等ノ事ニ關シテ其任務ヲ曠フシタルトキハ裁判所ニ請求シテ之ヲ免黜スルヨリ外アラサルナリ(第九百八條第八號)

後見人ノ擔保提供ノ義務(第九百三十三條) 親族會ハ後見人ヲシテ被後見人ノ財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得(擔保編第二百四條第一項第二號、第二百十七條、第二百二十七條)

本條ハ夫カ妻ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ必要アリト認メタルトキ其財産ノ

管理及ヒ返還ニ付キ夫ヲシテ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ規定シタル第八百三條ト其趣旨ヲ同フス蓋シ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理スルヨリ其過失又ハ故意ニ因リテ被後見人ニ損害ヲ加フ可キ危險アルヲ以テ被後見人保護ノ爲メ親族會ハ後見人ヲシテ被後見人ノ財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得ルモノト爲セリ若シ此規定ナキトキハ後見人カ管理ノ當ヲ失シ又ハ濫リニ被後見人ノ財産ヲ費消シタル場合ニ於テハ後見終了ノ後被後見人ハ後見人ヨリ其財産ノ返還ヲ受クルコト能ハスシテ損失ヲ受クルニ至ル是ヲ以テ此規定ヲ設ケタリ而シテ本法ニ於テハ此義務ヲ後見人ニ對スル定義務ト爲サスシテ親族會カ必要ト認ムル場合ニ限リ相當ノ擔保ヲ供セシム可キモノト爲シタルハ最モ實際ニ適セリ然ルニ舊民法(擔保編第二百四條)及ヒ佛民法(第一千二百一十一條)ノ如キハ被後見人ハ妻カ夫ニ對シテ法律上ノ抵當權ヲ有スルト同シク後見人ノ總不動産ノ上ニ當然抵當權ヲ有シ之ヲ登記シテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノト爲シタルトモ常ニ此ノ如クスルトキハ後見人ハ其不動産ノ融通ヲ妨ケラレ其迷惑尠ナラサルナリ殊ニ富裕ナル温厚ノ

後見人ニ對シテハ必シモ擔保ヲ供セシム可キ要アラズ又其擔保ハ法律上ノ抵當即チ不動産ニ限レルカ故ニ不動産ヲ有セサル後見人ハ擔保ヲ供セサルモ可ナルモノニシテ此ノ如キハ被後見人ノ保護トシテハ宜キヲ得サルヲ以テ本法ハ此ノ如キ場合ニ法律上ノ抵當ヲ認メスシテ必要ナル場合ニ相當ノ擔保ヲ供セシム可キモノト爲シタル所以ナリ故ニ或ハ保證人ヲ立テシメ或ハ有價證券ヲ供セシメ或ハ抵當權若クハ質權ヲ設定セシムルコトヲ得可キナリ
 戶主權及ヒ親權ノ代理行使(第九百三十四條) 被後見人カ戶主ナルトキハ後見人ハ之ニ代ハリテ其權利ヲ行フ但家族ヲ離籍シ其復籍ヲ拒ミ又ハ家族カ分家ヲ爲シ若クハ廢絶家ヲ再興スルコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

後見人ハ未成年者ニ代ハリテ親權ヲ行フ但第九百十七條乃至第九百二十一條及ヒ前十條ノ規定ヲ準用ス(人事編第二百五十七條)
 被後見人カ戶主ナル場合ニ於テ後見ニ付セラル、者ニシテ自カラ戶主權ヲ行フコトヲ得トスルハ甚タ道理ニ適セサルヲ以テ此場合ニ於テハ後見人代ハリ

テ其戸主權ヲ行フコト、爲シタリ而シテ父又ハ母カ未成年ノ子ニ代ハリテ戸主權ヲ行フ場合(第八百九十五條)ニ於テハ父又ハ母ニ對シテ別ニ戸主權ニ制限ヲ設ケサレトモ後見人カ代ハリテ戸主權ヲ行フ場合ニハ(一)家族ヲ離籍シ(第七百四十九條第三項)第七百五十條第二項若クハ其復籍ヲ拒ム(第七百五十條第二項)トキ(二)家族ノ分家若クハ廢絶家再興ニ同意スルトキ(第七百四十三條)ハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノト爲セリ蓋シ此等ノ場合ハ孰レモ事重大ニ涉ルカ故ニ之ヲ後見人ノ獨斷ニ委セサルコト、爲シタルナリ

未成年者カ親ナル場合ニ於テ自身親權ニ服シナカラ其子ニ對シテ親權ヲ行フコトヲ得ルモノトスルハ戸主權ニ於ケルカ如ク道理ニ適セサルヲ以テ此場合ニ於テハ其未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ父又ハ母カ之ニ代ハリテ親權ヲ行フコト、爲シタレトモ(第八百九十五條)其未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキ場合ニ於テモ自身後見ニ付セラレ乍ラ其子ニ對シテ親權ヲ行フコトヲ得ルトスルハ同シク不道理ナルヲ以テ此場合ニハ後見人代ハリテ親權ヲ行フコト、爲シタリ而シテ後見人カ親權ヲ行フ場合ハ親カ自カラ之ヲ行フ場合ト異ナリテ

種々ノ制限ヲ設ケタリ何ントナレハ後見人カ未成年者ニ代ハリテ親權ヲ行フ場合ニ於テハ未成年者ノ爲メニ其任務ヲ行フ場合ニ於ケルヨリ一層大ナル信任ヲ爲ス可キ謂ハレナキヲ以テナリ故ニ其後見ノ任務ニ付キ設ケタル制限ハ總ヘテ茲ニ準用スルコト、爲シタルナリ

財産ノミニ關スル後見人ノ權限(第九百三十五條) 親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサル場合ニ於テハ後見人ハ財産ニ關スル權限ノミヲ有ス

親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其子ノ財産ヲ危クシタルトキハ其管理權ヲ失フコトアリ(第八百九十七條)又親權ヲ行フ母ハ財産ノ管理ヲ辞スルコトヲ得ル(第八百九十九條)モノニシテ此場合ニハ第九百條第一號ニ依リ後見ノ開始スルコトハ曩キニ説キタリ而シテ此場合ニ於ケル後見人ハ他ノ場合ニ於ケルモノト其權限同シキモノニ非ス普通ノ場合ニ於ケル後見人ハ以上説キタルカ如ク被後見人ノ財産并ニ身上ニ關スル事項ニ付キ權限ヲ有スト雖モ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサル場合ニ於テ後見ノ開始シタルトキハ被後見人ノ身上ニ關スル事項ニ付テハ親權ハ仍ホ完全ニ行ハル、カ故ニ其權限ヲ後見

人ニ與フ可キ必要アラサルナリ若シ此場合ニ於テ後見人ニモ被後見人ノ身上ニ對スル權限ヲ與フルモノトスルトキハ權力ニ途ニ分カレ却テ被後見人ノ不利益タル可キヲ以テ後見人ニハ被後見人ノ身上ニ對スル權限ヲ與ヘス單ニ其財產ニ關スル權限ノミヲ與ヘタル所以ナリ

本條ニ於テ後見人カ有スル權限ハ財產ノ管理ニ止マラス尙ホ其外財產ニ關スル行爲ニ付キ被後見人ヲ代表シ及ヒ之ニ同意ヲ與フル權限ヲモ包含スルモノトス故ニ法文ニハ管理權ノミヲ有スト言ハスシテ廣ク財產ニ關スル權限ノミヲ有スト言ヘリ

委任及ヒ親權ニ關スル規定ノ準用(第九百三十六條) 第六百四十四條、第八百八十七條、第八百八十九條第二項及ヒ第八百九十二條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス(人事編第八十六條、第九十七條、第二百一條、財產編第三百十九條第一項、第五百四十七條第一項)

後見人ニハ委任及ヒ親權ニ關スル規定ヲ準用ス可キ必要アルヲ以テ茲ニ之ヲ準用スルコト、爲シタリ

第一、第六百四十四條ノ準用 此條ハ委任ニ關スル規定ニシテ受任者カ委任事務ヲ處理スル場合ニ於ケル注意ノ程度ヲ定メタルモノナリ受任者ハ委任者ニ對シテ其受任ノ事務ヲ處理スルニ當リテハ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲ス可キモノト爲セリ而シテ後見人モ委任ノ場合ト同シク被後見人ノ爲メニ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ後見ノ事務ヲ處理セサル可カラス後見人カ被後見人ノ爲メニ後見ノ事務ヲ處理スルハ親權者ノ子ニ於ケル、夫ノ妻ニ於ケルカ如キ間柄ニ非ス此等親子及ヒ夫婦間ニ在リテハ曩キニモ説キタルカ如ク親又ハ夫カ子又ハ妻ノ爲メニ事務ヲ處理スルトキ之ニ普通ノ場合ノ如ク充分ナル責任ヲ負ハシムルハ甚タ酷ニ失スルカ故ニ之ヲ恕シテ特ニ自己ノ財產ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲スヲ以テ足レリト爲シタレトモ是レ寧ロ普通ノ場合ニ於ケル例外タリ然ルニ後見人ニハ毫モ其責任ヲ輕クスヘキ理由存セサルヲ以テ之ヲ受任者ノ責任ト同一ニ爲シタルナリ被後見人ノ親族ニシテ其後見人タル者アル可ケレトモ其間ハ親子及ヒ夫婦ノ如キ近親ニハ非サルナリ而シテ他人ノ爲メニ事務ノ管理ヲ爲ス義務アル者ハ原則トシテ善良ナル管理者ノ注意佛民法ニ

於テハ之ヲ善良ナル家父ノ注意ト稱スヲ爲ス可キコトハ近來ノ法律ノ一般ニ
 是認スル所ナレハ本法ニ於テモ之ヲ採用シタルナリ
 第二、第八百八十七條ノ準用 此條ニハ親權ヲ行フ母カ第八百八十六條ノ規
 定ニ違反シテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行爲ハ子又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ
 取消スコトヲ得トアリテ親權ヲ行フ母カ越權ニテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行
 爲ハ取消スコトヲ得ル旨ヲ規定シタルモノニシテ之ヲ後見人ニ準用スルカ故
 ニ後見人カ第九百二十九條ノ規定ニ違反シテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行爲ハ
 被後見人又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得ヘシ其他後見人カ親族
 會ノ同意ヲ得ルニ非レハ爲スコトヲ得サル行爲ヲ其獨斷ニテ爲シタル場合ハ
 孰レモ取消スコトヲ得可シ而シテ此場合ニ於テハ無能力者ノ行爲ノ取消ニ關
 ネル規定(第二百一十一條乃至第二百二十六條)ヲ準用スヘキモノトス
 第三、第八百八十九條第二項ノ準用 此條ニハ母ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シ
 タル行爲ニ付テモ其責ヲ免ル、コトヲ得ス但母ニ過失ナカリシトキハ此限ニ
 在ラストアリテ親權ヲ行フ母ノ責任ヲ規定シタルモノニシテ之ヲ後見人ニ準

用スルコト、爲シタルカ故ニ後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ付
 テハ其同意ヲ得タルノ故ヲ以テ之カ責任ヲ免ル、コトヲ得サルモノトス而シ
 テ此場合ニ於テモ親權ヲ行フ母ト同シク後見人ニ過失ナカリシコトヲ證明ス
 ルトキハ其責任ヲ免ル、コトヲ得可キナリ
 第四、第八百九十二條ノ準用 此條ハ無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ親
 權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シタル場合ニ關スル
 規定ニシテ之ヲ後見人ニ準用スルコト、爲シタルカ故ニ第三者カ無償ニテ被
 後見人ニ財産ヲ與ヘ而シテ其管理ヲ後見人ニ爲サシメサル意思ヲ表示シタル
 トキハ其財産ノ管理ハ後見人ニ屬セスシテ別ニ其第三者ノ指定シタル管理人
 又ハ第三者カ之ヲ指定セサリシトキハ被後見人其親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ
 テ裁判所カ選任シタル管理人ヲシテ之ヲ管理セシムルモノトス而シテ又第三
 者カ管理人ヲ指定セシトキト雖モ其管理人ノ權限カ消滅シ又ハ之ヲ改任スル
 必要アル場合ニ於テ第三者カ更ラニ管理人ヲ指定セサルトキモ亦同シク裁判
 所カ選任シタル管理者ヲシテ管理セシムルモノトス

第四節 後見ノ終了

本節ニ於テハ後見カ終了シタル場合ニ於ケル後見人ノ義務及ヒ管理ヨリ生シタル債權ノ特別時効ヲ規定ス

後見終了ノ原因ハ被後見人ニ出ツルモノアリ後見人ニ出ツルモノアリ其被後見人ニ出ツル場合ハ第一死亡シタルトキ第二成年ニ達シ若クハ禁治産ノ宣告ノ取消サレタルトキ第三他人ノ養子ト爲リタルカ爲メ養親カ親權ヲ行フトキ第四戸主カ後見人タル場合ニ於テ被後見人カ其家ヲ去リタルトキ是レナリ又其後見人ニ出ツル場合ハ第一死亡シタルトキ第二辭任シタルトキ第三免黜其他資格ノ欠缺シタルトキ第四第九百二條第一項ノ場合ニ於テ父又ハ母カ家ヲ去リタルトキ第五第九百三條ノ場合ニ於テ戸主カ隱居ヲ爲シタルトキ是ナリ而シテ其原因ノ被後見人ニ出ツル場合ノ第一乃至第三ハ後見終了ノ絶対ナルモノニシテ復タ後見人アルコトナシ然レトモ其他ノ場合ニ於テハ後見ノ終了ハ絶対ナルモノニ非サレハ總ヘテ後任ノ後見人アル可キモノトス

計算ノ義務(第九百三十七條) 後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人又ハ其相續人ハ二个月内ニ其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得(人事編第二百五條、第二百七條)

他人ノ財産ヲ管理スルトキハ何人ト雖モ其計算ヲ爲サ、ル可カラサルヤ言ヲ俟タサル所ニシテ既ニ説キタルカ如ク親權者ニ付テモ其規定アリ(第八百九十九條)故ニ後見人又ハ其相續人ニモ此義務ヲ負ハシメタルモノニシテ固ヨリ當然ノ規定ナリ

後見人(指定又ハ選定ノモノニ限ル)ハ第九百二十八條ノ規定ニ從ヒ毎年少クトモ一回被後見人ノ財産ノ狀況ヲ親族會ニ報告スル義務アレトモ計算ノ義務ハ之ト異ナリテ指定又ハ選定後見人ニ限ラス如何ナル後見人ト雖モ總ヘテ其義務ヲ負フモノトス而シテ管理ノ計算ハ後見終了ノ時ヨリ二个月内ヲ以テ原則トス然レトモ被後見人ニ財産夥多アルカ其他正當ノ理由ニテ此期間内ニ計算ヲ爲スコト能ハサルカ如キトキハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得又其反對ニ於テ容易ニ計算ヲ爲スコトヲ得可クシテ二ヶ月ヲ要セスト認メタルトキ

ハ親族會ハ之ヲ短縮スルコトヲ得ルモノト爲シタリ
 後見ノ職務ハ後見人ノ一身ニ關スルモノナルカ故ニ後見人カ死亡シタルカ如
 キ場合ニ於テ其職務ハ之ヲ相續人ニ承繼セサルヲ原則トスレトモ事務引繼ノ
 場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ被後見人其相續人又ハ法定代理人カ自カラ
 其事務ヲ處理スルニ至ル迄必要ナル處分ヲ爲シ又ハ後見ノ任務ヲ繼續セサル
 可カラサルコト(第九百四十一條)ト本條ニ規定スル管理ノ計算ヲ爲スコト、ハ
 後見人ノ相續人ニ承繼スルモノトス而シテ此等ノ事ハ被後見人ノ身分ニ關セ
 スシテ其財產權ニ係ルモノナレハ之ヲ後見人ノ相續人ニ承繼スルコト、爲ス
 ハ當然ナリ而シテ此義務ヲ相續人ニ承繼セシメサルコト、スルトキハ後見人
 カ死亡シタル場合ニ於テハ被後見人ハ常ニ損失ヲ被ムル可クレハナリ
 後見人ノ計算ニ關スル條件(第九百三十八條) 後見ノ計算ハ後見監督人ノ立會
 ヲ以テ之ヲ爲ス
 後見人ノ更迭アリタル場合ニ於テハ後見ノ計算ハ親族會ノ認可ヲ得ルコトヲ
 要ス(人事編第二百六條)

後見人カ計算ヲ爲スコキ場合ニ於テ之ヲ其一己ニ於テ爲スヘキモノトスルト
 キハ其計算正確ナラサル可ク然ルトキハ他ノ保護規定アルトモ被後見人ノ爲
 メニ殆ント何等ノ用ヲ爲サルニ至ル可シ故ニ後見ノ計算ハ必ス後見監督人
 ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スコキコト、爲シタリ而シテ此場合ニ於テ被後見人其相
 續人後任ノ法定代理人ヲ立會ハサシメスシテ後見監督人ノ立會ヲ以テスルコ
 ト、爲シタルハ他ナシ此等ノ人ハ被後見人ノ財產ノ實況ニ通曉セサルヲ以テ
 其計算ノ果シテ正確ナルヤ否ヤヲ知ルコト極メテ難クレトモ後見監督人ハ常
 ニ被後見人ノ財產ノ實況ヲ知悉スヘケレハ從テ其計算ノ正否ヲ分別スルコト
 ヲ得可クレハナリ
 後見人ノ更迭アリタルトキハ第九百十三條ノ規定ニ依リテ後見監督人モ改選
 セラル可キカ此場合ニ於テハ後見ノ計算ニ立會フ後見監督人ハ前任者ナルヤ
 將タ後任者ナルヤハ別ニ明文ヲ以テ之ヲ定メスト雖トモ此場合ニ於テハ前任
 後見監督人ノ立會ヲ以テスヘキモノトス何ントナレハ前任後見監督人ニ非サ
 レハ財產ノ實況ヲ知悉セサルモノニシテ且後見監督人ハ後見人ノ管理ノ計算

ヲ終ル迄ハ其任務未タ完カラサルモノナレハナリ
 本條ノ條件ハ絶對ノ條件ニシテ若シ之ヲ缺キタルトキ即チ後見監督人ノ立會
 ナクシテ爲シタル計算ハ計算トシテ效力ヲ有セス故ニ此場合ニ於テハ前任後
 見人又ハ其相續人ハ更ニ後見監督人ノ立會ヲ以テ計算ヲ爲サ、ルヲ得ス
 後見カ被後見人ノ爲メニ終了シ後任後見人ノアラサル場合ニ於テハ後見人カ
 後見監督人ノ立會ヲ以テ爲シタル計算ハ被後見人自身又ハ其相續人ニ對シテ
 爲スモノナルカ故ニ本人又ハ其相續人ニ於テ之ヲ審査スルヲ以テ其計算ニシ
 テ正確ナラサルトキハ之カ救濟ヲ求ムルコトヲ得可シ是ヲ以テ此場合ニハ別
 ニ後見ノ計算ハ親族會ノ認可ヲ得ルノ必要ナキモノトス之ニ反シテ後見人ノ
 更迭アリタル場合即チ被後見人ノ爲メ後見未タ終了セス後任後見人カ前任後
 見人ニ交替シタル場合ニ於テ前任後見人カ爲ス計算ハ被後見人自身又ハ其相
 續人ニ對シテ爲スモノニ非スシテ後見事務引續ノ爲メ後任後見人ニ對シテ爲
 スモノナルカ故ニ此場合ニ於テハ前後ノ後見人共謀スルトキハ私曲ヲ爲スコ
 トヲ得可キ虞アルヲ以テ計算ノ審査ハ後任後見人ノミニ委セスシテ親族會ノ

認可ヲ得ルコトヲ要スルモノトシテ被後見人ノ利益ヲ保護セリ
 計算終了前ニ成年ニ達シタル者カ後見人ニ對シテ爲シタル契約及ヒ單獨行爲
 ノ效力(第九百三十九條) 未成年者カ成年ニ達シタル後後見ノ計算ノ終了前ニ
 其者ト後見人又ハ其相續人トノ間ニ爲シタル契約ハ其者ニ於テ之ヲ取消スコ
 トヲ得其者カ後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲亦同シ
 第十九條及ヒ第二百一十一條乃至第二百二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用
 ス(人事編第二百八條)

未成年者カ僅カニ成年ニ達シタル際ニ在リテハ其智能未タ完カラス而シテ久
 シク後見人ノ羈絆ノ下ニ在リシ未成年者ハ之ヲ脱シタル後ニ在リテモ其威嚴
 ニ制セラル、ハ人情ノ免レサル所又久シク後見ニ付セラレ自カラ其財産ヲ自
 由ニスルコト能ハサリシ者カ成年ニ達シテ遽カニ其財産ヲ利用シ又ハ浪費セ
 シト欲スル者多キハ是亦人情ノ免レサル所ナリ故ニ未成年者カ成年ニ達シタ
 ル際ニ在リテハ金錢其他ノ財産ノ引渡ヲ受クント欲スル念切ナルヨリ後見人
 ニ對シテ自己ニ如何ナル不利益ナル契約ヲ爲スヤモ斗リ知ル可カラサルナリ